

特117

84



始





特117  
84



第一、	會則並ニ細則
第二、	出席會員
第三、	研究發表事項
第四、	協議題ニ對スル意見

目次

大正  
13.7.16  
内交



## 第一、會則並ニ細則

### ◎茨城縣小學校聯合教育研究會々則

- 第一條 本會ハ茨城縣小學校聯合教育研究會ト稱シ、茨城縣師範學校附屬小學校及ヒ茨城縣女子師範學校附屬小學校之ヲ主催ス。
- 第二條 本會ハ小學校及ヒ之ニ關聯スル教育全般ニ關シ、本縣ニ適切ナル研究ヲナスヲ以テ目的トス。
- 第三條 本會ハ茨城縣師範學校、茨城縣女子師範學校及ヒ茨城縣都市小學校ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス。
- 第四條 本會ハ毎年凡ソ二回茨城縣師範學校附屬小學校又ハ茨城縣女子師範學校附屬小學校ニ於テ之ヲ開ク其實施ニ關スル細則ハ其都度主催校ニ於テ之ヲ定メ發表スルモノトス。
- 第五條 會員ハ各都市内ノ部會(水戸市ハ各校)ヨリ各一名ヲ選出スルヲ本體トス。
- 但シ本縣ニ於テ部會ト稱スルハ、郡教育會員ヲ直接數個ノ團體ニ分チタルモノヲ指ス。
- 第六條 各都市ノ研究發表者員數ハ其ノ都度細則ヲ以テ之ヲ定ム。
- 第七條 研究發表物ハ研究録トシテ發行シ、會期前會員ニ配附ス。
- 第八條 研究事業ハ都市ノ意見ヲ斟酌シテ前年度中ニ主催校之ヲ決定發表スルモノトス。
- 第九條 本會ニ關スル事項ハ會場タル主催校ニ於テ之ヲ處理ス。

### ◎第二十三回茨城縣小學校聯合教育研究會細則

#### 一、研究題目 「學習訓練」

(選題ノ理由)

兒童ノ學習ヲ有効ナラシムルコトハ、實際教育上ノ重要問題ニシテ、學習訓練ノ徹底ハ其ノ最モ有力ナ

ル方途タルヲ信ズ而シテ學習訓練ノ徹底ハ、延イテ一般訓練ノ向上ニモ實スルコト大ナルヘク、從ツテ學習訓練ノ研究ハ現下教育上ノ緊要問題ニシテ、實際家齊シク研究ヲ遂グベキ必要アリト認ム。コレ本問題ヲ提出シタル所以ナリ。

會員ノ研究發表ハ、本題ニ對スル一部分ヲ採ルモ、全般ニ亘リテ論及スルモ、或ハ又既ニ實施シテ成果ヲ見タルモノヲ述ブルモ、乃至今後ニ實施セントスルモノヲ以テスルモ勿論差支ナキモノトス。但シ此ノ種ノ研究ニ於テハ、勢ヒ教育思潮ノ論及ニ亘ルコトアランモ、結局、一片ノ理論ニ終ルコトナクシテ、若實穩健ナル具体的方案ノ建設ニ努力サレンコトヲ望ム。

二、協議題 學習ヲ最モ經濟的ナラシムル方案如何  
(題意ノ説明)

時代ノ進歩ハ文化ノ内容ヲ豊富ナラシメ、從ツテ其ノ收得容易ノ業ニアラス。コレ教育上學習經濟ヲ講ズル必要ヲ叫バシムル所以ナリ。乃チ兒童ヲシテ限ラレタル時間内ニ於テ、最良最多ノ收得ヲナサシムルニハ、如何ナル方案ニヨルヘキカノ具体案ヲ研究セントスルモノナリ。

三、會期ハ大正十三年七月三日ヨリ三日間トス。

四、會場ハ茨城縣女子師範學校附屬小學校トス。

五、事業豫定

第一日 (七月三日)

自午前八時 附屬小學校實地授業參觀  
至全 十時

自午前十時 前教授ノ批評研究  
至全十一時

自午前十一時 研究發表並ニ協議題討議  
至午後三時

第二日 (七月四日)

自午前八時 研究發表並ニ協議題討議  
至午後三時

第三日 (七月五日)

自午前八時 研究發表並ニ協議題討議  
至正 午  
自午後一時 講演  
至午後三時

六、會則第五條ニヨリ選出スベキ研究會員ハ、各郡市内ノ部會(水戸市ハ各校)ヨリ各一名トシ、研究發表者ハ各郡市ヨリ一名トス。

七、研究會員及ビ研究發表者ハ、來ル五月十日迄ニ其ノ氏名ヲ主催校宛通知スベキコト。

八、研究發表者ハ、發表セントスル事項ノ題目ヲ、來ル五月廿日迄ニ主催校宛通知スベキコト。

九、研究發表者ハ、發表事項(一行廿五字詰四百行以内)並ニ協議題ニ對スル意見(發表者以外ノ會員ハ協議題ノ意見)ヲ來ル六月十日迄ニ主催校宛送附スヘキコト。

一〇、主催校ハ提出セラレタル研究物ヲ印刷ニ附シ、會期前會員ニ配布ス。

一一、研究發表ノ時間ハ、一人ニツキ十五分以内トス。

一二、聯合教育研究會開催前各郡市ハ豫メ當問題ニ就イテ研究會ヲ開キ、出席會員ハ成ルベク其ノ結果ヲ齎シ、聯合教育研究會ニ臨ムヤウセラレタキコト。

一三、代表者ハ成ルベク參考資料ヲ携帶シ、會員ノ縦覽ニ供セラレタキコト。

四八番  
四九番  
五〇番  
五一番  
五二番  
五三番  
五四番  
五五番  
五六番  
五七番  
五八番  
五九番  
六〇番  
六一番  
六二番  
六三番  
六四番  
六五番  
六六番  
六七番  
六八番  
六九番  
七〇番  
七一番  
七二番  
七三番  
七四番

我が校に於ける學習訓練の實際

學習訓練上の主要問題

全 鳥名尋常高等小學校調導  
全 谷井田尋常高等小學校校長  
眞壁郡下館尋常高等小學校調導  
全 大尋常高等小學校調導  
全 紫尾尋常高等小學校調導  
全 結城郡江川尋常小學校調導  
全 西登田尋常高等小學校調導  
全 五箇尋常高等小學校調導  
全 下結城尋常高等小學校調導  
全 磯崎郡古川女子尋常高等小學校調導  
全 七郷尋常高等小學校調導  
全 蓮井山尋常高等小學校調導  
全 北相馬郡六郷尋常高等小學校校長  
全 高須尋常高等小學校校長  
水戸市尋常高等小學校調導  
水戸市尋常高等小學校調導  
水戸市尋常小學校調導  
水戸市上市第二尋常小學校調導  
茨城縣師範學校調導  
全  
全  
全  
茨城縣女子師範學校調導  
全  
全  
茨城縣師範學校教諭  
茨城縣女子師範學校教諭

石	今	濱	高	太	大	宮	加	關	青	大	糸	嶋	六	杉	田	針	栗	福	田	柴	染	全	上	郡	飯	鈴
崎	口	野	野	田	島	田	藤	山	木	川	賀	田	木	山	邊	原	原	田	村	沼	野	野	野	郡	竹	木
恒	宮	造	直	直	福	吉	金	之	健	弘	弘	近	次	三	高	芳	之	李	三	保	忠	忠	重	忠	要	多
次	千	酒	之	之	太	太	之	之	健	弘	弘	四	次	三	高	之	之	李	三	保	忠	忠	重	忠	要	多
郎	勝	介	怡	義	章	郎	郎	助	凱	調	夫	喜	郎	郎	郎	治	介	弘	平	陽	郎	孝	郎	治	郎	郎

番號 發表事項 職名

一 番 學習私議 東茨城郡竹原尋常高等小學校校長 關氏勝男

二 番 學習訓練 西茨城郡南川根尋常高等小學校調導 中村岩吉

三 番 學習の三方面とその訓練要諦 多賀郡日立第四尋常高等小學校調導 村山英夫

四 番 私の學習訓練 行方郡津澄尋常高等小學校調導 石川利壽

五 番 郷土に即した動詞學習案 北相馬郡坂手尋常高等小學校校長 岡里又壽

六 番 自學心養成を主としたる過去三年間における學習の實際 眞壁郡下妻尋常高等小學校調導 入江福松

七 番 學習態度養成の實際 猿嶋郡靜尋常高等小學校校長 大島末吉

八 番 學習訓練に就いて 那珂郡大宮尋常高等小學校調導 波島秀吉

九 番 將來する余が讀方學習の指導 筑波郡沼前尋常高等小學校調導 高野千之秀

一〇番 我兒兒童訓練の過程 久慈郡町屋尋常高等小學校調導 谷田部謙之

一一番 學習指導案 水戸市下市尋常小學校調導 矢口長次

一二番 新治郡土浦尋常高等小學校調導 山本政太

一三番 學習訓練案 結城郡石下尋常高等小學校調導 沼尻省次

一四番 我々に於ける學習訓練 鹿島郡諏訪尋常高等小學校調導 中村健吉

一五番 我々に於ける各科指導の方針 東茨城郡石塚尋常高等小學校調導 松本正治

一六番 全 上大野尋常高等小學校調導 高崎政太

一七番 全 久野尋常高等小學校調導 久保田信

一八番 全 長岡尋常高等小學校調導 廣木信

一九番 全 西茨城郡利根尋常高等小學校調導 湖田信

二〇番 全 西那珂尋常高等小學校調導 栗崎三

二一番 全 那珂郡津澄尋常高等小學校調導 海老澤三

二二番 全 村松尋常高等小學校調導 石室喜眞

二三番 全 長倉尋常高等小學校調導 小室喜眞

二四番 全 久慈郡太田尋常高等小學校調導 川崎健四

二五番 全 佐竹尋常高等小學校調導 請訪八

二六番 全 大澤尋常小學校校長 渡邊波之

二七番 全 女子尋常高等小學校調導 木村昌

二八番 全 世喜尋常高等小學校調導 黒澤清

二九番 全 西小澤尋常高等小學校調導 舟橋拾次

三〇番 全 折橋尋常小學校校長 岡見和

三一番 全 多賀郡松岡尋常高等小學校調導 今川重

三二番 全 關南尋常高等小學校調導 滑川重

三三番 全 鹿島郡沼前尋常高等小學校調導 内川美

三四番 全 行方郡行方尋常高等小學校調導 鈴木邦

三五番 全 行方郡瀨來尋常高等小學校調導 鈴木邦

三六番 全 行方郡手賀尋常高等小學校調導 大津正

三七番 全 稻敷郡江戸時尋常高等小學校調導 武田勝

三八番 全 阿波尋常高等小學校調導 飯塚巳

三九番 全 長戸尋常高等小學校調導 中野七

四〇番 全 生板尋常高等小學校調導 坂本三

四一番 全 大谷尋常高等小學校調導 廣瀬三

四二番 全 新治郡石岡尋常高等小學校調導 萩原武

四三番 全 下大津尋常高等小學校調導 山口三

四四番 全 柿岡尋常高等小學校調導 輕部三

四五番 全 榮尋常高等小學校調導 關部三

四六番 全 筑波郡北條尋常高等小學校調導 關部三

四七番 全 鳥名尋常高等小學校調導 飯竹要

四八番 全 谷井田尋常高等小學校校長 上野儀

四九番 全 眞壁郡下館尋常高等小學校調導 金澤儀

五〇番 全 大尋常高等小學校調導 上野儀

五一番 全 紫尾尋常高等小學校調導 染野保

五二番 全 結城郡江川尋常小學校調導 柴沼保

五三番 全 西登田尋常高等小學校調導 田村孝

五四番 全 全五箇尋常高等小學校調導 福村孝

五五番 全 下結城尋常高等小學校調導 栗原芳

五六番 全 猿嶋郡古川女子尋常高等小學校調導 針原高

五七番 全 七郷尋常高等小學校調導 栗原高

五八番 全 逆井山尋常高等小學校調導 杉山平

五九番 全 北相馬郡六郷尋常高等小學校校長 六本木

六〇番 全 高須尋常高等小學校校長 嶋田近

六一番 全 水戸市尋常高等小學校調導 水戸市尋常小學校調導 糸賀弘

六二番 全 水戸市尋常小學校調導 水戸市尋常小學校調導 大川健

六三番 全 茨城縣師範學校調導 青木健

六四番 全 關山金之助 關山金之助

六五番 全 加藤吉太 加藤吉太

六六番 全 宮田福次 宮田福次

六七番 全 大島直 大島直

六八番 全 高野直 高野直

六九番 全 高野直 高野直

七〇番 全 高野直 高野直

七一番 全 高野直 高野直

七二番 全 高野直 高野直

七三番 全 高野直 高野直

七四番 全 高野直 高野直

我が校に於ける學習訓練の實際

學習訓練上の主要問題

一 番 學習私議 東茨城郡竹原尋常高等小學校校長 關氏勝男

二 番 學習訓練 西茨城郡南川根尋常高等小學校調導 中村岩吉

三 番 學習の三方面とその訓練要諦 多賀郡日立第四尋常高等小學校調導 村山英夫

四 番 私の學習訓練 行方郡津澄尋常高等小學校調導 石川利壽

五 番 郷土に即した動詞學習案 北相馬郡坂手尋常高等小學校校長 岡里又壽

六 番 自學心養成を主としたる過去三年間における學習の實際 眞壁郡下妻尋常高等小學校調導 入江福松

七 番 學習態度養成の實際 猿嶋郡靜尋常高等小學校校長 大島末吉

八 番 學習訓練に就いて 那珂郡大宮尋常高等小學校調導 波島秀吉

九 番 將來する余が讀方學習の指導 筑波郡沼前尋常高等小學校調導 高野千之秀

一〇番 我兒兒童訓練の過程 久慈郡町屋尋常高等小學校調導 谷田部謙之

一一番 學習指導案 水戸市下市尋常小學校調導 矢口長次

一二番 新治郡土浦尋常高等小學校調導 山本政太

一三番 學習訓練案 結城郡石下尋常高等小學校調導 沼尻省次

一四番 我々に於ける學習訓練 鹿島郡諏訪尋常高等小學校調導 中村健吉

一五番 我々に於ける各科指導の方針 東茨城郡石塚尋常高等小學校調導 松本正治

一六番 全 上大野尋常高等小學校調導 高崎政太

一七番 全 久野尋常高等小學校調導 久保田信

一八番 全 長岡尋常高等小學校調導 廣木信

一九番 全 西茨城郡利根尋常高等小學校調導 湖田信

二〇番 全 西那珂尋常高等小學校調導 栗崎三

二一番 全 那珂郡津澄尋常高等小學校調導 海老澤三

二二番 全 村松尋常高等小學校調導 石室喜眞

二三番 全 長倉尋常高等小學校調導 小室喜眞

二四番 全 久慈郡太田尋常高等小學校調導 川崎健四

二五番 全 佐竹尋常高等小學校調導 請訪八

二六番 全 大澤尋常小學校校長 渡邊波之

二七番 全 女子尋常高等小學校調導 木村昌

二八番 全 世喜尋常高等小學校調導 黒澤清

二九番 全 西小澤尋常高等小學校調導 舟橋拾次

三〇番 全 折橋尋常小學校校長 岡見和

三一番 全 多賀郡松岡尋常高等小學校調導 今川重

三二番 全 關南尋常高等小學校調導 滑川重

三三番 全 鹿島郡沼前尋常高等小學校調導 内川美

三四番 全 行方郡行方尋常高等小學校調導 鈴木邦

三五番 全 行方郡瀨來尋常高等小學校調導 鈴木邦

三六番 全 行方郡手賀尋常高等小學校調導 大津正

三七番 全 稻敷郡江戸時尋常高等小學校調導 武田勝

三八番 全 阿波尋常高等小學校調導 飯塚巳

三九番 全 長戸尋常高等小學校調導 中野七

四〇番 全 生板尋常高等小學校調導 坂本三

四一番 全 大谷尋常高等小學校調導 廣瀬三

四二番 全 新治郡石岡尋常高等小學校調導 萩原武

四三番 全 下大津尋常高等小學校調導 山口三

四四番 全 柿岡尋常高等小學校調導 輕部三

四五番 全 榮尋常高等小學校調導 關部三

四六番 全 筑波郡北條尋常高等小學校調導 關部三

四七番 全 鳥名尋常高等小學校調導 飯竹要

四八番 全 谷井田尋常高等小學校校長 上野儀

四九番 全 眞壁郡下館尋常高等小學校調導 金澤儀

五〇番 全 大尋常高等小學校調導 上野儀

五一番 全 紫尾尋常高等小學校調導 染野保

五二番 全 結城郡江川尋常小學校調導 柴沼保

五三番 全 西登田尋常高等小學校調導 田村孝

五四番 全 全五箇尋常高等小學校調導 福村孝

五五番 全 下結城尋常高等小學校調導 栗原芳

五六番 全 猿嶋郡古川女子尋常高等小學校調導 針原高

五七番 全 七郷尋常高等小學校調導 栗原高

五八番 全 逆井山尋常高等小學校調導 杉山平

五九番 全 北相馬郡六郷尋常高等小學校校長 六本木

六〇番 全 高須尋常高等小學校校長 嶋田近

六一番 全 水戸市尋常高等小學校調導 水戸市尋常小學校調導 糸賀弘

六二番 全 水戸市尋常小學校調導 水戸市尋常小學校調導 大川健

六三番 全 茨城縣師範學校調導 青木健

六四番 全 關山金之助 關山金之助

六五番 全 加藤吉太 加藤吉太

六六番 全 宮田福次 宮田福次

六七番 全 大島直 大島直

六八番 全 高野直 高野直

六九番 全 高野直 高野直

七〇番 全 高野直 高野直

七一番 全 高野直 高野直

七二番 全 高野直 高野直

七三番 全 高野直 高野直

七四番 全 高野直 高野直

### 第三、研究發表事項

#### 一、學 習 私 議

東茨城郡竹原尋常高等小學校長

關

勝 男

#### 緒 論

誰やらの言葉に「よい教師は少い、児童生徒に物を教へたがる教師はあつても児童生徒と共に學ばうとするやうな教師は少い」と、又學習研究の權威者として世に知られて居る木下竹次氏は「如何に教へようかと腐心するよりも如何に學習させようかと苦心せうといふのが現今漸次盛になりつゝある所の傾向である」と、いはれて居るが、さて是等の言葉はお互に何を物語つて居るのであらうか。

従来より教師は教ふべきものなりて、傳統的的精神に餘りに支配されて來た傾向がある。だから教師本位の方案をつくり、教師のみの活動を偏重して児童を全く受動の地位に立たしめた、随つて児童自らの活動を等閑に附し、児童自らの學習を輕視し、その本性を生活體驗に徹して行くといふやうな一面を忘

却してゐた嫌がある。かゝる傾向は單に教授許りではなしに、設備にも、訓練にも、學校内規にもあらはれて居る。即ち如上の事實は児童の生活の徹底的向上と児童の生命開展の理法に即し得ない教師中心主義、他律主義の教育より一步も出て居ないといふことを暗示してゐる事象ではあるまいか。

しかるに最近、生物學、兒童學、兒童研究、兒童心理學といったやうな方面の考究が益々深められてその本質が体系づけられようとしつゝあり、又實際上に於て、児童を自律的に活動させて見ると、彼等には驚異に値する偉力があるといふことが事實に於て證據立てられて來たのである。教師のつくつたタイプに當て飲めたり、徒に注入傳達することに満足が出来なくなつた。勿論、他律的活動が児童には不必要とは言はない。他律的活動は自律的活動の爲



に生命を持つてゐる。児童の本性をよみなす伸長せしめ、その生活を理想化する爲に教師は如何に努力の歩みを持続せねばならぬかといふこと、換言すれば、児童を主体として如何に學ぶべきか乃至如何に學ばしむべきかの問題、所謂學習論が高潮を説かれて来たのである。文献に徴するに該問題が教育界に注視されて来たのは十数年以來のことであらうし之が新教育の提唱と共にその範圍は廣汎に涉り、深刻にひいつて来た、しかしそれ丈研究審議すべき方面が多いではなからうか。

かうした事項に對して、自己の貧弱な思索と狭い經驗とから捻出して以下各項に就て私議して見ようと思ふ。その題目の如くにもどより私議にして或は正論を失するかも知らんが、その段は大方の諸賢の是正を乞ふ次第である。

### 學習意義論

學習と一言にしていつて居るか、さて其の意義の正容を探究吟味して見ると、概念に廣狹の差あり、立脚點に於て相違ありして一様ではない。

コルピン、ソングダイク、ヘンダーソン等は之を生

物學上から論及して經驗による有機体の行動の變化と見なして居る。ポツグマンは經驗が知識となる過程といつて居る、要するに以上は意義に廣狹の差はあるが、經驗即學習である。

或は之を心理學上から見て統覺作用となし、或は記憶と解して居る——之は學習經濟と従來の提唱の反面から見ても。

或は之を教育學上から見て教授即學習と解し、或は生活即學習と解して居る。

或は之を哲學上から大きく認識の形成であると論じて居る。今、我が國に於ける著名の人達の意義を左に記して見るならば、

一、淡路岡次郎、増田惟茂兩氏の説若波の哲學大辭典による。

廣義 廣く經驗取得の作用を含み、その作用の意識的たるを無意識的たるを問はず、苟も生物が經驗によつてその生得的傾向に基く反應の仕方を變化し、環境に順應し之を反覆することによつてその反應の仕方を固定して行く。

狹義 特に意識的に一定の知識技能を取得する作用を指す。

狹義の學習の定義に就て述ぶるならば、「意識的」と云ふ語を以て表示されたのは至極同感である。しかしながら、その一定の知識技能、取得といふ點に於て、少なからず疑義を挟まざるを得ない。之は恰も教授の目的論上に於て實質主義と形式主義とが古來論せられて居る如くに知識技能といふ實質的方面に墮する嫌ひがある、尤も児童心身の兩方面に涉つて、知識技能の不消化に苦しみ、食傷を起さしむることを恐れ、「一定」といふ限定した言葉を冠らして居るのは流石に注目がない。けれども、心身の能力練磨とか、情意の陶冶とかいふものは一体どうするのだらうか。尙、學習は單に取得のみでよいであらうか、發表、創造といつたやうなことは認めないのであらうか。

### 二、木下竹次氏説 學習理論による。

學習者自らが教師指導の下に或る整理された環境の中に在つて自ら機會を求め自ら刺激を與へ自ら目的と方法を定め社會に依據して社會的自我的

向上と社會文化の創造とを圖つて行くは用である之を評して或る人はくたぐたしい説明をして居ると云はれたが、私は此の意義観は誰にも説示なしに手取り早く了解し得ることが出来てよいと思ふ。定義として長いといふ職をうけるかも知らんが、お互實際にたつさはつて居る者から見れば、凡てを云ひつくして居り、而も平明な表現で妥當性を帯びて居る。児童を主体として教師客體となり、其處に外圍を認め、目的自由方法自由材料自由によつて文化價値の創造を圖るといふのであつて、所謂學習即教育と見て居るやうである。なんののかんのこと云つても、木下氏は學習に對してオンラインリタイである。氏は今はじめて學習を説いて居るのではない。前々任地鹿兒島でも、前任地京都でも、まだ現在の奈良でも氏の半生は學習を何て透徹してゐると云つても取へて失禮ではあるまいと思ふ。

### 三、小林佐源治氏説 學習訓練の新研究による。

廣義 總ての生物は自體の發育の爲には反應の整調をはかり環境に順應して行く。  
狹義 人間はたなる稟賦をもつてゐて、その天賦

が刺戟に順應して擴充されていく、その作用を兒童の側から見て學習と云ふのである更に云へかへれば學習とは教育教授の作用を兒童の側より見て名つけたのである。

素質の内、主として知的活動に關して天賦又は稟賦なる語を用ふることがある。形式的には素質の知的方面を平常と異常とに分け、更に異常を低能と超常とに分けて居るが、普通に天賦といへば超常に限られてゐるものである。即ち空想の豊かに記憶の確實に、悟性の明かな人が天賦のある人であると認めてゐる。そうすると本定義は知的活動をもつて學習の根柢と考へて居るらしく、尙、刺戟に順應して擴充していくことを説きながら、夫れを統整する必要をいはない。人間が萬物とちがふ處は先驗的の力があることだといふのは認めて居るが、敢へて天賦とか稟賦とかを何て説明して居るから附加したまである。前文と換言したる文句との間にも論理上少なからず異論がある、その間に餘程説明するところがなくては一足とびに行かれない譯である。

四、渡部政盛氏説 教育學術問題批判及び教育論

叢誌による

自力的に價値ある認識を形成することとなりと極めて簡潔に定義されてゐる丈それ丈内容が深遠であり難解であると思ふ。而して用語が洗練されて居るからどうしても動かすことが出来ない。随つて今假りに他の言葉を置き換へて見ると、此の定義に論理上矛盾を來す、確かに隙間のない言ひ方である。お互實際家から懇求するならば、平易にして誰もが体得しうるものであるにこしたことはない。しかし之は望むのが無理なのかも知れぬ。「自力的」と「價値化」とに就て、かなりの説明をきかすば容易にその内容を會得することが出来ない。

五、千葉命吉氏説 創造教育の理論と實際による。

學習は研究の相談である。その内容は 援助、指導、庇護、相談、相談は既に自發的のものであるとせば、學習そのものは既に自發的であらねばならぬ。

「研究の相談」と極めて通俗的な表説をして居るがさて研究とは何かと反問するならば、夫れは「よく受容にあらず把任にあらずして收得体得まで到達するものが學習である。それば自ら働きてなすべきものではあるが、反面教授は兒童の自發活動を尊重して知識技能の建設構成を努めしむることを忘れてはならぬと斷つておく。かう學習と教授とを關係づけて兒童を主体として自發的に飽くまで望むならば要を得たものであらうと思ふのである。

之によつて之を觀れば、カントの心理學を基礎としてゐる説論は學習とふ概念を極めて狹義に解してゐて所謂近時高潮力説されて居る新教育の要求とは合致し得ない。随つてその學習内容を示して居ない生物は本能上から將又遺傳的影響上からして、刺戟に對して反應するといふ力があるとしても、よりよき環境を與へるものがなければならぬ。それは教授である。教授即學習と見てもその教授なるものは解釋の如何によつては相即し得ない場合があるのは勿論、却つて齟齬を來す。今之を狹義の教授とするならば、夫れは學習に包含されべきものであつて、非創造的の分子が多い。學習は極めて創造的のものであるにも拘らず矛盾を來すに至つては考慮せねば

考へてよく行ふ態度」だといふ。更に「問題の發見構成解決のことだ」といはれて居る。教師中心でもなく兒童中心でもなく實に問題中心主義である。教育は一定の年月間に兒童の個性に即して理想的完成を期すべく努力せねばならぬ。その理想を一体何處に認めるかが疑問である。陶冶理想を認めないといふことば危険を惹起する所以ではなからうか。學習は決して問題を發見して構成解決していくといふ所謂創造力の爲にばかり存するのではあるまい。模倣の爲の學習とそれではなんと解すが收得の方面はどうするのであらうか。

六、乙竹岩造氏説教育學による

學習は單に教師より授けられる所を被動的に受容するばかりでなしに、子弟自ら働きて之を收得することを努めねばならぬ。又音に授けられたる事項を把住するのみに止まらずに、必ず之を体得しなければならぬ。加之、知識と技能とは密接に關係すべきものなるを以て教授は總じて子弟の自發活動を重んじ、知識技能の建設構成を努めしむることを忘れてはならぬ。

ならん。故に教授をして、児童の自發活動の分野を大ならしめ、自我意識の向上並に確立を圖つて生活を善化し眞化し美化し得るものならば、即ち學習の意義は成立するであらう。

個体が經驗を習得する全過程、經驗により得られる有機体の變化である、つまり經驗即學習と論じて居るが、さてこの經驗とは何を意味するか、假に自己の自己以外より收得する事柄の總稱とするならば内容の眞偽、美醜、善惡正邪も混入して居るべきである。不純の内容を以て目的的活動とすることは生命の價値ある發展を阻止し無限の被滅を招致するものである。一歩進めて認識の材料としての價値ある經驗及び認識の原子としての價値ある經驗であるとすれば、夫れは力強いものであらう。

更に理想主義によれば、自ら文化價値を構成する作用であると云ふ。吾々の生活は文化價値をまつて始めて意義ある生活として是認される。單なる經驗の蓄積なる有機体としての生活活動では意味がない。飽く迄も人類としての生活の獨自性を發揮せねばならぬ。其處にお互の使命があるのだ。

の創造であり、自我の實現であるといふ教育の目的に歸着したのである。自我の實現とは眞即ち科學善即ち道德美即ち藝術の文化内容が吾人の自我意識の知的情的活動によつて認識されたものが理論徳性靈賞である。更に之が自我化されて實現されたものが技術德行創作である。繰返していふ學習とは教師指導の下に於ける自我の實現であり、文化の自我化であるといひたい。

### 學習 動機 論

モチベーション、モチベーションの語は新教育上の合言葉として、現今の教育界に盛に唱導されてゐる、積極的の兒童の學習活動を旺盛ならしめる爲には、どうしても學習の動機をつくらねばならぬ。如何に學ぶべきか」と先づ出發するその刹那に於て、兒童がなすべき仕事と求める目的との關係を合一させるものがなければならぬ。故に學校の全作業を兒童の經驗、兒童の疑問、兒童の問題、兒童の解決、兒童の欲求に關係させて有意義有目的たらしむる爲には動機の作用が必要である。その動機なるものをどう解して居るか。

而して宇宙は無限動であり萬有の真相は永久流轉である。故に絶えず向上進化創造發展の過程を永久に印刷していく。人間はその過程の一點を否過去現在未來に跨つて一點を占有して居るのにすぎない。然れども人生動は時々刻々神祕の偉大なる力に抱擁されて大宇宙の無限動と交響樂を奏する。其處に根基を同じうし名稱を異にして、意識、自覺、自主、自發、自力、自由が躍動して居る。絶えず時と處とを異にして人生の神祕が無限の間にひらめく。そのひらめき、その躍動の連續發展が文化の收得創造の生活である。人間の眞理の見方は價値である。價値から人生動を見れば創造的進化が産れる。夫れが自我の内容であり個の本質であり、その無限動が自我の實現であり個の生長伸展である。そうして現實を超越して理想に向つて精進努力の歩みを續けようとする。

かうなつてくると、熱したる全自我の活動は自づと猛烈さを増大し、眞剣味は層一層とその度を深めて、小にしては自己更改があり、大にしては文化價値の創造が認められる。依つて結局學習は文化價値

一、モンテッソーリの自動教育の如く學習本能衝動を以て動機としようとする。極めて兒童の自然に接近した動機論であるが、人は生物としてその生存を完うする爲に其の生存する環境の知識及び之に處する技能を要するのは必然であつて避くることの出来ない要求である。模倣言語遊戲好奇心等は随つて如上の意義からして有意的教授以前に於て兒童が知識技能を學習する原因となり且つ方便となるものである。是等の適應本能は直接に學習作用を助成するものではあるが、夫れは飽く迄も自然であつて、兒童は如何なるものに對しても必ずかうした本能の力を起すとは豫測し難いことであらう。

二、汎愛派エヌイタ派等によつて見られたるが如く、功利的見地に立つて動機を作成しようとする之は賞品名稱讚褒等を手段とする。目的の爲には手段を擇ばずて人語があるが、過去否現在に於ても痛く非難の起り勝な程それ大通俗化した問題である。一時の氣やすりの安價な獎勵を以てしては、極めて外面的であり、内心

の運動は覺えない外部的緊張を現出して本質的の更改を認めない。却つて卑屈の情をかもし物質的に墮落せしむる動因をつくるものであるともいひ得る。故に或る人は、之は一の刺戟であつて動機ではないと。

内部的の要求として根本的に起らねば理想への活動の爲には力強さを意味しないであらう。

三、義務の概念を以て動機となさしめようとするものである。自然性の濃厚な面も清淨無垢な兒童として義務責任といふような觀念に従屬せしめて行かうとするのは、餘りに大人視した行き方ではあるまいが、生活準備の爲の教育にわざはひされてゐる嫌ひがある。義務といふことは如何にも相對的な人爲的な意味が自然と喚起されて深く根柢から自發的に活動する氣分が薄弱のやうに思惟される。

四、必要感を以て動機を形成しようとする。人生は絶えず快と不快満足と不満足充足缺乏といふ二元の高麗に翻弄されて居る。その間に立つて生命活動により價値をらしむべく發奮するの

存することになる。元來、事物及び思想に就て興味つけるといふことは自己と對象とを解離することであつて、その結果努力の分割となり尋求の斷續となり、努力の浪費に及ぶものである。六、努力を以て動機にしようとする。興味の敵として見られてゐるが決してそうではない。自我と對象との合一化をするにも、目的と手段との間隙を除去して全我的活動量にして、物心一如の境地に到達する爲にも、努力を要するは當然であり必然である。活動は努力によつて完成されるものであらう。

以上動機の要素も云ふべきものに就て思考したのであるが、人によつてその中の二點を要求したり一點に歸結したりして居るが、先づ主要なる例示をするならば、佐々木秀一氏は學習精神を二分して學習動機學習努力とし學習動機を更に二分して興味と必要とにして置く。ヘルマン教授は衝動的動機間接的興味陶冶的興味と三つに分類して置く。チャータースは興味必要の問題の三者をあげて動機の凡ての形式であるとして居る。

である。而して活動夫れ自身は理想への精進過程の方途ではあるか、不快を快とし、快はより快ならしめ、缺乏に不満を覺えつゝ、充足へと必要を感じてする。けれども理想樹立の如何によつては必要に有限無限の差別を見出し、其處に深淺の座合を示現す。必要は慾望充足に動もすれば墮する憾みがないものであらうか。

五、興味を以て動機としようとする。興味は射出的活動的推進的客觀的個人的である。人間と材料即ち關與せる事物及び人間の行動の結果との距離を合同化しようとする。故にある事實及び觀念に對して興味を確立するならば、兒童は夫れ等の物的心的現象を支配すべく自己の勢力を傾倒するものである。單に之を面白味といふ意義から動機とするならば、夫れは極めて低級であり卑俗化するものである。又兒童の自發的顯現をまたなくても教師の努力により教材の具體化をなし方法の變化を巧妙にして之を惹起するものとするならば、所謂興味づけるといふことに相當するから目的活動と手段とに甚しい間隙が

學習本能といひ、興味といひ、努力といひ、義務といひ、詮じて之を見れば學習の動機は努力と興味との二點に歸結せられ、更に大きくして自我の自覺に抱擁されると思ふ。而して、努力にしる、興味にしる、共に外部的對象目的を豫想して居ることは共通である。即ち共に自己以外に目的及び對象をおいて居る。個人が對象に推進的活動を採り自己を同一化する時は絶えず興味と努力は牽制して活動の完成へと急ぐ努力と興味ともに活動の進路を同じうし連絡を保持する。その進路の出發的と終焉點とに就て自力的に永續的に活動をする處に眞に價値を見出すものである。其處に意志及び目的があつて活動の完成を期する。故に努力と興味とは相補合し、比較的盲目的な活動をば一層意識的な反省的活動へと進める。かうなつてくると、學習の動機は自我の自覺てん一言にしてつぎる批判哲學の教ふる所によれば自覺の根本作用は統一の要求である。カントの所謂雜多の綜合統一である。我々の知識と實行との一切に亘つて之を成立せしむるものは統一を要求する自覺の綜合作用である。統一は客觀的普遍的な規範に

よつて行はれる然らば兒童の學習に於て自覺の要素によつて統一さるべきものは何であるか、夫れは各教科の内容即ち文化價值である。文化價值の收得創造に自我自力を感し自己の増大を覺ゆる時に興味を、その自覺に到達する迄の過程又は自力の貪弱と感し自覺の縮少を覺ゆる際に反動作用としての努力を要するものである。換言すれば意識夫れ自身の活動の体験とも認むることが出来よう。何となれば、自己が自己の作用を對象として之を反省する。即ち自己の中に自己を寫すのだ。構成するのだ、思惟するのだ。

自己は之に依つて興味と努力とを加へる、かくして自己活動をして無限に進展する。

### 學習態度論

千葉氏は「或る事物學藝に對する我等の知能的にとつた地位である。換言すれば環境支配の地位である」と。

渡部氏は「自力以て自己を價值化する態度である」

佐々木秀一氏は「學習の習慣學習の方法の會得で

に支配されて居るが、就學以前の學習は有意的模倣に漸次進んで行く。

言葉は自己要求の具であり模倣によつて益々擴大されてくるものであるが、思想の收得發表を益々旺盛ならしめ、其の心意の發達を促す。

好奇心の如きは疑問を益々生み、而して豊富ならしめて迷宮へと導引するものではあるが、さて夫れが研究的態度への素地をなすものである。

斯くの如く適應本能は發達段階よりして心力の發展推進を圖る。順應は單なる順應に終らしめるものではない。自律的活動への方便であり、基礎づけをなすものであることを吳々も斷つておく。

### 二、歡善的學習態度

興味を以て事に當ると否とは何れが仕事の能率を向上させる上に得策であるかは吾人の經驗に照して見て明白な事實ではあるまいか。好きこそ物の上手なれ」と語がある如く、愉悅の氣分に浸つて愉快に學習するといふことは最早や出發的に於て仕事の半以上を遂行し得たものであると豫斷しても過言ではあるまい。

あり又その習熟である。」と、夫々主張してゐる學習の意義觀を基抵として態度の意義を闡明して居られる。

定義として極めて妥當性を缺いて居るが、學習と自我の實現と解するならば、私は學習態度を自我實現の習慣及び傾向と解するものである。學習動機を先に一言にして自我の自覺であると定めた。そうしてその中に本能興味努力の必要であると述べたのであるが、態度も根本から派生してゐると思ふ。

### 一般の態度

#### 一、順應器械的學習態度

適應本能を基礎として行はるる學習態度であつて極めて初歩ではあるが、自主的學習への道程として之を認むるものである。模倣が知覺に基くことは暫くさて置き、故意に模倣しようとするならば其處に著しき辨別判斷の力を促し、既に目的の意識あり、目的に向つて努力する動の中に思慮推理の力を増す。かう考へてくると、適應の模倣ではあるが、創造の第一段階と見てもよいでないか。概して就學以前の子供の生活は自然的な模倣衝動

故にヘルバルトとは興味を單に面白味とか受動的快樂と解さず精神上に於ける追求的努力自發的欲求となし知識より行動に移り行く階段と見なし徒に死知識の蓄積を以て満足しなかつたのは、確に一大卓見であつたと言はねばなるまい。

追求的努力的興味を以て當面の仕事以外に何物もないといふ境涯に於てこそ、その學習は創造的となり深究的となり得る。かうした態度は人間一生を通じて居る望ましいことであると信ずる。

#### 三、努力攻究的學習態度

凡て何事によらず一事一物を攻究しようとする觀念を換言すれば努力攻究しようとする力の涵養と之が体得とは人生にとつてどれ程の効果があるか測り知れない。「努力は天才を生む」といふではないか。眞に努力は人間をして永久に意義あらしめる動因であると言はねばならぬ。

今仮りに攻究しよう努力しようといふ力がなかつたとするならば、文化の受納創造も覺束ながらうし小さく考へて題材そのものの何たるやを生半可通に處理せねばならぬといふことに立ちいたるの

である。

知識技能の獲得強うるならば、先づ夫れ以前に在つて攻究力を培養しておかねばならん。眞の努力には行動に對して強烈な思辨も選擇作用も行はれるものである。茲に學習の根本が潜む。お互の經驗に照して見てもさうでないか。何か研究する―其の間に困難に逢着する―吟味か―論證か―實驗か―試行か―比較か―分拆か―限定か―解決か―をせねばならん。さうして始めて價值ある認識が形成されるのである。その過程にはなんどしても努力に負ふ處がなければならん。體驗努力したものは印象が深い。徒に能力を苦しめるやうではあるが強ちさうではない。

#### 四、懷疑的學習態度

懷疑は人間發展の門戸であり隨つて思想擴充の形式である。其處には啓蒙懷疑の貴い意義がある。而して兒童は此の尊き疑問の所有者であり解決者である。

反省や懷疑のない處には決して思想人智の進歩は見られない。懷疑は破壊を意味するものではない

が血と肉なりとなり得るからである。

この不斷の收得と發表とが兒童の獨自性によつてコンデンスされ個性の色彩を濃厚にして一つの生産現象を体系づけるのが生命の過程であり、其處に必然的に生成發展があるのである。

故に創造は個性の中核とする人格の表現であるといつてもよい。この態度があつてはじめて文化價値の創造が營まれるのであらう。

#### 六、批判的學習態度

批判は普通批評といはれて居るが、批評は毀譽褒貶の意に用ゐられる。批判には判別乃至は分割の義が多分に含有されて居る。

事柄を批判的に考察して行くことは日常生活上肝要である。殊に由來お互は依頼心の強い民族であるといはれて居る。それ丈常に獨立的に批判し得る態度を樹立しておきたいものである。即ち批判的學習態度は學習の哲學化であり學理の理知化であると考えられる。單に受容收得するを以て満足せず、批判の力に訴へてすれば、その事物の意味を明かにし其の事物の存在する所以の論理的基礎

疑は疑の爲の疑ではない。確實不動の知識の根據を獲得せんが爲の疑である。デカルトは方法的懷疑論に於て「須らく一切を疑ふべし」といはれた。款問詰問煩悶なしには到底新奇なものを得られない。所謂創造は不可能であるといはねばなるまい。「子盾を強く感ずる人は眞人なり」とワイルドはいつた。常に兒童をナゼ、ドウシテの地位におき獨自に又は共同して疑の鍵をとつて開かしむるか教師が解決者として當るかしておれば、興味は益々追求的に進み、努力は益々其の度を高め自發的活動へ進むこと偉大である。

#### 五、創造的學習態度

收得と發表との依存關係は學習の要件である。徒に多量の知識を收得させるのが學習の本旨ではない。その受容したる資料を基礎乃至は方便として之を如何に活用するか運用するによつて其の人の生命はあらはに示現されるし、收得したる知識技能もより價値づけられるものである。何となれば其の間には、分拆綜合が行はれ、演繹歸納が施され幾度か試行と錯誤とが重ねられて眞にそのもの

を闡明することになる、さうして批判の後には新計劃新建設がなければまだ意義が薄弱である。そこで物事は始めて向上進歩するものである。

#### 特 殊 的 態 度

##### 修 身

- 1 批判的態度……………知性の開發
- 2 感情淨化の態度……………情操の陶冶
- 3 決行實踐の態度……………意志の鍛練

##### 讀 方

- 1 理解攻究的態度……………形式―言語文字文章の理解

##### 内 容―思想感情

- 2 鑑賞の態度……………知能の啓發 趣味養成

##### 綴 方

- 1 創作の態度……………綴文能力の涵養
- 2 批評鑑賞の態度

##### 書 方

- 1 自覺の態度……………書方目的の自覺
- 2 觀察の態度……………自己表現の爲に
- 3 正速美の態度……………美的陶冶

話方

- 1 表現の態度
- 2 聴く態度……………思想の收得

算術

- 1 冷静なる態度
- 2 實驗實測の態度
- 3 努力的態度
- 4 正確なる練習の態度……………日常必須な計算の技術的練習、言語の練習

歴史

- 1 推究判断の態度……………道德的判断 史實因果關係

地理

- 1 地圖の態度……………方位縮尺に關する觀念 附號理解

理科

- 2 理解考察の態度
  - 3 憧憬の態度
- 本邦の國勢及び世界に於ける重要諸國の國勢の理解  
會術語の直觀的理解 地人相關の理法

氣力振作の態度

各個人體の特質自覺 快活剛毅の精神涵養 規律協同の習慣

經濟利用の態度

- 1 經濟利用の態度
- 2 理解的態度……………衣類の種類各部の名稱、取扱上の心得保存整理材料選擇裁ち方積り方

勤勞の態度

- 1 勤勞の態度
- 2 經濟利用の態度

環境整理論

「居は氣を移す」てふ語がある如く環境の如何は暗々裡に吾人に何物かを刺戟し示唆するものである。「孟母三遷の教」とはいひゆるざれた言葉ではあるが今更の如く孟母の卓見さに敬服せざるを得ない今迄吾人は環境整理といつたやうな事に餘りに無關心であつた。處が近時人類の素質を根本的に改造しようとする優生學に對して環境學の唱導せられるやうになつて來たことは注意すべきである。特に藝術の

- 1 實驗觀察の態度
- 疑問 通常の天然自然現象 蒐集 之に關する知識及び其の相互間の關係思考 發表 修練

家事

- 1 實行の態度……………家事的實務
- 2 趣味の態度

圖畫

- 1 形態看取の態度……………形相と性質の觀察
- 2 正確描寫の態度……………畫法の理解と其の應用 技術練習
- 3 鑑賞の態度……………美感の養成

手工

- 1 模倣創作の態度……………簡易なる物品製作の能
- 2 勤勞を好む態度

唱歌

- 1 獨唱の態度(自發力)
  - 2 氣實の態度
  - 3 快活なる學習態度
- 美感の養成 徳性の涵養

体操

- 1 自覺の態度……………体育的趣味と必要との自覺

發達盛衰は生物の現象と類似的である所から藝術の史的研究の方面に生物進化論の思想の影響が及んだかうした點から學術實際の兩方面よりその意義がより一層重視されるやうになつて來たことも見逃してはならない。さて環境とはなんであるか、失れば境遇といつてもよいであらう、或は外國といつてもよいであらうし、現象といつてもよいであらう。兎に角生物體外の凡てのものを意味する。

兒童教育上兒童に直接觸れる部面を便宜上左記の如く分割して論議を進めたいと思ふ。

- 1、廣義の環境整理は社會教育の振興と村教育會の活動とを意味する。
- 2、狹義の環境整理は直接學校生活の爲の設備と大体に於て定めたい。

今時間的に之を考慮して、兒童が學校に於ける意識的教養をうける時間と環境の無意識的教育をうける時間と何れが長いか。之れは決定をまだせずに明かな事實である。建設につぐに破壊といつたやうなことでは教育の内容充實は覺束ない。随つて兒童に影響を與へ得る家庭も社會も悉く教育的ならしむる

ことが最も肝要である。家庭教育社會教育の振興故なきではない。消極的ではあるが、殊に學校内の整理は殊に努力せねばならない。

常に兒童の身邊に觸接すること多き校地校舎教具校具等形而下の諸設備は等閑に葬り去ることは出来ない。更に學校は心身尙未だ幼弱なる人達の集合所であれば、殊に合理的ならしむる必要がある。しかるに近時町村費の膨脹を患へて頼りに此等の諸設備を輕視し或は無用の形式であるかの如く皮相的見地に立つて輕減しようとする傾向のあるのは誠に教育上悲しむべき現象である。角を矯めて牛を殺すて愚を演ずることになるから心せねばならん。

敢へて私共は學校設備の善美なるを急ぐの餘地方の民度の度外視する意は毛頭ない。一時に之が完備を強求するのは確に無理である。現在の町村經濟からは不合理である。

須らく計劃的に而も繼續的に基本財産の蓄積と之が利用、町村内篤志家の寄附行為、國庫下渡金の利用等に則り着々事の緩急先後を考慮して充實を圖りたいものである。従來の學校設備は動もすれば、教

師の爲の設備に終つた感がある、教師が教授を進めて行く爲に都合よく教具校具室内設備等をそなへた兒童は之に親しむどころではない。當番兒童になれば取扱はれない。即ち教師専属の物であつた。

教授より學習への聲頼りにして、自律的學習を旺盛ならしむるならば、その爲の設備がなければならん兒童の學習能率の向上を圖る爲の設備であらねばならぬ。

隨つて學習の第一線は環境の整理であり、「學ばう」といふ學習慾即ち學習氣分が喚起され得るやうでありたい、そうして他力的の環境整理が結局は自力にて整理して行くべきである。こゝ迄來なければ眞の環境整理ではない譯である。

一 一般

- 1 室外の整理
  - (1) 植樹
  - (2) 体操器械
  - (3) 學習園—農園 學園 理科觀察園
  - (4) 砂場
  - (5) 校内揭示場

特殊的

- 修身
  - 修身教室の設備
  - 格言技折
  - 明治天皇御製集
  - 作法用具
- 讀方
  - 片平假名五十音圖
  - 發音の形圖
  - 庶物標本
  - 模型
  - 諸種の繪畫寫真
- 綴方
  - 文集
  - 成績物揭示
  - 日用文用品一切
- 書方
  - 筆順掛圖
  - 成績物揭示
  - 書方用小黑板
  - 大筆
- 話方
  - 直觀方便物蒐集
- 算術
  - グラフ用小黑板
  - 數圖
  - カード
  - 計數器
  - 度量衡器
  - 遊戲的取扱備品
  - 計算用實物
  - 公債
  - 株券手形等の實物及び模型
  - 求積教授用具
  - 諸圖表
  - 國民年鑑
  - 大算盤
- 歴史
  - 年代圖
  - 歴史地圖
  - 系圖表
  - 肖像畫
  - 武器遺

(6) 廊下の教育的利用

(7) 盆栽の配置

(8) 校地の四周地に就て

2 室内の整理

- (1) 成績品揭示
- (2) 行事豫定表
- (3) 學習豫定
- (4) 出席貯金一覽表
- (5) 花瓶による裝飾
- (6) 額面による裝飾
- (7) 教具の備附
- (8) 學級兒童文庫
- (9) 背面黑板
- (10) 偉人肖像圖
- (11) 柱時計
- (12) 鏡
- (13) 器械標本類の陳列
- (14) 謄寫版
- (15) オルガンの解放
- (16) 學習團の組織と座席



物の實物 地理歴史教室

地理

教材異動綴 新地圖購入 地球儀 三球儀  
磁石晴雨計 繪葉書寫真類 統計圖表 原料  
製造物の標本

理科

兒童實驗器 觀察箱 家畜飼育 理科教室  
標本類  
家事教室 實習用具

圖畫

鑑賞用の作品及び名畫 寫生用品 寫生台  
幾何形体

手工

既成品陳列戸棚 共同工具 説明用掛圖  
手工教室

唱歌

唱歌教室 口形圖 音階圖 パートン 蓄音  
機花瓶 ノトロノーム 教材表現の繪畫

体操

体操服の使用 砂場 ボール 綱 旗

裁縫

裁縫教室 裁縫標本 共同用具 説明圖

農業

堆肥舎 納舎 肥溜 農具 校庭の空地利用  
實習日誌 各種標本  
學習過程論

心理的過程を踏しむべきか論理的過程を踏しむべきかさては兩者を一致さしていくべきかといふのが本論の問題とする處であり且つ論じて見ねばならぬ要點である。

文化の修得は自然の要求として適應本能によつて無意識的に行はれ、漸次心意の發達と共に意識的に進んで行く。認識の目的が確立されていく譯である。即ち學習は内的外的直観より出發して觀念を構成する。此の觀念は能動的注意の集注されることによつて益々その確實さを増して明瞭の度を加ふるに至る。一度得たる觀念は之を再現し再認して記憶に存する。記憶に存する觀念が多ければ夫れを分析し抽象し其の目的に従つて之を總合して概を作る。斯く分析總合した後を回顧してそれを訂正する。概念相互の關

係を判断、判断相互の關係を推理、推理に演繹歸納の二種があつて共に確實性を與へる。斯くの如く思惟が一進一退して認識が成立するものである。

かうなつてくると、概念判断推理は論理的法則であつて思考は此の法則によつて規定せらるべきだ。故に教育的見地から教授學習にローゼンクランツ、ザルヴェルク、メスマー等は論理的基礎を重んじて十分採用せねばならんといふことを力説した。

學習作用は自力的に價值ある認識の形成であるといふ定義を簡單ではあるが認めた。されば當然認識の範圍内に於ては兒童の思考は論理的法則に反することは出来ない。即ち生理的學習や心理的學習の程度に止まらずして、價值化された科學的學習に進むる爲には、論理的思考をなさねばならぬ。

翻つて題材そのやのの内容を考察するに、夫れは兒童心意の發達を顧慮して体系づけたやので、易より難に簡より繁に、單獨より複合へ、分析より綜合へと配列組織統整したものに相違ない。如何なるものであつても、兒童に理解せられ、類化せられ、更に進んで活用自在にまでいかねばならん筈だ、その

爲には、兒童の意識を題材に集注せしめて前述の如く分析總合させ、聯想想像せしめて推理判断させねばならぬ。

かう論じてくると、論理的思考の存する處には、必然的に心理的作用が隨伴して居る。兒童は初より完全に論理的に思考することは出来ない。心意の發達に應じて論理的法則に合した知識即ち科學的知識に到達する。その間、交渉が行はれる處に心理的に考察して學習經濟の問題が意識づけられてくるのである。

要するに論理的過程といひ心理的過程といひ、等しく意識の進行であるから劃然たる區別を附することは至難である。吾人の意識進行には純論理的なものあれば、純心理的ものより著しい。故に兩者は相補合していくべきであらう。

學習輔導論

人間は生れながらに叡智がある。カントは感覺的に與へられ得ざる所の物を表象する主觀の能力といつて居られるが、それが具有されて居る。かうした先驗的の力によつて自然に放任しておいても或る程

度迄は伸長發展するであらう。即ち自力的に事々物々に交渉接觸する、試行する、經驗を構成する。反省の過程を経て益々自己の擴充を圖つて行く。けれども其の間には勢力と時間とを徒に消費して、その割合に効率をあげ得ぬ時もあるであらうし、却つて體驗の興味を得て個の覺醒を果し得る時もあるであらう。しかしながら之は教育の正道ではない。強いて徒に幼弱なものを體驗させるには及ぶまい。限定された範圍内に於てより文化の修得發表を遂げねばならぬといふ規範がある。夫れをどう處理して行くべきかが問題ではなからうか。

文献によつて之を見れば「個體發生は系統發生を反復するのである」と、兒童を放任しておくど、人類の踏襲して來た道を反復せねばならぬことになつてくる。さうなると、二度と生れ得ぬ人生に對して、甚だ不忠實な行き方といはねばなるまい。まして學校に於ては直接か將又間接かに指導が必要になつてくる。之は當然すぎる程當然なことである。指導に依つて理性の道を進らしめる。

以上は教育の全過程に於ける輔導論と見てもよい

學習の順序或は學習の段階とは即ち學習作用の行はれる階程の義である。教材を被教育者に授けようとするには一定の順序によらなければならぬとあつて、所謂教授法なるものにも古來教段とか教順とかいふべきものがあつて、幾多の學者が論議し、殊にヘルバルトの如きは學術的にその理法を論述したそれと同じく學習にも順序がなければならぬ。最も自然的な行き方がなければならぬ。

しかるに往々にして、學順を目して兒童の活動を拘束するものなり、劃一の弊に陥らしむるものなりなどと呼ばれて全然排斥せんとする者があるが之はその所以を辨へざるの謬想と言はねばならぬ。吾人は學科の性質題材の性質に適應した學順を肯定しようとするものである。それかといつて極めて細密な型式を固守せよとするものではない。何となれば生命の連續成長を意味する學習の本義に戻ることであり、無限に進展すべき答の力が伸び得ないからである。

今、その過程を時間的に眺めて便宜上區分するならば、動機を突起すべき處は準備に相當するもので

であらうか、更に學習といふ範圍から眺めては、輔導は兒童の自學を強烈ならしめ、且つ善良にせん爲に施さるべきものでありたい。即ち飽く迄個性に根ざした兒童の自力活動を本体としたい兒童各自はその方法のその道程の主体である教師は地ならしすればよい夫れは内的に外的に環境を整理して保持してやることだ。教師は產婆役をすればよい、夫れは産み得ざる悩みへの暗示者となり、自覺の力を強からしむることだ。教師は助言者でありたい、夫れは進行の反省に對する批判を意味するからだ。かくして全体を統理して學習氣分をひきしめて行く處に教師の根柢が据ゑられる。繰返していふ、學習は兒童の自力自動によるもので決して放任や自然的の自由は許さない。理論としては明かすぎる程明かであるかさて實際に於ては至難である。自由は他から附加されるものではない。責任の蔭に自由が存するのだ。兒童は兒童たる範圍内に於て自由である。茲に個性が存する。自己實現を見る、之が輔導補成は教師の任務である。

學 順 論

あるから、之を豫習といひ、此處を基點として各種の態度により自己の傾分を擴充して行く、中心努力點ともなる可き所から之を本習又は正習といふこの後をうけついで更に一段の反省を加へ、考慮をめぐらし以て認識を正確ならしむべく練習反覆の道を通さねばならぬ。之が練習又は復習の部面である。而して各段階は夫々獨自の特色こそあるが、決して個々別々のものではあり得ない。其の間には必ず直接間接に有機的交渉があらねばならぬ。因果的圓周的の續行を認むるものである。

豫習段

兒童は先づ學習すべき題材を提供される、又は次から次へと學習すべき題材に直面する。對象を構成すべく理解の道を辿らねばならぬ。隨つて其處には獨自の活動をはじめる。攻究努力の差は自づと異なる筈である。

新題材への直面……提題

試行(分解的試行、綜合的試行)

- 1、通覺………通續
- 2、既知觀念の誘發

3、自己検査……推説推解—方便物

問題の發見……吟味抽出 相互學習教習  
本習段は豫習段の延長と見て支障があるまい。

問題の發見と同時に期待をまし、學習の目的を一層鞏固にし、之に向つて全我的活動をなすものである。

豫習の點檢整理—分團的取扱

- 1、獨斷的整理 豫習の承認
- 2、誘導的整理 部分的特殊事項の點檢
- 3、分團的整理 該謬の訂正 缺陷の補正 約説

練習

- 1、復演練習 處理 獨自、相互
- 2、應用練習 處理 教師

練習段

練習(復習)は極めて必要であるとは誰人も知悉して居るのであるが、さて實行が之に伴はない。

体得といふ迄にはどうしても吾人の經驗から考察しても通過せねばならぬ關門である。確に知識技能精練の要諦であると思ふ。

しかしながら無意味の反覆、興味之乏しき強制的な努力は勞して其の効果が表はれない。

入澤氏は「近時の教授原理の主張は動的創造的自由であつて練習を蔑視し易い」といつて居られるが、時弊を看破した痛言であると思ふ。

正習中にも練習は存在するのではあるが、夫れは練習の範圍狭く、練習の爲の練習ではない。豫習からの輔導に確實性を帯びしむる爲のものである。

練習段の練習(復習)は、練習夫れ自身が目的的活動を意味する。故に十分型を破つて兒童の個性に即した方法を以て能ふ限り活動せしめたいものである。

形式

- 1、檢察的練習
  - 2、補充的練習
  - 3、反復的練習
  - 4、統括的練習
  - 5、應用的練習
- 相互輔導…學習ノートの活用  
教師

方法…兒童の型式に支配される。

- 1、要項摘出法
- 2、表解法
- 3、圖解法
- 4、傍線法
- 5、比較法
- 6、口唱法…獨自…相互

學習と教師

要するに如何なる學習の論議も、如何なる學習の方案も之を單なる教育上の流行事としたくないものである。之を實際し之を運用するのは教師その人の使命であり責任である。兒童が自力的に活動するやうに至るも、教師に与つた體驗に徹した強味と努力的精神とが多分に

あらねばどうした態度は到底養成されない。

吾人は常に教育の實際問題の動力となつて居り、且つともすればお互の怠りからな教育の根本を究明して普遍的原理を把握しておくと同時に、一方之を活用して健實なる實際を着々建設すべきである。あ、尊ぶべきは教師の自覺の力と教育愛の熱との交響であり結晶である。だから私は常に繰返していふ、教育の凡てのことは人によつて解決されるものであると、まだこゝに逢着してしまつたのである。學習の輔導者は兒童と共に伸びようとしなければならぬ、そうして時間とひまをつぶすことをおそれてゐてはならぬ。

二、學習と學習書

自發活動を重視すべしといふ聲は近時の問題ではない。しかるにその割合に實際方面の研究が之に伴はざるの憾みがある。學習せしむるとしても兒童自らが學習するとしても、教科書や教師の助言指教のみでは興味も湧なからうし、豫期の成績も收め得られない。兒童學習の進行に絶えざる無言の師友となり得べき共學習がウント欲しいもので

ある。かうした児童の適切な味方を多く整くしてな  
くことが向後の教育に於ては最も肝要であると思  
ふ。副読本、補充読本、学習書安價にて供給され  
るやうにありたいものである。

三、学習と國字問題

問題は甚だ大きくなるが、児童の自力的に活動し  
て行く上に於て、最も学習の推進力を鈍らしむる  
ものはなんであらうか、夫れは國字問題と國字歴  
理問題とである。字書を使用する、方便物を利用  
する、課外の讀物によむ。忽ち難語句に突き當る  
努力追求の力は相當あつても枝葉の問題になやま  
されてあき／＼してしまふ。本論へ進む爲に不經  
濟の學習をせねばならんことに陥る。難語句その  
ものを學習の目的とするのであればそれでよいが  
本問題への過程としては確にわざはひされること  
である。學習をもつと旺盛ならしむるならば、國  
家として國語問題の解決に向つて何等の考慮策  
をしてほしいものだ。歐米のそれと比較して見る  
時、吾人は痛切にそうした感を深うするものであ  
る。私は直接児童の獨自學習を指導していつもな

やまされて居つた餘、茲に記す次第である。

四、學習と學習帳

學習帳は児童學習の試練奮闘の友である。學習の  
大部分が示現されるものでないか、豫習とノート  
本習とノート、練習とノートといふ工合はそのあ  
どかたが顯現すべき筈である、隨つて児童の個性  
が發揮されてあるべきである。  
單に難語句を記載し、書取を記し、板書要項筆記  
の爲の學習帳に終らしめたくない。問題の自力構  
成、獨自研究、參考資料の蒐集、相互研究等巨細  
に涉つて表示されてなければおもしろくない。型  
にはまつた學習帳の指導を打破して児童各自の個  
性の十分あらはれて居るものにしたと思ふ。そ  
うして之を放任しておくのは宜しくない。児童の  
生命のにじんであるものとするならば、教師は時  
折そうした尊いものに接觸することを忘れてはな  
らない。

五、學習と依命通牒

大正十三年五月二十七日附致收第一六八三號を以  
て郡から通牒が来た。敢へて私は監督のお方々の

命令示達に反抗するといふ雄々しい態度をとるも  
のでもない。而してまだその内容も善意に解して  
居るのであるが、今や教育教授が内面的にくひ入  
つて革新されつゝあり、児童學習の高唱されてゐ  
る矢先、少なからず疑義を挟み興奮してしまつた  
その要項を記すならば、

近來小學校ニ於テ教科書ノ解説書若ハ教科書類  
似ノ圖書ヲ副教科書若ハ參考書ト稱シテ使用セ  
シムル向有之哉ノ概右ハ教育上尠カラサル弊害  
ヲ來スモノト認メラルルニ依リ嚴重取締ルヘキ  
旨……………と、

児童學習の聲高き今日、かうした文面を見て、少  
なからず私はかなしみの情緒にもえ、教育界の沈  
滞せざらんことをおそれた一人である。皆様方に  
御熟考を煩はす次第である。

六、學習と兒童文庫

兒童文庫とか兒童圖書館とかの必要なることは今  
更説明せずとも分りきつてゐる事柄である。私共  
は過去の經驗上から見てお伽話や歴史物語といつ  
たやうなものを多くかいた。しかしてまた童

話文學の如きものが早くから數多く出版されて居  
た。そこで近來は児童の學習共學書を見習ふ必要  
から迫られて購入したのである。そうして有益な  
るものは五人に一冊八人に一冊といふ割合にな  
うべく努力してゐるものである。  
而して兒童文庫の利用を一般に有効ならしむる爲  
に在記の如き表を作成しおき、學習の向上を圖り  
つゝある次第である。

兒童文庫を利 用しませう。高二(福田、飯塚、鈴木調)	
算術をしら べる時には	算術難問の解き方、算術豫習書止 式の算術 算術圖式解法、算術標準問題集、 おさらひの仕方

七、學習と各教科の目的指示

之は學習動機論に於て附言すべきものであつたが  
今具體的にその實況を示すならば……………目的の自覺  
を與へるといふことは學習上極めて肝心であると思  
ふ。

私は斯んな質問を發して尋五以上の児童に筆答せ  
しめたのである、夫れは「算術はなんの爲に學ぶ

か「諸方はなんの爲に學ぶか」といつたやうな形であつた。すると、兒童の多くは實利主義功利的見地に立つてその目的を述べられたのである。そこで私は之れでは満足と許さぬと心得て教則を平易に而も兒童心意の發達に應じて説示することに

## 二、學習訓練

### 一、學習訓練の意義

學習とは兒童より眺めた自主的、自發的活動により知識技能を獲得構成する作用であつて教師の直接間接の指導を豫想するものである。然し之を廣義に解する時は教師の有無を論せず彼等兒童が環境を経験することまで含まるるも教師を豫想した學習に於て論じて行くなら學習は教授作用であるわけだ。從來の教育が兒童の具有してゐる能動性を利用する方面が閉却されてゐたに反して現在は兒童の持つ諸能力を認め如何にして自律的に學ばしむべきかの手段方法を考究するに至つた事であらうと思ふ、従つ

した  
特に尋四理科尋五地理國史、高等科農業家事といふやうにその學年に限つて新に加へられる教科に在つては、學年の當初に適確にその概念を會得させておくことが大切だと思ふ。

南川根尋高等小學校訓導

中村 岩 吉

て教師は拱手傍觀すべきでなく兒童の自主的活動を尊重し發展させる上に於て從來よりも一層の努力が要求された感がある。

學習の目的が自己教育で何等の示範も壓迫なく自らが自己の理性により自己を無限に教育して行かうとする無限の性向を養ひ理性的意志に近づかしむるにあるとするならば、かかる境遇に達する道程を健全に歩ましむる爲め彼等兒童の學習せんとする態度を學習の中心である學校に於て教養すべきは當然の責務で兒童の自動的活動によつて價值ある學習をなさしむる手段方法が今から述べようとする學習訓練を

れである

### 二、學習訓練の實施

#### (一) 客觀的方面(環境)……消極的方面

- 1、教科書
- 2、教師
- 3、設備を通しての學習
- 4、教材の生活化
- 5、保護會の活動

#### (二) 主觀的方面(學習の主體即ち兒童)……積極的方面

- 1、懷疑的態度養成
- 2、觀察力養成
- 3、有目的活動
- 4、必要觀を起さしむ
- 5、興味による學習
- 6、努力重視
- 7、兒童研究部設置
- 8、學習法休得
- 9、解決法指導
- 10、批判的態度養成

### 11、學習問題の自己の構成

#### 12、自治會の活動

#### 客觀的方面 1、教科書

自然は多大な疑問の解決を吾人に迫つてゐる是が全部の解決は到底人間の能はざる所なれども一部分でも解決し得るに於ては吾々人類は、文化生活を進めて行く事が出来やう、自然はかくの如く數多の疑問を投げて居るのに兒童の使用する教科書は、この自然の方則を無視して全部を解決して居る。勿論全部が解決しある時は記憶せんとする記憶には都合よく思はれるが、多くの兒童は疑問が起らない爲め學習せんとする第一歩を踏み出さずに終つてしまふ。この時教科書の各課に質問事項があればその質問に答へやうとして努力し學習するのであらうと思ふ。

國史、地理修身等は疑問を起しての學習が少いからこれ等については各課に質問を掲げたいと思ふ。特に理科の如きに至つては、觀察實驗の要項を書きその下に結果を記入せしめ、又は繪を書かじめる様式とし所々に教材のみを示し要項を書かず兒童が能力に應じての研究をなさしめ獨自の創意を加へしむべ

きである。教科書活殺は教師の體能でどうにもなるものであるから左様な杞憂はないと申す者があるが判らねど教科書を兒童に持たしむる以上、自然の原則を參考して學習動機を起させる様な教科書にしたいと心の底から叫ぶものである。

### 7、教師

兒童に對して眞に學習せんとする態度を養成するならば、先づ以て教師が學習態度を養成すべきであるかくして教師は自己建設を怠らず理想に向つて突進し或る科目については他人の追隨を許さぬ迄の實力を有し自他共に認める迄に進みたい。

尙教師は純なる愛の力を所有して兒童との場合接近を圖り兒童として欽仰せる教師に對し遠慮なく自己の不完全な點を發表させなくてはならぬ、そうして慈愛深い補導を加へ又は、共學し彼等兒童の持つ努力性を伸ばし繼續せしめ其の経過から種々の學習法を體得せしむる要があると思ふ。教師にして實力あり愛の力ある時は權威は自然に増大し兒童は益々尊敬の情を發露し眞に満足な共同生活が現出され兒童は期せずして教師の精神的感化によつて兒童も教師

も最も愉快に學習目的に達するであらう。

### 3、教材の生活化

教材は可成兒童の實生活に即したものでより採りたい兒童に縁遠い材によつて教師が注入的教授をなし記憶を強ひ干渉するに於てはその苦しい壓迫から逃れようとして兒童には研究趣味を起す暇かない。そればかりか拘束された生活から一刻も早く離れたいとは彼等兒童の偽なき告白であらう、兒童の最も好む所は實生活そのもので次は史實に富むものであり様なものは大人の生活材料でこれは否定すべからざる事實である。

兒童はどこまでも現實に生さんとしてゐる、現實の生活を離れて大人の生活材料を學習せんとするは無意味にして寧ろ有害である。將來の社會の準備教育でなくその様な職能を持つものでもない。現實の生活が充實される時は現實の連鎖である將來の生活も充實されるわけである。故に現在兒童の身邊に直接觸れ關係深きものから材料を採り教法も亦兒童が全我を打ち込んで活動し生活せしむるに依つて教育が完成されるものではあるまいか。

### 4、設備を適して學習指導(環境整理)

#### イ、教室の學習室化

器機器具標本掛圖等を開放して兒童が觀察し實驗し得る様に或はその實驗順序を記し或は觀察要項を述べ自由に實驗し得る様所謂環境を整理し兒童の自己活動を盛にし學習動機を喚起を促進する事は學習の間接指導である。只考慮すべきは經濟問題であるが學習の能率増進には或る程度迄の損失は覺悟せねばならぬ。その損失よりも大きな代償を得ればよいのである。

#### ロ、兒童文庫村立圖書館の利用

兒童文庫は目下尋常五年以上各教室にあると雖も藏する所少きに失すが故に村立圖書館を利用する事は彼等兒童の讀書趣味を養ひ讀解力を養成するに適當である。今後益々之等の設備を遺憾なく統整し習はねばならぬ様な環境を作るべきである。この場合特に留意すべきは清潔整頓であるが是等はなるべく兒童の自治的活動に訴へしむべきである。

#### 5、兒童保護會

生活の困難から其の才能を充分發揮するだけの修養

を積む餘裕のなきものがある、教育の普及徹底から觀て社會が之を救済すべきは當然の責務であらう。教育の平等を呼ぶの時に當つて貧困兒童を救助し學用品の不足又は素質の低下より生ずる時間の徒費を減少し有意義に學習せしめ教育の恩恵に浴せしむる事が肝要ではあるまいか、尙この會の活動を旺盛にし一般兒童迄學習するに都合よき樣學用品の貸與又は給與をなし學習に支障なからん事を期して居る。

#### 主觀的方面

#### 1、懷疑的態度養成

事物を創造し改良し進歩さす最初の働は好奇心であり求智心である、量に於ては平等でなくもすべての人間がこの働を有する事は寸尺も疑ふ餘地がない。この働こそ模倣創作に入る第一歩で其の萌芽を進働する様に導くのが教師の責務である、兒童は常に疑問を持つ様に教法に於ても原因を探究せずして經過結果等を深究する時はこの態度が養成される事と思ふ従つて疑問より起る質問は之を尊重し歡迎するの要を認む。

#### 2、觀察力養成

理科等の教科により微細な點を特に着目させて發見的態度に導くは蓋し觀察力養成の一方案であらふ。徹底した觀察は徹底した理法を産む母で皮相な觀察は創作的な發動的な學習には好ましからぬ態度である。どこまでも兒童に發見的な學習態度を養ひ比較創造の能を進揚すべきである。尙社會人事上の事柄も觀察し批判せしめ道德的自由の人格者に至らしむべきで新聞雜誌等の愛讀者となし話方の時間を利用して討論すべきである。

3、有目的活動

教育は目的生活の連續的發達であるとか、教師も兒童も目的理想を共に備へその目的を達せんとして共同して計畫し共鳴し融合しつつ教育作業に従事すべき事と思ふ。

彼等兒童が目的なき活動は、さながら太平洋上で浮草の様な生活をするものと同一ではあるまいか兒童も進むべき方向を知り教師も到着すべき港を知りてこそ大なる困難にも全精力が傾注され共同して同一目的の達成に善戰善闘をされ苦闘の中にも目的地に達する快味を味ひ努力も永續性を與へられ學習も輕

濟に所期以上の能率が増進される事と思ふ。

4、必要感を起さしむ

自發的研究は學習の生命である、自主的活動を基本として價値ある研究力一杯の研究をなすにはどうしても目的を知ると同時に必要とか價値を認識せねばならない、眞に必要を知り價値を認むる時は教師の手を離れても必要を満さんとして努力の泉からは無限に湧出されて自己満足に進むものである。人間は一體横着者が多く必要に迫られざる時は努力は體內深く潜入してあるものである。故に教師が必要感を與へずすべてを解決するに於ては努力は終に自滅するもので天使の如き愛らしい兒童を害ふものと言はねばならぬ。

5、興味による學習

イ、説話によりて起る興味

學習せんとする強き意志的活動を誘發するに先づ補導者たる教師によつて教材中に趣味が多くある點の一部分を聞かされた時自分も内容の全般について知りたいたい欲求心が發動するのでありませう。この方法は手近の學習動機誘發法であると思ふ。

ロ、實驗の結果を見せて起る興味

教師が實驗の結果面白い點を見せて兒童をして早くあの様な面白い實驗をやつて見たいといふ學習氣分を喚起して開發教授によりて學習を進行させる要があらう。

ハ、体験中自然に起る興味

繼續的の實習觀察實驗等をなす時は自由が與へられて工夫し創作するものである。然し工夫し創作するそのものよりも具体的な結果が得られて趣味が涵養される。

要するに兒童に多くの興味を惹き起すには教師が多方面に趣味を持ち教材に精通することが緊要である

6、努力重視

教育の目的が自己建設で道德的批判を下し自由なる意志的決定をなさしむるにまるとすれば單に目的を知り價値を知り興味を起して繼續して學習せんも樂のみをして成功は出來るものでない、大なる發見の如き大なる發明の如き或は修養の如きは大なる困難に打ち勝つ努力を最も必要とすることである。個性を尊重し自由を愛好する創作的學習に於ては、

動もすれば努力の加はらぬ學習の様に思惟されるも從來の教育よりも一層の困難を感じ努力を必要とするものである。

この困難を除けんとするは學習上許すべからざる要素であくまで努力を以て困難を排除すべきである努力すれば相當に成功する場合多きも場合によりては努力に報ゆる効なき場合もあるがその努力も無價値のものでもない、種々工夫し創作しつつ精神の鍛練を期せずして行ひ得るものである。

依つて努力そのものに偉大な價値あることを悟らせ快感を味はしむべきである。尙努力は無限無盡蔵であることを自覺せしめなくてはならぬ。

○努力の誘發

イ、能力相應に効果あらはれた時は直ちにその成功を認め賞讃し發奮せしむ

ロ、團體の空氣には如何なる者も左右される傾があるから研究旺盛な團體中に生活せしむ

7、兒童研究部設置

隨意の學科を隨意に研究させて希望から毎日始業前三十分間位を以て獨自學習相互學習となさしめて筋

肉運動より生ずる精神疲勞を避ける手段として居る  
尙相互學習を最も有効せんとして六人を以て一分團  
を組織し自律の下に學習せしむる結果從來僅少の優  
等者のみ自主的に努力的學習をなしたるも現在に於  
ては學習に興味を持たぬ者迄も學習旺盛な雰囲気  
にありては相互學習を行ふて来た、今までの優等兒  
は獨自の學習の結果思想を統整し發表する機會が興  
へられて發表方面の能力が養はれその他の兒童は非  
常な刺激を受けて歡喜的に努力的に發動的に學習し  
協同信愛の美德が涵養されたと思ふ。この研究分團  
を組織してから後は各分團に特色を發揮して學習態  
度が一變した事は事實である。

#### 8、學習法の體得

適當な刺激を興へて學習動機を誘發しても彼等兒童  
の學習が拙劣であつたなら經濟に學習する事は不可  
能と云ふてよい、最も體得に於て失敗し工夫しつづ  
終に自己獨りの學習法を案出したものなら非常に價  
値があるものであるが其處に到着するには不經濟な  
學習を豫期せねばならない、それ故教師は兒童の持  
つ創作性を無視せず輔導域より脱出せずして示範し

理性も高まつてくるものと思はる先づ批判せんとす  
るなら自ら研究修養に努めて實力の向上を圖るであ  
らうその間反省する點も偶然に發見し反省は更に努  
力心を惹く動力となり連續した學習が産み出される  
わけである。

#### 11、學習問題の自己構成

學習は自問自決に到達せねばならない、學習し得た  
自己の力に依つて最初は模倣的に或は創作的に問題  
を構成する所に偉大の價值が存在するもので他の人  
によつて作られた問題を解決する以上に諸能力の自  
發的活躍を要求するものである、數學等に於てこの  
指導をなす時は問題を解決する學習と相待ちて非常  
に思考力の練磨となることは當然である。  
勿論順序を踏んで後學習問題の自己構成をなすもの  
である。

#### 12、自治會の活動

學習上に關し兒童相互に意見發表をなし漸次眞剣な  
學習態度に導き教師と兒童の接近を圖り或は教師と  
兒童との間に種々努力すべき契約をなし社會的訓練  
をなし守法協同互助等の精神を涵養し立憲國の小國

後各兒童の個性に即した學習方法を自ら創作すべき  
であるこの際整理を行ふ事は記憶を増し創作性を伸  
ばすものであるから學習中には必らず整理する機訓  
練すべきである。

#### 9、解決法指導

徒らに主義に囚はれて徹頭徹尾自己解決を主張する  
ものでもない、場合によりては時間と努力とを徒費  
せぬ様に教師が進んで開發教授によりて解決するも  
學習を便にせんとする準備行為である。兒童の能力  
によりて解決が出来るものの解決を教師に依頼せる  
時は一端を教へて再考せしめ更に不可能の場合は疑  
問の一部分を残して解決させる。以上は兒童相互の  
研究によりて不解のものも教師へ持ち來る様に訓練  
し解決し終つたものも教師の批評檢閲を受けさすこ  
とは必要である。

#### 10、批判的態度養成

兒童も教師も學習上重要なものは批判である。用  
意周到で觀察緻密でなければ批判は到底出来るもの  
でなく實力あつて理性が伸びて居らねば批判は不可  
能である、批判的態度養成によつて觀察力も緻密に

兵としての素養をこの兒童期に於て充分なそうとし  
てゐる。

#### 結 論

要するに兒童各自が登校するを何よりの楽しみとし  
觀喜的に自主的學習に突進する愛らしい英氣を養へ  
ばよい。





### 三、學習の三方向と其の訓練要諦

多賀郡日立第四尋常高等小學校訓導

村山英夫

三四

はしがき

兒童の學校に於ける學習は、全體として經驗の擴充であり、價值である認識の構成であり、自然性の理惟化である。既に學校生活の凡てが其の學習である。けれども、其の學習をして眞に向上させ、眞に價值あらしめるために、教師の地位から、これを指導しようとする對象として考察するならば、そこに三つの色彩を認め得る。これを教育の本質に鑑みても、確かに三つの方向を考へ得るのであつた。

兒童が主として知識技能の修得のために學ぶと言つた方向、そこには教師の力に俟つて、教授指導を仰ぐといふ意味が比較的濃厚に含まれてゐる。次ぎに兒童が主として自己の力に據り、自己の才能を發揮して、爲すことによつて學ぶと言つた方向である。後の一つは、教師と兒童との生活的、若しくは人格的接觸交渉によつて、直接的に、内生的に學習する

と言つた方面である。それは無爲の成化であるから有意具實的な教育の埒外だと言はれるかも知れないが、埒外だと言ふことは輕視してもよい、疎外すべきだといふ意味ではあるまい。却つて指導の超形式的なものとして、教師の慎重なる態度を有つべき方向である。

#### 第一 教科的學習の訓練

一、意義 與へられてゐる教科課程について、教師の指導扶掖を仰ぎ、文化的人格的の基礎内容を擴充してゆく方向であり、従つて夫れは、學習の初階梯である。教師が、兒童の本性と要求とに即して努めて其の活動を促しつゝも、旨とするところは教師の方寸にある。教科の性質や教授法（學習に即して）の原理やに據つて教師が兒童に學ばしめる段階なのである。斯くて、兒童の規範意識は促發的に覺醒される。

即ち文化財の修得によつて自己が價值化される。また教師の適切な誘導によつて自發活動を促され、所動的にはあるが、發動性が振作される。そして、教師について學んでゐる裡に、學習法の骨子が漸明的に領得されるのであつた。

所謂、教授の反面としての學習が根據を有つ方面であり、從來の教授法が必ずしも一概に本質までも新學習法のために開渡さなくともよい理由でもある。彼の、兒童を活動させさへすれば自學も出來、活動しなければ直ちに學習態度が不徹底のやうに、外形にのみ囚はれた見解の陋を棄てたい。教師の綿密な指圖と嚴重な監視との下に、若しくは巧妙な陪策と陰險な傀儡との下に、競々として勞役されてる兒童の姿を美しき自學の衰辭によつて憫殺するの沒義道を去りたい。結果の正確、精神力の經濟、さうした原理を根柢として、幼い者、低い力にのぞむ時率る教師の活きた教授にこそ、眞の學習である光明を見る。

二、様式 凡そ分けて、個人的と學級的と分團的との三様式となる。そして、其の何れもに靜動的

二面がある。

1、個人的學習 其の靜動的は教師が個人について教授し、指導することであり、動的とは兒童が獨立的に活動せしめられることである。この動的學習がやがて自發的の域に達したなら、獨自學習とか自學自習とか言はれる。自主的學習とは其の態度の發展である。

2、學級的學習 從來の教授は實に其の靜動的な場合を指す。而して動的とは所謂相互學習のことである。兒童相互の活動によつて問題を決してゆくのである。

3、分團的學習 靜的には能力別による團體的指導であり動的には能力配分によつて協働する學習である。

三、要性 從來の型を被つて、眞に兒童の學習たらしめ、其の實力を向上させることの要諦は、形式の奥に張る精神氣魄の革新と振作とにある。

(1) 發動童 凡ては、兒童の活動を促し、精神力を鼓舞し、自律性目覺ましてゆく方法と機會との伸展であらしめる。縦し、教師の活動を主にする時で

三五

あつても、夫れは兒童の自奮を觸發して来る刺戟性を充分に含ませたものでありたい。教師の手をぬくことのみが兒童を活動させる所以ではなくて、其の内部的な發動は却つて力を盡すことの裡に觸發されることも知つてゐたい。

(3) 努力的 努力を惜しまぬ氣魄は大いに内部生命の躍動に俟つことである。單に骨を折らせることではなくて、骨惜しみを肩しとしない態度である。努力させることに興趣あらせ、努力することの意義を悟らせることである。學習の苦を厭はね真劍味の充溢である。

(4) 自由的 自らを主として徒らに助力を頼まぬ心も進んで自分を働かせて獨自な色彩を見せる力も、一に彼達を自由の潮流に乗せることに生れる。親切と統制とはあつても、壓迫と干渉とはない。正しきに導く權威はあつても、要求を蹂躪する強制はない。

(5) 歡喜的 學ぶことの歡び、教はることの喜びや誰もの胸に湧き立たせることは、其の學習を明るくものにす。自らを破つて新しい力に活かす源泉

(4) 反省的 成果に鑑み、自己に省みること、より強く、より深き努力への礎である。常燈明である鑑賞し批判することのない道程は餘りに狹隘淺薄である。自己深化の比首は省察の懐ろに秘められる。

(5) 創造的 模倣にも随伴にも意味はある。けれども、其の桎梏を脱しないことは鮮彩を有しない。自分を活かして、獨自な方向を展開して、優秀な天稟を閃めかすこと、心境や態度やが養はれなければならぬ。

五、一般的指導形式

(1) 學習の豫件  
イ 學習欲の喚起 學習意欲を燃焼させ流弊させ置かねば旺盛な活動と澄澗とした進展とは望まれない。  
興味を起させる。興味を除き外的に考へることは方便としては認められるが、それでも悪い意味に陥り易いのである。完成後の讃辭や評點やに釣込ませても悪い。如何なる方法で、これを完成すべきかを真に理解して、兒童の内部から起つた興味でなければならぬ。然し外形的なものであつても、夫

が斯の明るさに噴き出でるのであつた。活動の歡び成果の榮、融合の悅樂、その交響樂の中に兒童の生命は頌律する。

四、態度 氣剛氣は適切な指導と俟つて兒童の學習態度をつくる。態度の根強いものが養成されてこそ、生涯への修研が續けられる。

(1) 懷疑的 人の心に宿る疑問の証が、凡て開明の源となつて、そこから智識が流れ出る。疑問は進歩の母である。疑つて見、不思議がつて想ひを潛め興じて足を踏みこむところに宇宙の謎が解ける。學問ばかりではない。解説も、克己も、超越飛躍も、然りである。

(2) 追求的 萬難を排して疑の扉を開けばやまぬことが學習の根本條件である。解いても開いても其の次ぎ／＼に驚異と別天地を見出してゆく魂の展開も大切なことである。

(3) 自主的 學習は自己本性の欲求により、自己本位の心意活動により、自己本来の力によつて解決されねばならない。依頼を放棄させて信服の誠を致させ、獨力の勇を奮はせて我意を矯める。

これは懸て内部的に觸發して来る端緒となり、若しくは隨伴的に絶えず内部興味を促進させてゆくやうな性質のものは大いに活かさねばならない。そして、終には若林に享ける甘露の快味にまで精進させべきものである。

價値を知らしめる 結果を豫想させ、成績に反省させ、又は問題の及ぼす影響などが考察させて、奮發の意氣鼓舞することである。功利説は動機が自我の外にあるからといふ理由で拒斥されるけれども無下に棄てずとも活用の途は開ける。人格的社會的な學習の自覺には其の内容として、價値を知ることの意義を認め得る。

可能を覺らせる 主要點を暗示したり、既習事項へ巧みに連結したり、誤點難關を豫知させたり、力の承認意氣の稱揚高によつて確乎とした自信、若しくは漠然とした誇負の中から勇往邁進の態度を導くことが出来る。

(4) 目的なる活動 豫め目的が定められてゐて其の好機を捉へれば直ちに學習するといつた態度こそ望ましい指示されて、催促されて、始めて氣がつ

くやうでは發動的な學習などは容易に望まれない。  
目的要旨を知らせる——何を學ぶのか、何のため  
に習ふのかを知らせて置く。必ずしも理智的な箇條  
を憶えさせることではない。具體的な事實的な機會  
に於いて納得させておくことである。或は自ら目的  
を選び、要旨を定め、計劃を立て、其の機會を捉へ  
させることである。而も夫れこそ自主的學習の本領  
であつた。

教科課程を示す——兒童のための學習細目が欲し  
い。少くとも或る期間の豫定表が示されてゐて、兒  
童の用意が緊張されてゐるのでなければならぬ。  
目的指示が突進の間になされることになしに周到な  
準備の豫告たらしめたい。

發展の潮流に乗せる——價值發展の歴史が文化で  
ある根本に横たはる問題の發展してゆく潮流へ乗せ  
てくるならば、兒童は絶えず新しい方向と新しい疑  
惑とを有ち起してゆくであらう。歴史も理科も數學  
も其の根本である。理法發展の潮流に乗れば、次第  
に問題が湧起する筈である。それは必ずしも難  
かしい精神的理論にまで深入りらなくとも、事實の

經過、疑問の究追、條件の發展等、二次的外形的な  
ものに依據することも出来る。

(ハ) 問題解決の態度 常に疑問を離さず、問題を  
發見して、其の解決の方案を立て、努力を盡してゆ  
く態度こそ學習の根本的要件である。

懷疑の芽を伸ばす——早くから解決し切つたやう  
な仕末をつけて了ふことを避けて、何故に、如何な  
れば、何のためかといつた求知好奇の芽を伸ばさせ  
ることである。鋭い觀察と、新鮮な着眼との力を養  
ふてゆきたい、そして、更には因果關係を考へさせ  
矛盾と統一とを發見させる。それは必ずしも知識の  
對象ではない。神秘そのまゝの暗示やあらう。愛と  
生命との無限な流れも胸を射よう。

問題を發見させる——懷疑の芽は問題の花を開く  
指導し、暗示し、催促して、絶えず新しい問題を構  
成し活動の生氣を湧ちささないやうにすることである  
學習法を建設させる——なるべくは自らの考案し  
體得した學習の方法によつて問題を解決してゆくこ  
とを本義とする。縦し、教師の指導の下に立案し、  
計劃し、遂行してゆくのであつても、そこに、能ふ

限りの自由が許されなければならない。問題解決の  
方途を考察し、計劃を立案させてゆくことは、自分  
の仕事を理解し、真に自分の仕事に興味を感じ、而  
も個別的な創意を十分に活かさせよゆく所以である  
(2) 學習の進行

(イ) 質問の指導 聞き質すことは相互學習の要訣  
である。質問は疑問を解く最も簡易な鍵である。

質問の聴却を除く——疑問でも愚問でもよい質  
疑してくる態度を買つて親切に取扱つてやる。その  
ことは相互學習の場合にや言へることで、決して嘲  
弄的な侮蔑的な態度を質疑者に向つて見せてはなら  
ない。

質疑の價值と責任とを考へさせる——教材の性質  
や自己の眞情から見て價値のある質問をするやうに  
注意させる。真に自己の疑問を解くための質問であ  
るなら理會納得するまでは反覆することも必要であ  
る。又、他人がする質問であつても自己の問題とし  
て傾聴するの誠意と熱心と義務とがあることを考  
へさせたい。  
自問自決させる——造作もなく質疑して了ふこと

は餘りに自己を疎略にし過ぎる。能ふ限り解疑の糸  
を自己に探り、自力に方便を求め、終に難澁である  
場合に他を煩はすやうであらしめたい。けれども、  
其の故をもつて現に質疑したことを謬もなく拒斥し  
非難することは慎しまねばならない。

従つて、教師が應答するについては、なるべくは直  
接解答を避けて、再考を促し、反問して解決の暗示  
を與へ方法を示してやうにありたい。

(ロ) 檢證實驗の指導 根本原理を考察させ、又は  
思想を事實に照驗して確實ならしめるやうな態度も  
學習上懇切に指導されねばならないことである。

實行させる——自己建設に深い關係があるばかり  
でなく、直接思想を深化し、又確實化するそれに、  
常に實行機會を求めて進行することは學習の範圍を  
擴張し學習の興味を高める。更に、獨立的な實  
行は自ら劃一的取扱を成る。

實事實物に就かせる——内容を豊富にし、思想を  
確實にし、問題を直接的に解決するばかりでなく、  
解決整理は、更に一層進んだ學習問題を産み出して  
くる。

而も、

自然に縫り、大地に就くと言ふことは、生活全體を學習の舞臺とすることである。あらゆる方向に學習精神を發揮して、自己建設に努むべきである。自主的學習への一基石は、こゝにも据ゑられる。實驗實習させる。問題の解決であり經驗の補成である。そのうへに、目標と計劃とを明瞭直截に對照し得る作業として自主自學習の値打を含むのである。

(ハ) 應用創作の指導。一の修得が終つたならば其の力を暗示とによつて新工夫を加へて見させる。後には、創作のための修得となり、又は單なる應用でなく、新機軸を現はしたはんとうの創作ともなり得る下あらう。

練習應用させる。練習や應用の方法形式を種々に工夫させて、收得を確實にすると共に創意を活かせる。

創案工夫制作させる。始めは模倣であつても改作であつてもよい。常に自分を活かさせ、既習の知能を生かして、何かしら新しい意味を見出し、價値をつくりあげるやうにしたい。生活化させる。學習がほんとうに兒童の欲求と

四〇

努力などを根柢とするものであるならば、その收得の結果は兒童の生活化しなければならぬ。自己の生活に合致し包攝されるものとして其の收得が生きたる學習を決して大人の眞似をすることに陥らしめたくない。

(3) 學習の處理  
イ 成績點檢の指導。過誤を直し、缺損を補充し、錯雜を統整して、結果の正確と優秀とを更に磨き仕上げることである。

點檢の方法としては、先づ自分ですること、相互に交換すること、教師の檢閲を経ること、公示すること等が數へられる。  
ロ 反省批判の指導。先づ自省することが大切である。學習の結果について、成績の進退について、自己の態度について、努力について眞勢に深切に省察を加へさせることである。

或は、報告公表して相互に批評眼を養ひ、反省戒師の機會とし、資料たらしめる。教師の加へる嚴正にして更生を目的とする批判は、批判の態度と力とを養ふ上に貴重なるものである。

(ハ) 整理統計の指導。成績を或は統計し、或は整理し、又其の成績物の保存利用等についても指導の餘地と意義とがある。そこに、意匠や新案の珍重すべきものを見出すことも稀しくない。

六、指導案。學習の向上も系統も、斯の指導案を唯一の寶典とする。従來の無意味な教授案を廢棄して、この指導案をつくるべきである。けれども、それは教授案を訂補改善したものであればよい筈だ。

(1) 指導案は教材の性質内容を精査して、兒童が學習すべき方法と、過程とを明らかにして置かねばならない。研究すべき要項、起り得べき懷疑當然連起さるべき關係事項、夫れ等の一々について解決の材料方法等が豫定されねばならない。

(2) 指導案には學習の趣旨を明瞭させて置かねばならぬ。そして、其の趣旨から眺めて、兒童の活動範圍を十分に認めておくと共に、教師の執るべき態度と、活動すべき場合をも確めておくことである。單に、兒童の活動にのみ牽引されて支離滅裂な終つたり、亂雑な不統一に流れてはならない。  
(3) 指導案は必ず前程を十分に見越し、全體を明

確に眺めた上で、學級の速進者を一歩踏み越えた程度に作製しなければならぬ(兒童の自由を尊重してあるし、學習の劃を破つてあるから、小さい範圍の豫定で縛りつけることを許されない。どこまで伸びてもよい、その進路と要旨とを明確に指示し得るやうな内容を有つておなければ權威がない。そこに伸縮自在であるといふ意味を含むものである。

(4) 指導案は兒童の成績、學習の結果に省みて其の基礎の上に立案されねばならない。教材本位ではない。學習本位である。兒童の實力進歩を省察することによつて常に活路をひらいてゆく指導の原本でなければならぬ。

(5) 指導案には學習の全體的考察が加へられることを要する。學習の形式についても、其の各様な發展と活用とを考へ、一般的指導の精神も汲み、更に、獨自的な自主的學習への發展と経路をも考察して置かねばならぬ。その一時限のため、又は一單元のために作製することではなく、兒童の學習全體を根柢として立案されるものでありたい。

七、各科學習訓練……(修身科、綴り方科)

A 修身科の學習

この科は兒童に研究調査させるといふことよりも、教師の体験や人格やに包擁して、その規範意識なり生活意欲なり道徳的情緒なりを自覺させてくること

(1) 教師からの指導要項

イ 生活反省の態度 日誌をつけさせることも指導の材料と機會とを與へる。生活経験や旅行談、又は反省思索の跡等を話させることもよい。罪過非行の告白や懺悔などは最も慎重に導くべき機會であらう。兎も角も、自分を異面目に眺め、真剣に考察して、嚴正な批判を加へ、理想への精進を努める態度が形成されるやう指導せねばならない。

ロ 生活觀照の態度 自己を知り、其の生活の中へ落ちついた氣持で浸りこんでゆける態度は、批判し苛責することを更に深めたものである。自分の生活に陶然として親しめない者は悲しむべきである。觀照は理性の批判を重くみるのであるが、それを一歩踏み越えて良い意味での享樂禮讚といふことを茲に見出した。

は隠さず告白したがよいし、他人の非行は本人から自首せしめるやうにしたい。

ハ 時事問題の研究 新聞や雑誌を提示し、又は研究問題を提出させ、討議し、研究し、批判させる修身書は國民道徳を基調として、兒童の道徳意識、人生觀を確立させてゆくための内容を懇切に提供して呉れる。この教授によつて、餘程までに兒童の徳性は開發されるであらう。然し、道徳教育は夫れによつて完成されるものではない。眞の道徳的學習は寧ろ兒童の生活を本位とし、材料として達成せらるべきものである。偶發事項や時事問題を捉へて切實に内部的に其の生命力、魂を覺醒させてくることである。

理想をつくり、人生觀をつくつてゆく内容が豊富にされ、道徳的規範意識が振作されて、反省批判のメスが自己の生活経験の裡に深く刺されてゆくなら修身科教育の目的は達成されるのである。彼の訓練要目と稱し、又は實踐指導と名づけて、定規的な細目を編み、機械的に、附焼及的に徳型を鑄固めやうとする陋拙を繰返したくない。如實に展開される生活

ハ 敬愛信賴の態度

小禮容をならべたり無闇に審議立てたりすることを學習そのみ心得させてはならない。教師を信賴し敬愛する情味の豊かに通つて美しき學習がなければならぬ。父母の慈恵を思ひ、畏敬し私淑する人物の傳記や言行などに戀慕を寄せ、心服を致してやうな圓満な温良さが養はねばならない。

(2) 兒童の爲すべき學習

イ 一般的自習事項

讀解 内容の要項を捉へる。話せるまで解釋。摘要 傳記的に又は條項的に披覽し、又は表解。この事實、どんな意味が主眼であるか、どこに自分が感動させられるか、學ばねばならないかの考察。

照合 勅語、詔書、校訓の何れに該當してゐるか。既修の誰の徳行と、又は何と合致するか。格言の解釋。内容との合致。

研究 歴史、讀本、その他に就きての研究調査。自發問題の省察 實際生活の中に頻發する道徳問題について、省察し、批判し、解決する。過失

に根強さを求めたい。

B 綴り方科の學習

人生科として其の本質を認める。表現のための創作ではなく、生長のための創作であり、伸展のための表現であらしめたい。

(1) 教師は何を狙ふべきか。

イ 自然に生くる魂の歡喜 自然の大きな愛につまされて生くる歡喜に満ちた態度をつくりあげねばならぬ。自然物々の美しさを愛させる。個々の微細な妙趣を思察させる。無邊な調和と宏遠な統一を想察させる。

ロ 大地に就く生命の喜悅 がつしりと生活感情の眞實と生命意欲の眞剣さから、自分と其の周囲とを見凝めてゆく態度が欲しい。生活の隨處に愛と生命の輝きを見出させる。尤も、修身が見る人生や理想は善の光に照破されたものであつたが、綴り方が汲む人生や理想やは美の假象に描きあげられた儼れである。現實を憧憬の空にまで飛翔させてゐる。批判することよりも情味を掬う方が濃くなつてゐる。

新の二項が、何時も擬々方學習の背景となり基調となつてゐるやうに指導されてゐなければ成功しない。最も自由に、而も獨自に自己を表現すべき夫れが極めて形骸的に墮し、又は精神的に陥るの憾みは其の禍根をこの餘損と暗黒と線外とに有つと言ひたい。

(2) 兒童は如何に努むべきか。

(イ) 鑑賞の態度。どこに其の文章の値打があるかを考へる。作者の態度と努力とを見出す。作の内容を知實に想像する。自分の生活経験を回想し反省する。其の文章によつて自分がどうすべきか、したいかと思ふ。模倣し改作する。生活的に實現する。生活と創作との規範と見出す。新しい方向をつくる。文章疑をつくる。感想批評を書く。技藝を編む。

(ロ) 創作の態度。自然や人生に親しみをもちて書きたいと思ふ内容がすぐ捉へ得る。題材の趣旨が汲り内容の要項が擧げられる。創作意が燃えて不斷に習作してゐる。表現の形式について良い態度(一行の文にも意味が生動する。句詩を打ち、内容を確める読み味はふ。推敲する。文字の記述、語の活用

符號形式の運用、誇張と比喩の技巧)を有つてゐる着想の新鮮と構想の奇抜とが養はれてゐる。藝術的價值が了解される。生活録をつくる。

第二 自主的學習の訓練

一、意義 教師の提する具象的系統的な學習があると共に、兒童の産み出す自發的自主的な學習もある筈である。それは、嚴密な意味と具象的系統的とは言ひ得ないかも知れない。彼が教育の目的から割り出されるものであるのに對して、此は兒童の要求から生れるものだからである。然し、其の要求を充足し學習を伸張せしめて行く上に於ては、ひどく具象的であり系統的である。そして、兩者の一致は教師と兒童との一致に於て容易に求められ、兒童の要求はやがて教育の理想にまで到達せしめらるべきものである。

教科的學習に於ても、目的は兒童の人格創造にあり方法は兒童の自發活動を眼目としてゐる。そして自主的學習に於ても根柢と機會とを有たせることに最善の注意と努力とを拂つて来た。けれども、そこには教科本位規範本位教師本位の纏綿と主張とを免れな

い。飽くまでも或る規定と範圍とを與へられた中の自由であり、自己活動であつた。基礎をつくり、根柢と養ふためには、夫れが必要であつたのである。そこで、教育の一面には全く夫れ等の限定や局限やを解放した兒童の自由擅上が開かれなければならぬ。自主的學習の方向は實に斯の一面を明確に指示するものである。

兒童は教師の補助や指導は受ける。けれども、何等の束縛と限定とを有たない。日力的に、發奮的に自らを刺激し、自らを勵まし、自ら構案し、自ら努力して、自己の生活経験を、規範意識を向上させ發展させてゆく獨擅場である。即ち教師の補助指導の下に環境を活用して、自主的に、自律的に、文化を取得し、自己経験を補成擴充し、自己を表現してゆく活動方向である。そこには、自律性が自主的に發揮されてゆく。規範意識が體現的に覺醒されてゆく。學習法が體験的に建設されてゆく機縁を豊富に有つてゐる。

二、合科としての校外學習

(1) 要項 題材を環境から自由に選擇して、合科

的に學習せしめることである。校外と言つても、場所の遠近は適宜である。或は、補充的實驗の場合もあらうけれど、獨自の目的を有ち自由學習の機會として爲さるべきことである。

(イ) 題材及び問題と自由に(又は合議的に)選定する。

(ロ) 學習方法を獨自的に工夫し體驗する。

(ハ) 發表し、意見を述べて、相互に學習を補成する。

(ニ) 學年の基礎とし材料とする。

(イ) 低學年 合科學習を三學年あたりまでは本體としたのであるが、實のところ設備も方案もまだ出来てゐない。そこで、一週間あたりの教科的學習の前程を見越し、其の活用的方向として、教師が用意し、又は兒童の要求に因ふて、題材や方法を合議して、三回位宛實施して行く。

(イ) 豫告 題材と期日の相談である。

(ロ) 方法 場所や學習の方法やを出発前に打合せ

(ハ) 指導 學習の相談に乗ったり、局面を轉回する指揮をしたり、又は一齊に質問したり、劣等生へ助力したりする。

(ニ) 教授 場所は校外である。材料は鮮活である。そこに學校での教授とは趣向を異にしたものがある筈である。

B 高學年 全くの自由研究でありたい、寧ろ教師も一の學徒となつて範を示すべきである。素養を十分にして活きた相談と指導とが出来らるなら結構である。

三、自習的訓練 自學自習と言つて、正課の前後に豫習や復習をさせたり、若しくは、正課を全然兒童委せにすることは、餘程考慮すべきことである。前者では意味が不徹底であり、後者は意味を履き違ひてゐると思ふ。

(1) 要項 教育上に全くの自己學習の方向と機会とを見出すことなのである。教材的學習に於ても、自習すべき事項と機会とはある。然し、そこには教

師の指示と促發とが多分に働く。茲に言ふ自習は、問題を自己に發見し、方法を自己に工夫して、個別的な特殊な獨自學習をすることである。

(イ) 各教科中から研究事項を選択する。

(ロ) 自己の成績と進度とに省みて種目範圍を自由に決定する。

(ハ) 參考資料研究方法を研究立案する。

(ホ) 時期も時限も場所も隨意に定める。

(ヘ) 或は合議によつて協同研究する。

(ニ) 成果を發表して批正を受ける。

(イ) 實際的指導 先づ、第五學年以上に望まれることである。低學年は特に種目や範圍を限定して、個々の爲し得る程度であらう。

(ロ) 時間 朝の自習時、放課後の自習時、それに毎日の中、一二時間を其のために割きたい。

(イ) 豫定案 一週間分を、前週の土曜に作製し、前週分のと併せて月曜に檢閲を受ける。

自習豫定案(順號)	自	月	日	科第	學年	名
曜日	科目	研究要項	方	案	參考資料	反省録
水						
火						
月						
評批						

(ハ) 場所 教室、圖書室、準備室、理化室。

(ニ) 方法 個人的、又は分團的。相互の討究や教師への質疑。參考資料の提供。

(ホ) 處置 土曜に反省し、日曜に補填。豫定案の檢閲批評。自習帳の檢閲。發表討議。

四、自由研究 教科を離れ、制限を脱し、全く個人的な趣向と發心とから研究させることである。なるべく長期の計劃を立て、範圍も廣く、精細な研究をさせて、根氣を續け、結果を纏まつたものにする

る冬夏の休業等を利用させるのに最もよい。

(1) 始終懇切な指導と、同情の籠つた激勵とを加へる。

(2) 補助と便宜とを與へる。

(3) 活用させ、利用する(研究の苦心、努力談等)成果を纏めて、公表させる。

(4) 五、作業的訓練 動機を誘發し、思考を躍動させ教育と人生との密接な關係を具體化して學校内に生活を実現させ、技術を體得させて其の結果を多方向への具體的基礎たらしめるといふことはプロジェクト教育の内の包の意義として提唱せられてゐる。そして目的のある活動としてプロジェクトは其の段階として觀念或は計劃を具體化するときには、目的、計劃、遂行、批判を、問題解決のときには、疑問、暗示、推理、檢證の四過程を履むべきことを示してゐる。

作業的訓練は、たしかに既記の自習的訓練と俟つてプロジェクトの原理を學習の上に活現するものであると言ひたい。

作業の方向に就いては、第一に製作又は修理、即ち手工圖畫地理歴史理科裁縫等に於ける學習の應用

的又は総合的、及び創作的方面の種材として教育と  
實生活、又は兒童生活を結びつけ、第二に遂行又  
は活動としての事業、即ち臨時に偶發的に生起する  
事項の解決處理、其の他見學觀察等の施行等によつ  
て教育を生活化し、第三に農業的趣味の培育又は飼  
養、第四に各種の當番事務による課業等を教へ擧げ  
ることが出来る。

六、學級會に於ける學習訓練

學級會の内容組織に關しては茲に省略するけれども、其の中に就いて

- (1) 會議 質問説明討論等によつて意見を述べ、所信を主張し、論難辯疏を練る。
- (2) 藝術會 展覽裝飾事務等の作業がある。兒童劇の創作、稽古、演出等。自由創作の出品。
- (3) 級誌の編輯 發刊。

其の他、學級會の組織活動が既に完全な自治的學習である。兒童は立派に其の學校生活を學習してゐるのである。學習を教授の反面にのみ局限して、その生活的方面を疎外することは少くとも偏見である。

第三 内生的學習の順練

教育を外形的にのみ論斷することは、其の事實を無視し、本質を認れるものである。學習を種々な形式の作業にのみ認りて、そこに周到な方策を施しても、夫れで眞の意味の徹底、即ち兒童の自覺的内生が齎らされるものではない。

如何に巧妙に活動させてみても、どれ程熱心に努力してゐるやうでも、そこには何等か介在するものがあつて、兒童は一つの傀儡に過ぎないやうな悲哀と寂寥とを感じさせられること屢々である。ほんたうに兒童も達の魂に火が燃じられて、燃ゆる力のうへに學習を欲求して來るやうなことが望んでも敢果ない夢の泡滅するらしい現状を見せられる。解放の悲哀、無爲の罪過を思はせられることもある。

教師の理性的、人格的生活に抱擁され、觸發されて、兒童の生活意欲が刺戟され、規範意識が啓發されて、自律性が目覺め、自由が示現するといった、内生的學習の方向を力説したい。これを、學習の範圍外とし、教育を超越するものとし、又は教育に隨伴してゐるものとして疎外し、輕視した傾向がある。

教師と兒童との理性と自然性との合致、普遍我の抱擁致が茲にある。

一、訓話 獨學苦學の例話説話が、どれ程彼れ達の生活意欲を激勵し洗練するか知れない。魂への點火は忽ち旺盛な學習欲となつて燃えあがる。

二、愛と熱 教師の親切が徹底した時、兒童の心は燃え動く。好意と熱誠とが共に兒童の魂を抱きしめるのでないなら、自の學習説法も彼を偶像化す以上の力を有たない。

三、人格化 眞に生きてゐる教師、學びつゝある教師の膝下には、言はず示さずして、熱心な學習が生發する。可憐兒は鳩のやうな眸に敬慕と信服の誠を湛へて教師の道を踏む。

この方向の自然化がこれほどの深く實績をあげてゐるかは、久慈の大塚正明氏に見よ。

學習と言つて、直ぐ教師の眉から兒童の脊に厄介な重荷を負はせ換へることもない。兒童が主になるからと言つて、教師が布衣の草履纏みに成下る譯でもない。教育は金輪際「普遍我の抱擁」にある。右

習新法の上に超然として、批判の光りを投じ其の地位を得させて、全體としての教育を永遠に導くべきである。

省察の疎雑、遲鈍、方策の簡略、粗漏、傷だらけではあるが敢へて表白して、大方諸賢の高教を仰ぐ





#### 四、私の学習訓練

行方部津邊常小學校訓導

岡里利隆

五〇

私は三つのこと  
 1 私の学習訓練観  
 2 二つの態度  
 3 私の学習訓練案  
 を発表致します。

□ 私の学習訓練観  
 学習訓練とは学習過程の態度づけといふこと

子供はウツチャツておいても生活していく。チツトも指導しなくたつて学習していく。併しそれは子供自身相應な領域のない生活であり、学習であらうかもうそれ以上伸びて行く餘裕が無いだらうか。私にも、それであつて子供が持つ全部の力が使はれ、又其の使ひ方に申分がないとは、どうしても考へられませんか。自分を價値化していく態度にもつと

いくことであらうと思はれました。

□ 二つの態度  
 学習訓練といふ仕事は、自由な、共働する態度で自由な共働する態度を意志させること

いろ／＼の方面から考へて見て教育作用其物はもつともつと、自由であり、共働であらねばなりません。さうだとしますと、自由な共働する態度が取りも直さず学習する態度であり、指導する態度であるといふことが出来ませう。(自由共働が教育の本質だと思ふから)

自由な態度  
 1 自發する態度  
 2 自己を規定する態度  
 3 創造する態度

何か探し出さうとする態度  
 目的を解決する態度  
 発見者の自己構成する態度

共働する態度  
 1、相互扶助する態度  
 2、協力する態度

指導すべきところがあると考へられます。その指導作用、私はそれが学習訓練だと思へます。言ひかへて見ませう。子供達のあの学習をして最も正しい、最も有利な方向に導いてやるため子供達に生活の仕方、学習のし方を意志させることが必要だと思はれます。それが教師の指導であつてこゝにいふ学習訓練だと私は考へます。

別の言葉で言へば学習訓練とは学習過程を態度づけること言ふのであります。すく／＼このびていく学習のメトードを態度づけてやる。学習態度を情意的に直感させることでもあります。さうして期待するものは子供達が理念實現のために全部の力を申分なく使はれることでもあります。

かく意義づけ再び学習訓練を考へて見ると、所謂学習訓練といふ仕事は、指導者が導くに十分な指導態度を持つて子供達に、アル学習態度を要求して

□ 私の学習訓練案  
 自覺にまで引上げて学習を学習させる

(一) 指導する前に

1、教師は自由な共働する態度の持主にならねばならぬ。それは学習訓練といふ仕事そのものが、教師の、さうした態度で子供にさうした態度を感化させ体験させるものであるから。  
 2、熟ある学習者とならねばならぬ。そこに靈感が起こり感化が作用する。即ち態度づけることは純粹經驗だからである。

(二) 自覺にまで引上げるには

1、興味に即すること  
 子供達が己に興味をもつてをり、自發的に學びたいと自覺してゐるものから學ばしめることです。興味のない所に努力は生じません。例へば「この時間に理科をやりたい」ならば、理科を學習させますし、同じ理科の中でも、火成岩の成因よりも電流のことに、たくさん興味がありましたら、それを先きに學習させます。即ち兒童の生活や意

識に即するのです。しかしだらしなくさうさせるのではありません。規定された時限、範圍の内に於てのことであります。この所は何月何日までになし終るべく且は發表時限に臨む權利を得るために精進させるのであります。

2、興味を啓發すること  
興味を感じないものでも、その生活のため學習させなくてはならぬものについてです。それには子供が分り切つてゐて自然と學習の必要を感じざるやうなものから段々と深入りしていくのです。

3、功利心を利用すること  
イ、作品に對して賞與します。これは名譽心を利用するばかりでなく創作心も昂められるでせう。

ロ、功程を検閲します。檢閲のすまぬものは發表時限にのぞめなくします。

ハ、自他の仕事を比較させます。  
4、努力感を起させること  
現在の自分の仕事の出來榮えと曾て出來上つた自分の仕事を比較して自己がどれ程進歩したかを

悟らせて奮發させる。又「お前はこれに進んだ」と其進歩の過程を實證してやるのです。  
5、必要感價值感を起させること  
6、學習豫定案を子供と共作すること  
子供と共働して豫定案を作り、一學期分乃至一年分位を指示しておきますと、學習時以前に相當の觀察や材料蒐集の便宜もでき、生活即學習となつていくことでせう。

(三)

- 1、自由學習時間を與へること
- 2、學習豫定案を共作すること
- 3、指導案を與へること
- イ、科目學習事項、参考書、時間數等を明記
- ロ、子供達の動向をそつるやうに作製すること
- ハ、研究事項はすぐ共用紙へ記入できるやうに
- ニ、檢閲を受けるため提出する期限を明記
- 4、全我活動をさせること

- イ、問題解決をさせる。自己活動をさせる。
- ロ、書物、新聞、雑誌の調査、
- ハ、理論的考察、
- ニ、觀察、實驗、參觀、製作、
- ホ、發表の準備、
- 5、發表時限をおくこと

五、郷土に即した動的學習訓練

北相馬郡坂手尋常高等小學校長

石川 又 壽

(一九二四、六、九)

故二次ノ如キ外形ト過程トヲ必定條件トスル。

- 1、外形
  - 一 第一次的學習訓練
    - 用具ノ使用及ビ使用後ノ整理
    - 整頓等ノ一學習作業ニ附随シ
    - タル低度ノ訓練ノ完成ヲ指ス
  - 二 第二次的學習訓練
    - 課題ノ目的ヲ自覺シ作業計畫
    - ヲ立テテ獨自學習、相互學習
    - ヲスル訓練ヲ指ス
  - 三 學習訓練ノ徹底
    - 自治ヲ重ンジ自律的ニ學習セ
    - ントスル過程形式ノ訓練ヲ指
    - ス。シカシテ三者、個々分立
    - スルモノデナク、相倚リ相助
    - ケ互ニ因テナリ果テナリ茲ニ
    - 始メテ建設ヲ見ルノデアル。

第一章 言 緒

兒童ノ現實生活ヲ基調トシ、コレヲ助長輔導シ(客觀規範ニ照應シツツ)兒童ノ自己計畫活動ヲ尊重シ、學習過程ノ立体化、深化ヲハカリ統一アル自己建設ヲナシ得ル學習訓練ヲ養成セントスルノデアル

第二章 學習訓練建設ノ要諦

兒童ノ心身ノ發育並ニソノ動向ヲ闡明シ規範ト如何ニ相應セシムベキカヲ考察シテ一大指針ヲ設定シ堅實ニ根柢深キ學習訓練ノ建設ニ努力セントスルノデアル。

注意(善)	混合型	運動型	聽覺型	視覺型	姿勢		營養			概評	發育			身
					惡	善	丙	乙	甲		疾病	丙	乙	
三〇	五	四〇	二〇	三〇	一一	三五	一	一六	一三	一二	一六	一九	五	
二五	七	五	一八	一三	一三	三〇	四	三三	一七		一一	二七	三	
二五	七	五	一四	一九	二〇	二五	二	二九	一四	三	一三	二三	九	
一一	三	七	一八	二二	二八	二二	六	二三	二〇	二	一五	二四	一〇	
九	五	七	一三	一七	二三	一九	六	二三	二三	九	一一	二八	三	
二〇	〇	八	一〇	一八	一四	二二	三	二三	一〇	二	六	二五	五	
四一	四	五	三〇	二二	二六	三五	二	三一	二八	八	一六	三七	八	
161	31	72	123	140	135	187	24	177	105	36	77	184	43	

五五

家庭教育無	家庭有	遺傳	1 個性					
			尋一	尋二	尋三	尋四	尋五	尋六
六	四〇	一一	一	二	三	四	五	
一三	三〇	八	一	二	三	四	五	
三五	一〇	五	一	二	三	四	五	
三六	一二	三	一	二	三	四	五	
三九	三	四	一	二	三	四	五	
二八	八	七	一	二	三	四	五	
五二	一〇	九	一	二	三	四	五	
209	113	48	計					

本校兒童概観

規 範  
 2、學習作用(過程)  
 照應  
 自己建設 → 自律的學習過程 → 促進基礎  
 現 實  
 第三章 規範考察(内容ヲ主トシテ)  
 一、知育 眞理ヲ貴ブ態度ヲ養成シ、思考ノ原則ニ馴致セシムルノデアアル。  
 一、德育 教育勅語ヲ指導内容規範トシ誠實ヲ貴バシメントスル。  
 一、美育 充情直観 形式内容一致

54  
 觀念擴大  
 關係活動昂進  
 有機的統一  
 假象界  
 價值アル内容  
 一、体育 生理衛生ノ理ヲ解シ運動ヲ親シミ身心ヲ修練セントスル態度ヲ養フ  
 第四章 兒童觀ノ確立  
 學習訓練ノ堅實ナル建設ト徹底ヲハシラウトスレバ兒童ヲ眞實ニ理解シ然ユルガ如キ熱ト愛トヲ以テ努力セネバナラヌ。

教科	修身	國語	算術	唱歌	圖畫	手工	体操	地理	歴史	理科	正シクテノ集 中スル者	
											年	年
第一等	一〇%	一三%	六%	一九%	一三%	一三%	二六%				二	三二
第二等	七%	一五%	五%	一七%	一七%	一九%	二〇%				二	三五
第三等	一四%	一二%	一六%	一四%	一三%	一三%	一八%				五	三三
第四等	一二%	一六%	一七%	一一%	一〇%	九%	一一%			一四%	三	三四
第五等	三%	一〇%	六%	一八%	三%	七%	一六%		一七%	八%	三	三二
第六等	一〇%	一七%	一〇%	六%	五%	九%	一三%		一〇%	一〇%	六	二六
高等	八%	一四%	八%	一六%			一六%		一三%	一二%	六	三五
											227	

口) 教科ニヨル教師兒童ノ態度

意注ト勢姿	態度不整ニテ 集中セズ者	固マリスギ テ集中セズ	態學		力思		能發		集 中ニ 基
			度	習	考	力	表		
悠ヤトシテキ テ集中スル者	集中セズ者		一六	三〇	一〇	三六	一八	二八	一六
			五	三	三	二〇	二〇	二〇	一八
			三	三	三	二〇	二五	二〇	二〇
			四	二〇	二五	二〇	二八	一七	二〇
			二	二九	二〇	二二	二八	二七	三八
			五	一四	二八	一三	二九	二六	三三
			八	二八	一一	二五	一三	二三	一六
			五	四五	二〇	四一	一三	四八	二〇
28	41	26	138	196	123	199	133	189	161

圖 畫	唱 歌	理 科	歷 史	地 理
(2)(1) 教師ハヨク兒童ノ相談相手トナル様ニスル態度 趣味ヲモツテキテ兒童ニ刺戟ヲ與ヘ様トスル態 度	(4)(2)(2)(1) 教師ガ趣味ヲモツテアタルコト。 趣味 發想——深イ理解ヲモツ。 上品ナ清々シタ態度	(3)(2)(1) 共同觀察 冷靜ナ態度 發見的態度	(2) (1) 説明ニ趣味ヲモテ兒童ノ生活ニフレ様トスル態 度。 因果關係ヲ共同研究セントスル態度。	(3) (2)(1) 共同調査 地圖ヲ利用シ凡テ地圖ニ結ビツケントスル態 度。 研究ノ深イコト。
(2)(1) オモシロイトイフ感ヲオコサセル。 自由ニ感じチカカウトスル心ヲモ タセル。	(3)(2)(1) 樂シム心持。 ノビノビシタ姿勢ヲトラセル。 オモシロク歌ハウトスル心持。	(2) (1) 觀察ヲ冷靜ニ精密ニヤラウトスル 習慣。(實驗モ) 發見シヤウ、研究シヤウトスル立 場。	(2) (1) 想像ト直觀トヲ自由ニ出來ル様ナ 態度。 探究セントスル心。	(2)(1) 研究態度。 描圖、實習ニ興味ヲモタセル。

算 術	國 語	修 身	教 科 要 點
(5)(4)(3)(2)(1) 正確冷靜ナ態度 低學年ニハ稍興味ヲモタセテ輔導的ノ態度。 推理スル態度、判斷スル態度。 兒童ノ數的生活ヲ整理シ氣分ヲ高ノル工夫。 直觀物ヲ功ニ使有シ理解ニ便セントスル態度。	(5)(4)(3)(2)(1) 幾遍モ繰リ返シ練習サセル。 發表ヲ種々ナ形デ自由ニナサシメル。 文ノ内容ヲ知ラウトスル態度。 發音ノ正確ナコト 文中ノ人トナラウトスル態度	(4)(3)(2)(1) 共同作業的的態度(示範) 實行ノ機會ヲアタヘル。 批判態度 教師モ出來ルダケシマリノアルキチントシタ姿 勢ヲトルコト。	教 師
(6)(5)(4)(3) (2)(1) 計算シヤウトスル立場ニオク。 實際生活(數的生活)ニ基礎ヲオク 様ニツトメサセル。 練習ヲスル氣組ヲ持ダセル。 思考スル態度。 冷靜ナ態度。 實際經驗。	(4)(3)(2)(1) ユツタリシク姿勢 讀書百遍トイツタ態度。 文ノ内容ヲトラヘサセル。 文章ノ妙所ヲ捉ヘテコレヲ讀ミ味 ヘル事ニヨツテ感動サセル。	(3)(2)(1) 實行スル。 端正ナ姿勢ヲトラセル 模倣的的態度	兒 童

學年	種別	4 精神検査ヨリ得タル本校児童ノ精神發達及傾向
尋一 二	感 覺	(1) 諸感覺進歩
尋三 四	意 識	(1) 單純ナルモ鮮明ニマ身振ニヨリテソノ意ヲ表スモノアリ (2) 記憶力發達
尋五 六	運 動 及 意 志	(1) 自由遊戯 共同遊戯 共ニ好ム
尋五 六	感 情	(1) 感情ノ持續力乏シシテ偏狹ニシテ利己的ニシテ活ト相容レズ (2) 競争力ナシ
尋五 六	本 能	(1) 蒐集本能ニ稍秩序立ツ (2) 好奇心旺盛 (3) 模倣力性旺 (4) 好奇心發達
尋五 六	注 意 態 率	(1) 疲勞シ易ク大人ニ比シ能率低シ
尋五 六	感 覺	(1) 諸種ノ感覺漸ク完成
尋五 六	意 識	(1) 推理力發達 (2) 情緒ニ彩ヲヨリ生理的變化ヲ多キヲ見ル
尋五 六	運 動 及 意 志	(1) 團體運動ヲ好ム (2) 意志稍確立
尋五 六	感 情	(1) 特ニ發達 (2) 愛的感情ツヨシ
尋五 六	本 能	(1) 愛情、嫉妬アラハル (2) 羞恥心アラハル (3) 社交本能アラハル
尋五 六	注 意 態 率	(1) 漸次向上

體 重	身 長	發 育 急 速	發 育 阻 害	體 操	手 工
男兒ノ方優ル。 女兒十一歳 十四歳	六歳 ↓ 九歳 ○尋一、二、三 女 [十一歳] 發情期 [十四歳] 發情期 ○(尋六 高女)	十歳 ↓ 十一歳 ○尋三、五、ノ一部ト尋四	本校児童身體發達ノ形式ヲ見ルニ直進的デナクテ律動的ニ進ンデキル。發育ノ著シキ變化ヲ示ス時ハ性別ニヨツテ異ナツテキルガ大休次ノ様ナ傾向ヲ表ハシテキル。	(1) 各運動ノ要領ヲ會得シテ居テ兒童ノ自然的活動カラ入ラウトスル態度 (2) 端然タル姿勢ヲ以テ活氣ニミチ和氣鬱々タル態度	(1) 工夫研究スル態度 (2) 趣味ヲモツテ刺戟スル態度 (3) 製作品ヲ實用ニ供スル態度
				(1) 活動シタイ氣持ヲ持タセル。 カラダヲ丈夫ニスル考ヲモタセル。 自然ノ姿勢ニオク。	(1) 工夫スル。 (2) コシラヒヤウトスル立場ニオク。 (3) 自由ナ活動ノ出來ル態度

種別	想像	思考	注意
摘要	<p>(1) 狭キ經驗ノ範圍ヨリ推シ空想ノ性質ヲオビ事實ト混同スル傾向ヲ有ス。</p> <p>(2) 童話ヲ好ム。</p> <p>(3) 距離、大サ、強ヲ過大ニス。新テナ形、殘骸ナコト、意外ナ出來事等ヲヨロコブ。虚言ヲ無意識ニ發ス。</p>	<p>(1) 概念ハ内容乏シキタメ範圍廣スキル傾キチ有ス。</p> <p>(2) 主要性ヲ略シ附從的ノ性質ヲ捉フル傾キガアル者ガ多イ。</p> <p>(3) 判断ハ論理的關係ヲ究明セズ觀念ノ機械的結合ニヨルモノガ多イ。</p> <p>(4) 自己判断ニ乏シイ。</p> <p>(5) 推理ノ誤謬ニ陥ツテモ平氣ナ者ガ多イ。</p>	<p>(1) 運動現象(外觀) 兩眼幅狭 運動停止 悲起要件 觀察</p> <p>↓水晶体ノ調節 ↓耳ヲ傾ク ↓隨意筋ノ一般收縮 ↓拳ヲ握ル。</p> <p>經過 反意的 遺傳的無意注意 將來予期ノ念</p> <p>内省</p>

興味
<p>(1) 尋一 事物ニツイテハ形態ノ美ニツイテ興味ヲモツノデナク自己ノ活動ヲ満足セシムルモノガ興味ノ對照トナル。自己ノ遊戯ノ用具トシテ趣味ヲ感ジ觀察ス。ハゲシイ感情トナツテ發表運動ヲ伴フ様デアル。</p> <p>(2) 尋二三 實際ヤクタクタフモノニ趣味ヲモツテケル様デアル。求知心モ發育サカンニナツテケル様デアル。</p> <p>(3) 尋四、五、六、 興味ガ永續狀態ヲアラハス。働キハ確實トナリ忍耐スルニイタル様ニナル。故ニ行動ト目的トノ一致ヲツトムル様ニナル。</p> <p>(4) 高一二 考察ノ結果興味ヲ生ス。</p>

以上ハ本校兒童ノ現實生活ヲ通シテ觀察シタ基本調査デアル。吾人ハヨク基礎ノ上ニ學習訓練要諦ヲ實施シ堅實ナル建設ヲナサントスルノデアアル。

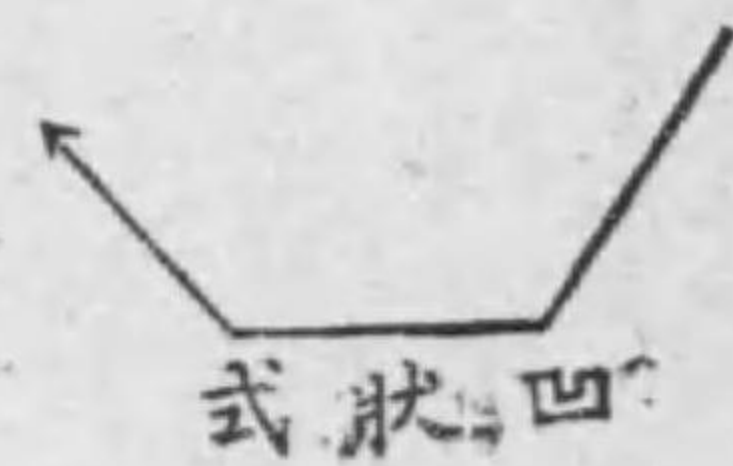
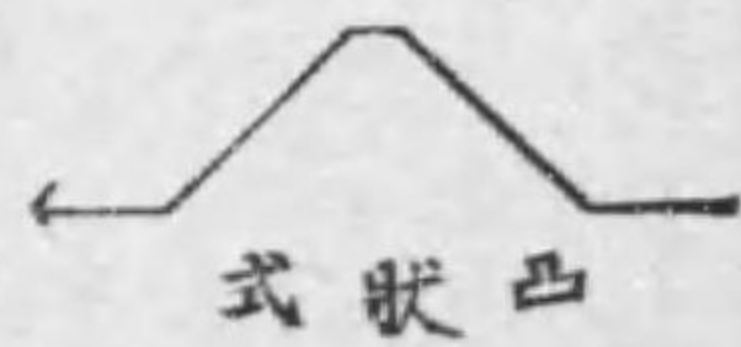
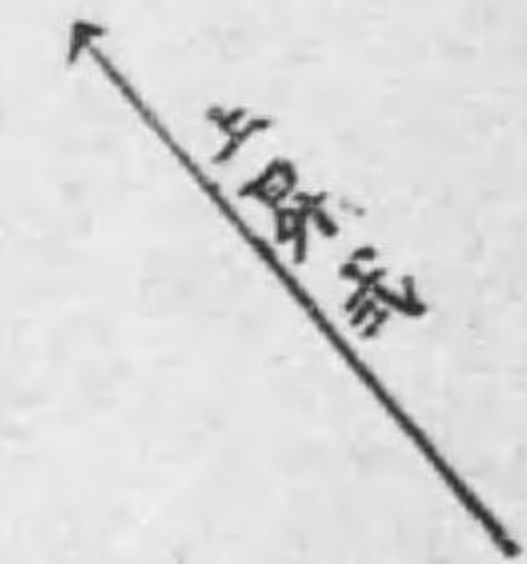
第五章 仕事ト疲労

學習ヲ遂行シテ行ク狀態ヲ一ツノ仕事ト見タノデアアル。故ニソノ間ニ存スル理法ヲ明カニシテオカネバナラヌ。

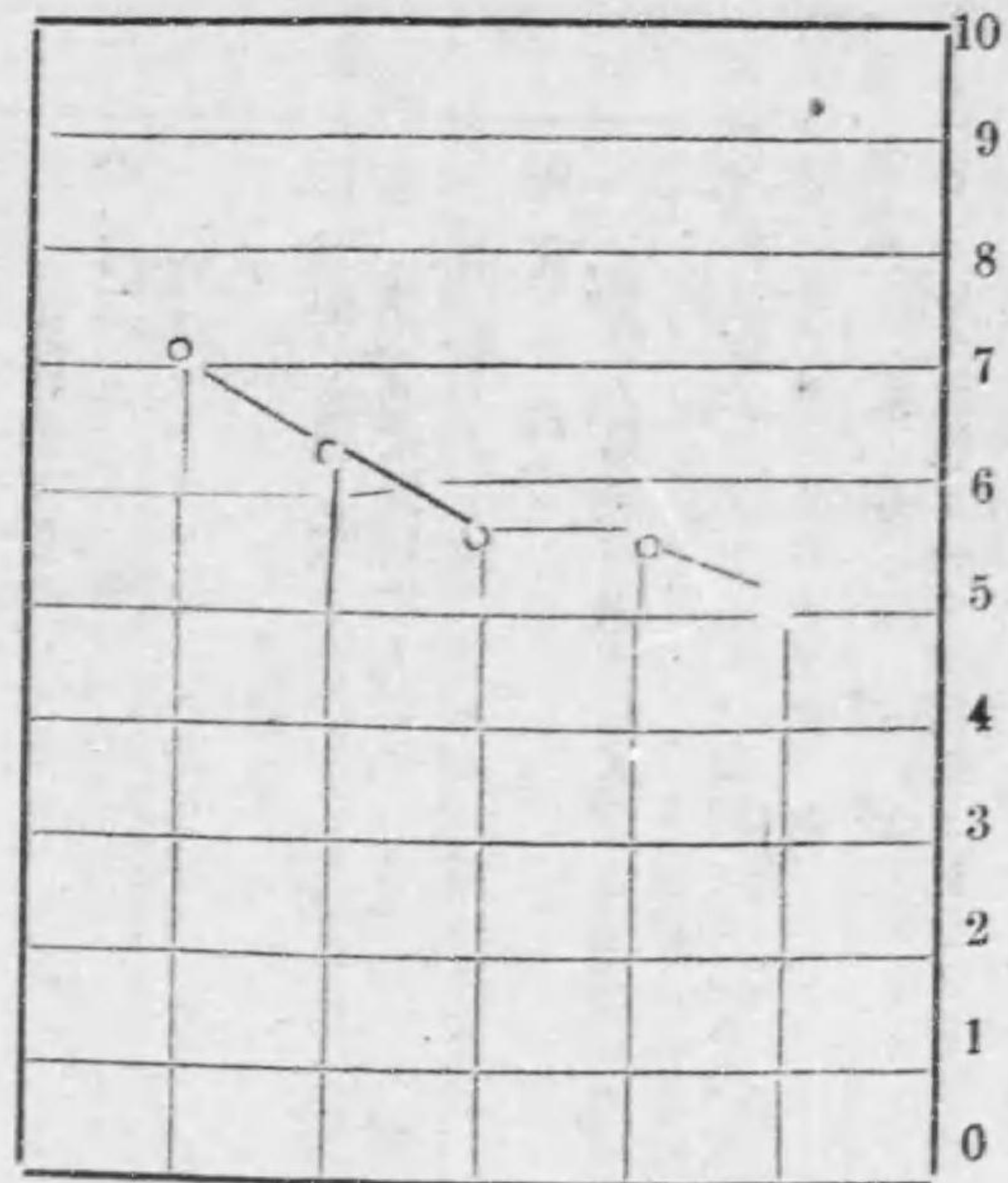
1、活動効果ノ増進

練習——習熟——適應——昂進

種別	5 疲勞恢復	精神	身体	種別	4 疲勞徵候
		(3) 注意範圍縮少	(4) 作業減少	摘要	
摘要	5 疲勞恢復	(1) 注意力ノ動搖	(1) 呼吸早深	摘要	4 疲勞徵候
		(2) 復現性向ノ衰弱	(2) 体温増加		



3 仕事能力ノ進路  
 大体左ノ五個ノ型式ヲ取ルモノデアアル。



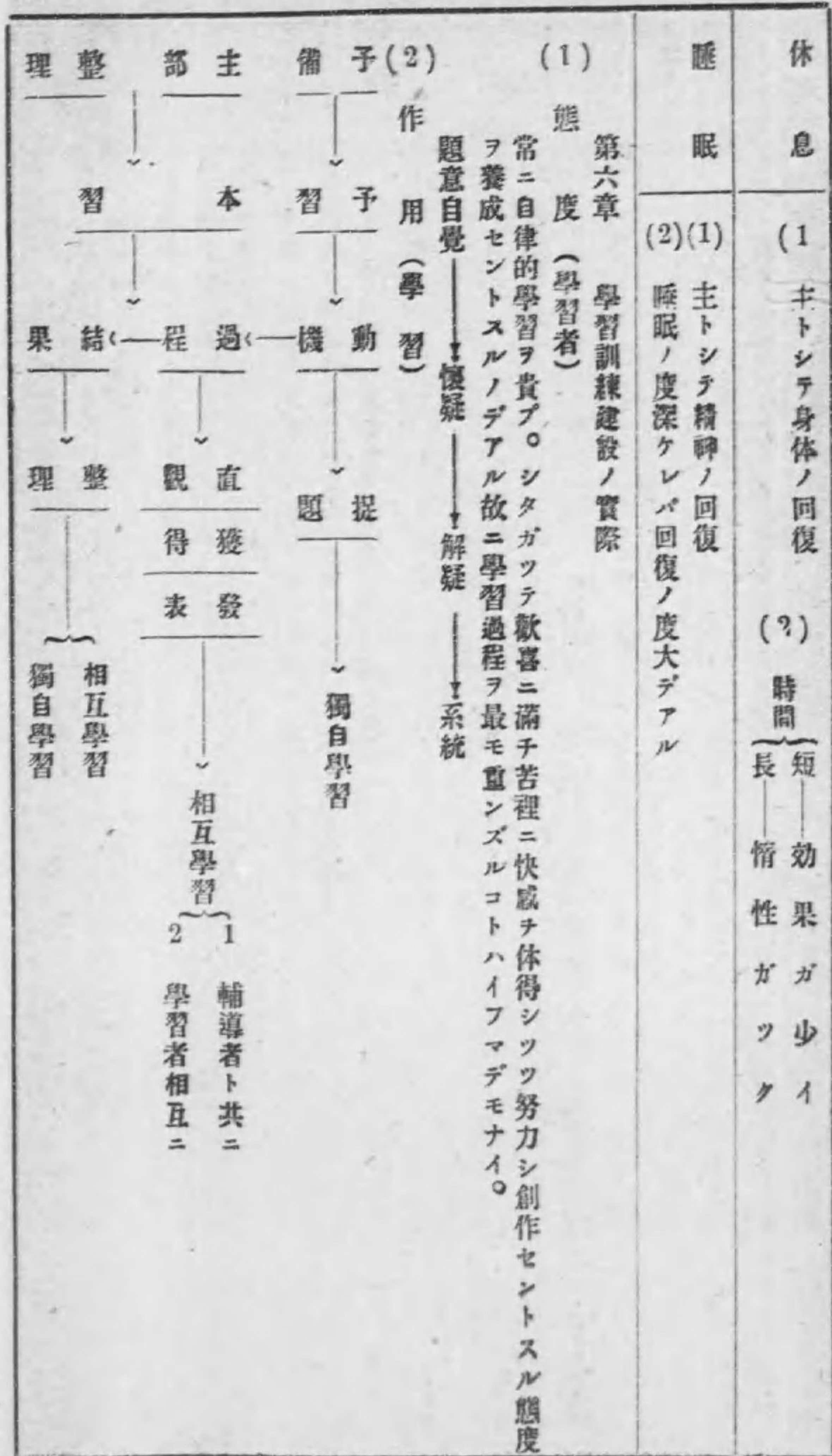
2 練習効果  
 仕事ハ練習ヲ積ムニ從フテソノ成果チマスモノデアアル

五 四 三 二 一  
 回 回 回 回 回

消去法ニヨル實  
 際ノ成績(尋六)



教科	体的	美的	德的	知的	教科	<p>第七章 學習訓練建設ノ實際指導法</p> <p>前記ノ如キ態度ヲ養成シ作用ヲ行ハントスレバ尙一層内容ニ立人ツテ實際指導法ヲ明カニセネバナラス。</p> <p>1 學習一般指針</p> <p>(1) 各教科ノ目的性質ヲ知ラセテオク。</p> <p>(2) 各教科ノ學習法ヲ指導ス。</p> <p>(3) 直觀ヲ重ンズルコト。</p> <p>(4) 兒童ヲ常ニ發動的地位ニオクコト。</p> <p>(5) 兒童ハ常ニ熱心ナ學習者デ熱ト愛ノコモツタ真ノ兒童研究者デアルコト。</p> <p>2 教科ニ配シタ指導法</p>			
全	全	(2)(1)	(1)(1)	動機誘發	子				
前	前	及材料研究	目的設定	過本	習				
(4)(3)(2)(1)	(2)(1)	(3)	(1)	質	過本				
輔導要徑	輔導	補	問	充	會				
領		(4)	(2)	批	會				
		(內)	正	程					
導習得驗	導習	(實踐指導)	概念擴張	結果	習				
	鑑賞								



2 經過中ノ注意事項  
 以上大略ノ指導ヲ摘記シタガ尙各教科室並ニ各經過中ノ注意ヲ指示セテハ實際取扱ニ不便ナルヲ思ヒ左ニ大略ヲ摘記スルコトニシタ。

種別	要
動機ノ誘	<p>(1) 環境整理          目下普通教室ト特別教室トヲ兼帯シ(時間制作製法ニ考慮シテ)各教室ニ機械、器具、辭書、掛圖、標本等ヲ用意シ學習ニ便ナラシメテオク。          唱歌、手工、(木工、金工)ノ如キ喧燥ニ陥ルモノハ注意シテ隣教室ガナルベクアク様ニ——          教室、廊下ノ壁間ニハ學習資料掲示スル。</p> <p>(2) 學習材料ヲ具体化スル。          ナルベク兒童ノ生活ト結ビツケ動機ヲ誘發スル。</p> <p>(3) 暗示ト鼓舞          輔導ハ兒童ノ好奇心、競争心、模倣ヲ功ニ捉ヘ或ハ暗示ニヨリ、或ハ鼓舞スルコトニヨツテ學習動機ヲ盛ナラシムル様ニツトムル。</p> <p>(4) 趣味          教科ニ趣味ヲ持タセ兒童自ラ學習ヲ欲求スル様ニ指導ス。</p> <p>(5) 輔導者ノ態度          低學年          愛ノコモツタ共學的態度ヲモツテ輔導ノ位置ニ立ツ。</p>

發	過
<p>(ハ) 中學年          愛ト熱ノ渾和サレタ輔導態度</p> <p>(ロ) 高學年          熱ノコモツタ輔導態度過</p>	<p>(1) 自己計畫          課題ノ自覺ニヨリ意志ノ努力ヲ惹起シ學習ノ計畫ヲ立テシム。</p> <p>(2) 歡喜の努力          感情ノ平衡ト意志ノ鼓舞トニヨリ興味ヲ感ジツツ努力サセル。</p> <p>(3) 直觀          正當ナ觀察、實驗、反省ヲ通シ解疑シ追求セントスル態度ヲ養フ。直觀——注意——觀念——記憶</p> <p>(4) 動的輔導          常ニ動的輔導ニ留意シ學習ノ立体化、深化ヲハカル。低學年合科學習ノ必要ハ蓋シ理ガアル。</p> <p>(5) 思考          心理的指導ト共ニ論理關係ヲモ指導シ思考陶冶ヲハカル。</p> <p>(6) 自治          學習者自身ノ自治心ヲ尊重ス。</p> <p>(7) 學習態度及觀念型式ノ適應          學習能力昂進及ヒ學習經濟ニ大ナル關係ヲ有スルモノ故注意シテソノ適應ヲハカルコトニツ</p>

國語	算術	地理	歴史
(1) 學習力ノ養成 (2) 自己擴充ト共ニ國民思想涵養 (3) 低學年ニハ口形圖利用。 (4) 正シキ發音ト言語 (5) 語ノ分析綜合的研究。 (6) 内容精査 (7) 文章觀養成	(1) 計算能力養成 (概算) ↓正確敏速 ↓檢算 (2) 日常知識涵養 (數的生活利用) (3) 初學年各種感覺ヲ使用セシメテ數觀念ヲ明確ニシテオク (4) 具体カラ抽象ニ進ム。 (5) 實驗實測ヲ重ンズルコト。	(1) 國勢ノ進展ヲ明カニシ國家理想ノ發揮。 (2) 海外雄飛ノ志想養成。 (3) 人文地理ト經濟思想ニツキテ。 (4) 實習ト讀圖力ノ指導ニ留意スル。 (5) 立体的取扱ヲナス。	(1) 御聖德ヲ仰ギ忠良賢哲ノ事蹟ヲ慕ヒ國民性ヲ涵養。 (2) 人生觀、世界觀。 (3) 古今ノ關係 (4) 直觀 (1) 真理追求ノ念ヲ養フ(論理的關係)

修身	教科	結果	過程
(1) 内省力ヲ養ヒ批判態度ヲ涵養サセル。 (2) 實踐指導ニ重キヲ置キ生活ニ實行ヲセシムル。 イ、日常起居動作 ロ、作業 ハ、諸種ノ會合 ニ、儀 式 ホ、遊 戲	各教科輔導上ノ注意 摘 要	(1) 常ニ結果ニ到達セシムルコト。 過程ヲ重ズル學習ハ必ズソノ結末ヲ豫定スル。サウデナイト習慣形成上非常ナル不結果ヲ招致スルコトニナル。 (2) 自己批判 過程ヲ通シ學習シ得タ事ニツキ常ニ自ラ系統づけソノ間ニ批判能力ヲ養成スル。 (3) 輔導者批判 常ニ激勵鼓舞シ結末ノ、批判ヲナス。	(8) 姿勢 トムルコトが必要ダ。 姿勢ノ適當ニヨツテ氣分昂上シ意識ノ速度並ニ強度ヲ大ニシ學習經濟上有利ナル故注意セモバナラス。 (9) 音聲 音聲ノ高低、強弱ハ學習者ノ注意支配ニ關係アルモノデアアルカラ注意セ子バナラス。

理科	圖畫	唱歌	手工	体操
(2) 直観力養成(自然物、人工物)學園利用。 (3) 實驗(歸納演繹) (4) 自然愛好ノ念ヲ養フ。 (5) 創作心養成(利用發見)	(1) 思想感情ヲ筋肉ヲ通シテ表現セシム。 (2) 觀察眼、鑑賞眼養成。 (3) 趣味	(1) ロ形練習、 (2) 聲調 (3) 美的情操	(1) 運動神經練磨 (2) 製作用力創作力養成 (3) 意志ト實行 (4) 實用	(1) 均齊發育、 (2) 健全ナル性質獨立ノ氣象養成。 (3) 各部ノ活動ヲ自由ニスル。 (4) 規律

4 附隨的施設

- (1) 學習法大要 (各科ノ學習法)
- (2) 學習ノート

六、自學心養成を主としたる學習訓練の實際

眞壁郡下妻尋常高等小學校訓導

入江 福松

(一) 緒言

自學主義の教育より見ても、又自動主義の教育思潮より見ても、兒童には自ら學ばんとする性、又自ら働かんとする性質のあるは何人もよく知るところなり。故に教師はこの性を利用して補導し指導して以て兒童の學習上に良習慣を養ひ、以て學習能率を高め、全時に自己修養の素地を作らねばならぬ。

東京高師の小林佐源治先生曰く

第一、教師は兒童の活動力を高めなくてはならぬ。

第二、教師は兒童の活動の方法を指導すること兒童は活動がすぎである、然れどもその活動は方針もなく又計畫もなし、よしあるとしても方法を盡してゐない。茲に於て、吾人はその活動を有力にする爲に導く方法、最も爲になる生を擴充する様な遊び方を教へる等、とにかく兒童をよい方に向ける様學

習活動について方法を指導せねばならぬ。

これ教育上、最も大切なるところにして、又教育上吾人教育者の大に努力すべき所ならんを信ず。

此の見地よりして大正十年四月尋常科六學年女七〇名を担任し、大正十三年三月高等科卒業迄、三ヶ年間、眞剣に實施せる余が自學心養成を主としたる學習訓練の實際を、赤裸々に發表して諸賢の御指導と御批正をあふぐものなり。

(二) 極端なる學習訓練を試みし余が動機

A 擔任前の兒童の經歷

(1) 成績、尋五第二學期末、校長が各學級學力調査を行ひし折、算術讀方の成績一人平均一七點二五にて十六學級の中、その席次第十五位なりき。

(2) 操行、すれて居る、先生を先生と思はない、尋四の折其の當時私の擔任なりし尋六女に喧嘩に來りしことありたり。

(3) 是等の原因

イ、尋四尋五と大切なる時、擔任指導が二回轉任なし何れも後任の來るまで四ヶ月を要せしこと。

ロ、尋二より尋五まで四ヶ年間同一教室にありて男生の教室と隣し度々喧嘩等をなせし爲、總てが男性化せしこと。

B、私の決心と覺悟

かかる状態にある組の擔任を命せられし時は、余は少なからず、悲觀せしが、とにかく本學年は義務教育最終の級にて大いに責任もあれば、この儘にて卒業するも實に不憫と思ひ、又一方優良なる學級、若くは平凡なる組を擔任するよりも、かかる劣悪なる學級を受け奈邊迄、救済の出来るものにや、試みんと、大いに臍を固め、研究的態度もて之に當りたるが、普通のやり方にては一年間に救済は覺束なしと考へ、

- 一、大なる努力と研究とを要すること。
- 二、如何なる事ありても彼等に根氣負けせぬこと
- 三、外部の厭迫、兒童並に父兄の反感等は決して

5、總べて眞剣に徹底的態度を以て、喜び勇んで作業に當り、毫も時間を空費せぬこと。

(四) 學習訓練の實際

1、學級自治團、級長副級長組長を定め、學級を八組に分ち、各組に組長を置き、兒童各自が責任を持ち、學級の向上發展につとむ。  
組長は各自學級手帳を持ち、一週間に於ける、その組兒童各自がなし居る状態を記入し毎週之を提出せしむ。

2、學習團、全級を八組(各組に優中劣、等分に配當)に分け各組に組長副組長を置き、その組を指導し、専ら學力の増進につとめたり。

(イ) 豫習復習、毎朝始業前二十分放課後三十分以上(教授者組長指導)行ふものとす。

(ロ) 家庭復習、毎日二時間以上と定め、豫習復習要項並に宿題は放課後之を課し、明朝必ず之が檢閲をなす。

(ハ) 劣等兒指導、放課後毎日三十分乃至一時間行ふものとする。  
程度をやさしくして、よく教へ以て何事も彼等に

恐れぬこと。

右三項を決意して擔任第一日目に兒童に今までの劣惡なることを話し善き人になりたくば、熱心にやるか慣れる迄は少しはつらいが、其の我慢が出来るか等のことを誓約し愈々眞剣に之に當りしが、一ヶ月間は彼等も非常に苦痛を感せし儘に見えしが、やがて五月上旬より漸々によくなりて高等科を卒業するに至れり。然れども余は兒童に對して課業多すぎるぞか、苛酷なりぞか、嚴に過ぎるとかにて、父兄より問題とならば深く本校を去るの決心と覺悟もて之に當りたりき。

(三) 余の教育方針

- 1、教授者は最も公平にして兒童一般に普遍的熱愛を以て接すること。
- 2、威壓することなく、兒童の無邪氣なるところは助長發展せしむること。
- 3、兒童に對しては、愛を以てしても親みは緊密たること。
- 4、賞揚的方法を、獎勵しつつ賞罰は嚴肅にすること。

安心を與へ、而して賞讃の辭を多くし、決して叱らない、教授者は常に温情を持ち忍耐して之に當り即ち手をかへ品をかへ、百ペンも二百ペンも教ふる覺悟もて決して彼等に根氣負けせぬこと。讚める事を多くすることとしても、決してはめつばなしにせず必ず賞めたる後には戒むべきこと。又叱つたときは必ず終りに賞めてやること。

(ニ) 優等兒の餘力發展、學習カードの使用、及び小黑板を利用して補充的に課題を與へたり。

(ホ) 休暇中(夏休、冬休)の復習

A、夏季休暇には一學期間になしたる算術讀方全部の復習、冬季休暇には二學期間になしたる讀方算術全部の復習を課し、新學期始めに提出せしめたりき。

B、之が成績並に處理……兒童は毫も怠ることなく、いつも四五冊の帳簿に記入して學期始めに提出するにけ、いつも嬉しく其の勞を感謝したり。

尙之が成績物は綿密に調査し賞讃の辭を與へ且つ彼等の勞を慰する爲、偉人の傳記並に成

(ハ)

功せし人の修養若辛談を二三時間宛話せしに  
児童は大いに喜んで聞き、一回毎に勤勉努力  
の念が旺盛になりしには驚くの外はなかりき  
學力調査……児童の學力を増進せしめんとする  
には、成績調査を何回も、多く行ふが善き様  
り余はその調査の成績により平素教授の徹底不  
徹底を知り、大いに自己の反省資料を獲得する  
ことに努めたり。故に調査終了後は児童と共に  
必ず問題の吟味をなすことしたり。尙七十名  
以上の児童に各科につき、毎月成績調査を行ふ  
は大なる努力を要することを覺悟し、此の意味  
に於て余は調査せし其の日に必ず二時間乃至三  
時間を費しても採點することになし、決して成  
績物の溜らぬ様になしたりき。

A、……

各學科とも毎月末必ず成績調査を行ふ。  
B、……児童各自の勤勉努力の習慣(學習態度)を  
つくる爲、賞を與ふることにし、小生自製の  
賞狀各科に付、一學科の成績、九〇より百點  
迄を一等八〇より八九點迄を二等、七〇より  
七九點迄を三等とし、簡單なる賞狀を與へ、

8、

児童の自治心養成。  
長副組長十六名)役員會議を開き、學級の向上  
發展をはかりたり。

(イ)

何事も眞剣に必ず徹底する迄努力することに  
し働くことは人の本分てふ自覺を常に児童に  
鼓吹したり。

(ロ)

善く勉め善く遊ぶ主義にて、決して時間を空  
費せず、而して時間を確守することに専ら意  
を注ぎたり。

(ハ)

禮儀を正しくし、且つ言葉遣を丁寧にし、如何  
なる仕事をなすにも喜び勇んでなし、女子と  
して大切な清潔整頓を尙ふこと。

9、兒表の師表となり修養の範を示し、以て彼等に  
學習態度を學ばしむ。

10、賞讃表彰慰安、余は此の三者を活用して訓練し  
たり。只斯くせよ、こうせねばならぬ等の命令  
のみでは徹底は覺束ないと思ふ。要するに教授  
者は常に修養につとめ、純真な人格を持ち自ら  
修養の範を示し、如何なる場合にも周到なる注

七六

各學期末に至り(一等5點二等3點三等2點  
之を採點統計をなす。

3、優勝額……全体の成績を良くする爲、優勝額、

1、2、3、をつくり全級を八組に分けし各學  
習團に毎月讀方算術の成績を調査し、最上なる  
ものに一等、次を二等、次を三等とし、其の額  
を與ふることになしたりしに、各児童喜び勇ん  
で眞剣に勉強する様になりしには感服の外なし  
4、學期末には各科に於ける成績を細密に調査し兒  
童各自の席次を發表す。

5、家庭廻覽……児童の學力増進をはかる爲、每學  
年度(一年間)に八十冊以上の成績物を採點檢閲  
し、考查問題を添へて廻覽なし、父兄及び児童  
の勉學獎勵に努めたり。

6、學級唱歌會、児童に眞剣に勉學さする一方に之  
が慰安とし、又彼等の個性を尊重する爲、一ヶ  
月一回つ、學級唱歌會(兒童劇唱歌童謡舞踊  
表情遊戲等)を開き實驗せしが、児童は喜んで  
行ひ一層眞剣に勉學なす様になりしを認む。  
7、児童役員會、毎週土曜日放課後(級長副級長組

意と限りなき温情とを持つて指導するの覺悟を  
要す。

(五) 擔任三年間の經過

1、全児童眞剣に勉強する様になりしには感服の外  
なく常に児童に感謝したり。

2、全児童著しく學習能率の増進せしを見る。

3、成績の結果、席次上下の變動により児童各自が  
自己の實力を自覺し、父兄も吾子の成績の實際  
並に席順等に鑑み感謝の意を表せし書狀を得し  
こと拾數回ありしも幸に反感をいだし不平を申  
出でし父兄未だ一人もなかりき。

4、女子教育上最も困難とする公不公の評跡を認め  
ず。

5、担任三ヶ年間に於ける児童讀方算術成績の向上  
一覽表

(但し一人平均)

七七

尋		高		高		
術算	方讀	術算	方讀	術算	方讀	
21.23	30.25	50.31	70.32	56.59	76.40	四月
28.15	35.30	47.37	73.54	53.25	68.17	五月
34.92	50.67	53.36	71.65	45.95	61.81	六月
48.27	70.32	52.73	69.38	67.97	66.71	七月
50.31	73.54	54.24	72.38	55.85	73.12	九月
47.56	72.36	52.18	75.67	53.81	72.85	十月
51.24	79.52	56.65	80.23	58.35	72.50	十一月
52.60	82.44	62.27	82.42	50.00	66.16	十二月
53.27	75.30	61.35	78.96	78.00	66.89	一月
52.50	77.27	63.75	81.45	82.63	82.38	二月
53.73	76.86	63.53	80.84	80.64	86.24	三月
44.89	65.80	56.07	76.07	62.09	72.11	平均

大正十年度尋常科第六學年第二學期末、各學級につき校長が學力調査を行ひし折、諸方一人平均八

二點四四算術一人平均五二點六〇にて十六學級の中等席次第二位に進みたり。尋五の第二學期のときに第

十五位なりしを、此の時第二位に進みたりしは、全く兒童の學習動機の旺盛になりし結果と衷心余の喜びとするところなり。

6、中等學校に入學歩合。

大正十二年三月末縣立女學校（下館二名、水海道一名）に三名、下妻實科高等女學校に十八名、計二十一名、同大正十三年三月末縣立下館女學校に一名、下妻實科高等女學校に三名合計四名、入學試験に出願し兩年とも、一名の不合格なく全部の合格を見たるは、兒童の勉學心の旺盛より來りし努力の結晶によるものと、最も嬉しく感じたり。

(六) 私の感想

以上三年間余は随分口事も言ひ、勉強の法も女子としては、苛酷なる程、過重に課し、尙訓練方面も嚴に過ぎし事も度々ありたる故、中には悪感情を持てる兒童父兄も數多あるならんと反省なしつつありしも幸に之なかりしを見て、とにかく兒童教育は教師が一の信念のもとに熱愛……普遍的熱愛を以て彼等に接しつつ、指導せば、假令教授者に多少の過あり又多少苛酷的行爲等ありても、兒童は決して不平

をいだし反抗心を起すことなく、却つて親みを深くするものなりと一層感深くしたり。

又余の大いに感深くせしは、假令如何なる劣悪なる學級にても教授者の熱誠をこめたる指導と、絶えず努力によれば或程度迄は必ず救済の出來るものなることをつく／＼経験したり。

(七) 結尾

以上は余が三ヶ年間試みて大なる効果を得たるを以て本年度尋常科第六學年女七五名（學力頗る劣等）を擔任するに當り、一層研究を重ねつゝこの主義にて實施しつつあり。

余は兒童に口の人より手の人になれ、不言實行主義を採る様、常に鼓吹しつつあり。如何なる新主義の教育も、新思潮をくめる教法も、實行せねば何にもならぬ、又實施し得らるるものならねば何の役にも立たぬ。故に教授者は此等の新主義を採るには充分なる研究と眞剣に努力するの覺悟もて之に當らねばならぬ。徒らに流行にかふれ漫然と取扱へば恐るべき危険を生ずるものと信ず。

要するに學習訓練を良好ならしむるには、兒童本位

に教授者が絶えて擔ゆまざる努力修養研究を積み、熱と愛とをこめたる指導に俟ねばならぬ。私のなせし事は、只此の三者を微力ながらも、眞剣に實行せ

### 七、學習態度養成の實際

猿鳴郡靜小學校長

大 嶋 末 吉

八〇

しに過ぎざるものなれば賢明なる各位の御指導を切に懇願するものなり。

#### 第壹 はじめに際して

學習の意義、學習と教育との關係、と云ふやうな理論的方面を述べ已が教育觀を明にし之れに基礎づけした實際施設でなかつたならば、教育的見地からみてどうかと思ふけれども、かう云ふ事は私共の腦力の到底なし得ない事であるから、今まで實際に試みた經驗と又これから先事情のゆるす限り施設してみたいと思ふ事だけを述べてみようと云ふ。

學習の意義にも種々人に依つて異なつた定義を述べて居るやうであるが、自立的に知識技能を獲得するとか、自力的に價値ある認識を形成するとか云つて何れにも自立的とか自己自らの力とか云ふ屬性が定義中に含まれて居るやうに思ふ。してみると本案の

意味は自立的に價値ある認識を形成する習慣形成を養成する實際施設と云ふことになる。これに依つて第壹に兒童は如何なる心理的條件生理的條件並に環境が如何なる時よき學習態度をなすかの基調、第二には指導者(主に教育者)方面から教授に對しては如何なる態度のもとに如何なる施設をなすべきかを考へ第三には環境方面について如何に整理すべきかを述べたいと思ふ。

#### 第二 兒童方面から、

本節は兒童がよき學習態度をなすには、兒童の心理的條件生理的條件並に環境等が如何なる状況にある時よき學習態度をなすかと云ふ、主として學習態度養成の基調となるもので實際施設でないから單に綱

目だけを述べる事にする。

#### 1、心理的條件、

學習動機の喚起、

利益、名譽、興味、義務、理想

#### 2、生理條件、

健康状態、食事、睡眠等、

#### 3、外的條件、(環境)

温度、氣壓、採光、通風、教室の靜肅、

學習時間の長短、教課の組合せ等、

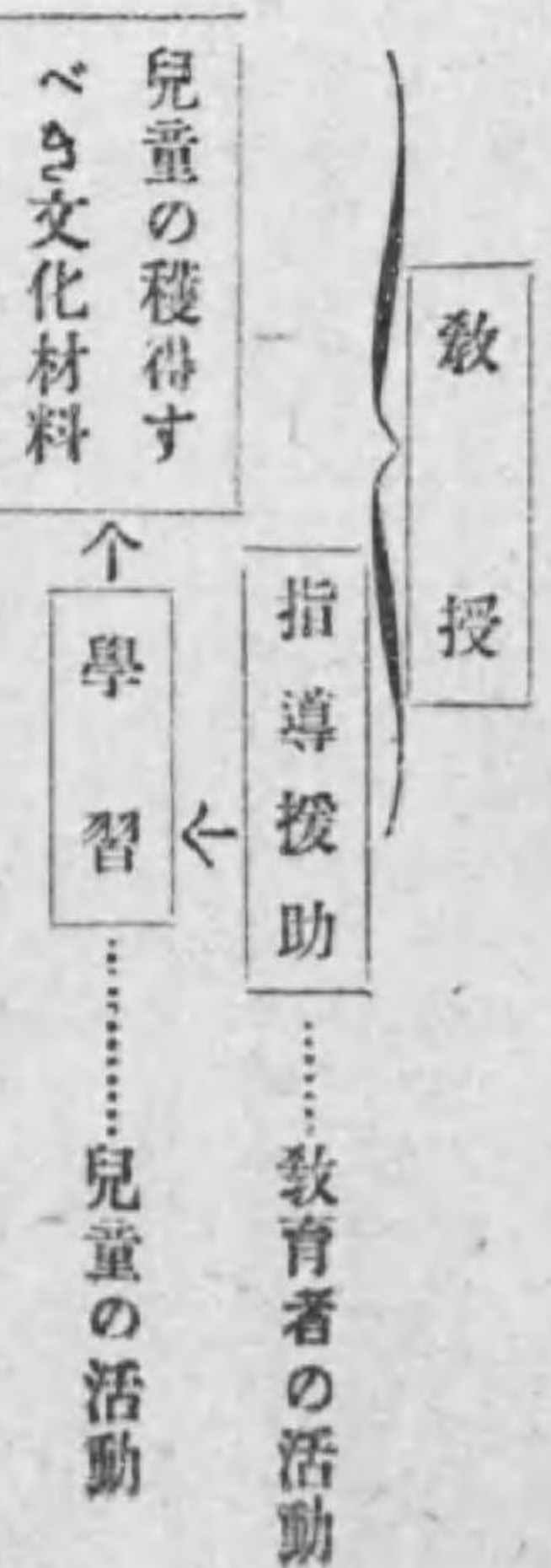
第參、教育者方面から、

#### (一) 教授上より、

##### 1、教授態度決定、

學習態度を養成する上に於て最も重要な事は、學習態度を養成し易きやうな教授をなす事であるからまづ教授に對する態度を決定しなければならぬ。教授とは思想上理解の道から教育理想實現への道を辿る教育的手段であるから、まづ第壹に兒童の知識構成能力の活動を尊重し、第二に此の活動をして刺戟し覺醒せしめ内部的活動をして旺盛ならしむるやう指導しなければならぬ。この第壹の思惟活動が

即ち學習であつて第二の指導援助が主として教授に當るのである。然しながら此の二つのものは判然と區別し得べきものでない。本來一つのものの表裏の關係を一つは兒童方面から一つは指導者側から云つたまでである。今これを判り易いやうに圖解して見たならば次のやうであらう。



2、教授方針、  
教授に對する態度は以上のやうであるから、兒童自らの活動によつて知識道德藝術等を創造せしむべく教育者は單に之を指導援助するのみであるから、教材を取扱ふに當つても教材を知識として取り扱はず兒童の思惟活動を促し知識を獲得するための材料を提供するものであるとして扱ひたい。知識は授與し得べきものなく自ら構成するものである。



3、教授信條

- A、教材を知識として取扱はず問題として取扱へ。
- B、境上の活動を工夫するより先づ學び方を指導せよ。
- C、靜かに教はる態度より自發創造の態度を是とせよ。
- D、學級的一齊活動の外に個別的取扱の重要なるを忘るな。

4、教授段階

以上の方針に依つて、一般普通の教授段階は、  
 一、豫習 二、矯正 三、補成 四、整理  
 五、應用の五段階として居る。

附、教授案例

尋常科第三學年 大正十二年十一月九日

- 一、題目 第八 虎と蟻
- 二、要旨 第八課の教材を通して共同一致の必要な事を知らしむ。
- 三、教材の區分 第一時 Ⅱ文の内容會得にまでの豫備。
- 1 全文の讀方及語句の解釋、

- 2 全文の大意、
- 3 虎と蟻との理科的知識、(文を解釋するに必要なるだけ)

第二時 Ⅱ文の會得

文を通して作者の考へから共鳴共感され自己覺醒まで。

- 四、主眼點、 1、形式、イ 新字、馴い、笑ふ、

程鼻、食ひ、

ロ、語の解釋、山おく、生けどり、ひ

どりごと、ごまつ女程、分りまつた事

でせう、力を合せる、あひづ、數かぎ

りない、所きはらず、てつべん、

ハ、文の解釋、

- 2 形式より内容へ、

イ、文を通して作者の考へ、

ロ、文を讀んでの感、

A、感を話さしむ。B、こんな事があつたらうか。C、作者はどんな考へで此の文を作つたのだらう。

- 五、教具、 掛圖、

六、教授、 第一時

第一段 豫備

自由讀、(この中に困難と思はる、文字は板書して假名を附し置き、教師は個別指導をなす。)

第二段、 矯正、補成、

- 1、個讀、(矯正を主とす)、 2、大意を話さしむ。
- 3、齊讀、 4、困難と思ふ語句並に文字の指導、 5、虎と蟻とについて本課内容しらべに必要なる知識を授く。
- 6、自由讀、

第二時 第二段の續き、

- 1、自由讀、(個別指導) 2、内容の尋ね、
- 第三段、整理應用、
- 1、自由讀、 2、自己感想發表、
- 5、學習指導法、

如何に學習すべきかを指導する事は、學習態度養成上最も大切な事であるから總べての教授時間に於て折りにふれ時に應じて、之れが方法を授けなければならぬけれども特別の方法としては、

- (一)、學習法を説明しながら、口問口答或は口問筆答せしむる方法。

- (二)、指導案を與へて學習せしむる方法、

- (三)、自ら問題を作りて學習せしむる方法。

第一例、口問筆答の場合、

尋常科第五學年 くらまめ、大正十三年五月九日

兒童各自に「くらまめ」を用意せしめおく。このやうな教材の學習に於ては、根、莖、葉、花、種族、人生との關係等の順にしらべる事だけ位は知つて居る以下口問筆答、時には口答せしむ。

- 1、根はどんなになつて居ますか。何かかほつたものはついて居ませんか。根についてききた事はありますか。

2、莖の形はどうですか。高さは……。

3、葉はどうついて居ますか。どんな形ですか。よく葉には蟻の居る事がありますがどうしてですか。

4、花の形はどうですか。何枚からなつて居ます

か。花びらの形を書いてごらん。をしへは何本ありますか。めしへはどうなつて居ますか何かききたい事がありますか。

5、豆のなかまばどんなのがありますか。豆の仲間はどこで知りますか。

6、豆は何んにしますか。知つて居るだけ書きなさい。何かききたい事がありますか。

第二例、指導案に依るもの

尋常科六學年 リヤ王物語 大正十三年二月

一、シエクズビヤの一代の傑作リヤ王の物語を書いたものだ。かう云ふ文はしんみりと何回も読んでみなさい。

二、新字や語句のしらべを怠つてはいきません。

三、読んでみながら次の事を考へて見なさい。

1、リヤ王はどうして、三分して與へる氣になつたのでせう。 2、三人の娘の答はどうでしたか、 3、コー德里ヤはどうして云ひなかつたのでせう、 4、フランス王はどうして

約束の如く后ごしたのでせう。 5、其の後王はどうなりましたか。 6、リヤ王は娘のコー德里ヤに「お前はわたしをうらんでゐるはずだ」と云つたのはどうしてでせう。

四、大体の筋を話せるやうにしなさい。

五、なほ何回も読んで次の事を考へなさい。

1、リヤ王、ゴネリヤ、リガンそれぞれどんな人だらう。性質は……様子…… 2、勘當された時コー德里ヤの考へはどうでせう。

3、どの人の性質が氣に入つて居ますか。

4、リヤ王のやり方はどうですか。 5、こんな時に家來はどうしたらよいでせう。

6、各週教授豫定表、

各週に於ける學習場所並に分量を知らしめ、自覺的に學習せしむる目的のために尋常科五年以上、教授豫定表を作つて前週の土曜日に配布する。

一、例、

第七週		自五月十八日 至五月廿四日		教授豫定表		尋五	
教科	教材	學	習	要	綱	備	考
讀	第九 兩將軍の握手	1 コノ課ハ面白イ所デスガ漢字ガ十三モ出テ居マスカラ、シカツリヤリナサイ。	2 ドイツ、ベルギー、リエージュ等地圖デシラベナサイ。	3 トウシテ戦ガ出来タノデスカ。	4 四十二センチメートルハ何尺何寸デセウ。		
方	第十 水師營の會見	1 暗誦出来ル位マデ讀ミナサイ。	2 旅順ハドコニアルカラシラベテオキナサイ。	3 旅順ノ戦ニツイテ知ツテキル人ガアツタラ聞イテミナサイ。			
算	十三頁	1 名數ヲ名數デ割ルトキハ同ジ單位ニスルコト。	2 四捨五入トハドンナコトカ。	1 平均ト云コトハドンナコトカ。			
術	十四頁	2 (5)ノ問題ヲトクトキニハ、七升六合ハ一升ノ何倍デアルカヲヨク考ヘテミナサイ。					

科	理	地	史
第十 す す め	第九 竹	産 業	第四 神功皇后
1 雀ハドンナ所ニ多クステンデキルカ。 2 雀ハ人間ノタメニ害ニナリマスカ、益ニナリマスカ。	1 木ノミキトチガフ所ヲシラベナサイ。 2 地中ノ莖ト根トノチガヒ。 3 竹ノ子ハドコカラ出ルカ。 4 用途ヲシラベナサイ。	1 農産物ニハドンナモノガ出マスカ。ドノ邊カラカ。 2 絹織物ノ出ル所ハドノ邊カ。 3 工業ノ盛ナ地方。 4 鑛山ニハドンナノガアルカ。 5 水産物ニハドンナモノガデルカ。	1 神功皇后ハ今ヨリ何年前カ。 2 三韓ヲナゼ討ツノダラウ。 3 討ツタ様子。 4 コノ結果日本ニドンナコトガアリマシタカ。

7 個別的取扱

自力的學習せしむるには、是非其兒童各自の能力程度に應じて指導し、各自の能力一つばいに活動せしめなければならぬ。この意味から個別指導を如何するかと云ふに。

A、指導すべき兒童

指導すべき兒童は担任して居る兒童全部であるけれども之れを皆一様に指導することは、出来得ない事であるから各兒童毎に如何なる點を如何様に指導すべきかを調査して置かなければならぬ。これには

イ、一般能力上から

優良兒、普通兒、不良兒、

ロ、教科上から

讀方、綴方、書方、筆算、珠算、……等教科に依つて、一般的に優良兒でありながら特殊の教科には劣つて居るものもあるし、又之れと反對に一般的には普通兒以下でありながら、書方や圖書裁縫等に特に秀でて居るものもある。

ハ、教授の實際上から

覺えのよい兒童何時もよいとは限らない。又覺えの悪い兒童必ずしも何時も悪いとも限られない。兒童の氣分、家庭の事情等で大變にかはるものであるから、實際教授に當つては之れを見て適當の指導が必要である。これが点檢は、兒童の舉動から察し得るもの、兒童に質問せしむるもの、成績の點檢等である。

二、缺課から

缺席によつて授けられなかつた兒童

B、指導すべき教材

イ、難易上から

實際教授に當る前に、略次の點を調査し置くこと

本教材の困難であること云ふ事は優良兒童にまでか夫れとも普通兒童以下のみか。

困難な教材ではあるが、どうしても全部の兒童に了解せしめなければならぬものであるかどうか。

算術科の如き問題にては、數を簡單にする

とか或は少しく改作する等の事をすれば了解出来るかどうか。

ロ、教材進度上から

同一教材異程度にすべきか。

異教材にすべきか。

C、指導の時期

イ、一般的に(一般教授中何れの段階に)

新教授の場合、練習教授の場合

ロ、特殊のもの

始業前、終業後

8 児童席次

児童の席次は学習態度養成上大なる関係をもつものであるから之れ亦軽視すべき問題でなく少くとも、次の諸方面から考へなければならぬ。

A、教授上から

イ、能力別の取扱をなすか(同一教材異程度の取扱をなすかそれとも異教材か)

ロ、相互研究をなさしむるか

B、訓練上から

性行に依つて

何、なほ學校に依つては教具の關係や教室運動場の關係も考慮する必要もあるし、又職員との關係をも考へなければならぬから仲々思ふやうにもならないけれども、今たゞ学習態度を養成する上からのみ考へてみて、少くも尋五以上に於ては、讀方國史地理等の教科は一週二時間のもは一回に四時間のもは二回にするを淺き経験より、よいやうに考へられる。

(二) 訓練上より

1 訓練に對する態度決定

訓練とは主として實行方面から教育理想へ辿る教育的手段であると思ふ。従つて其の態度に於ては兒童の自律を尊び彼等の規範的意識の命ふるが儘に自由に發動的になさしむるやうな態度を持たたい。然しながら兒童の規範的意識は完全なものであると見る事が出来得ない。發達の道程にあるものであるから、常に指導援助して教育理想實現へ辿らなければならぬ事と思ふ。命令禁止これ事とし、壓制的態度のみとるが如きはどうかと思ふ。

2 學習道德

C、保健衛生上から

身長、患者トラホーム、傳染病、眼の異常

聴力障害、脊柱の彎、等

9 學習帳

學習態度養成上からみて、雜記の帳取扱は又忍せにすべからざる問題である。雜記帳は兒童學習の過程を記録したる研究努力のあらはれであつてはしい。兒童の創作味のたつぷりとみちみちたる生命のあるものではしい。徒らに教授事項を筆記して他日の備忘にするだけでは何となくもの足らない。之れ教師本位主義の教授より來れる弊害であらう。私は此の考へより、雜記帳、筆記帳とよばず名稱を、學習帳としたと思ふそして學習帳を生命ある價値あるものとしたと思ふ。これに依つて各科教科に従へ其の形式をも異にする必要がある。

10、時間表

學習と學習時間表との關係は、一は學習態度上より一は學習經濟上より大いに研究すべき問題である。年齢と學習時間の長短は如何、各教科の組合せは如

恐らくこんな道德の名稱はないでせう。茲では便宜のためつけた名稱であつて、學習態度を養成する上には主として友達間に於てどんな道德を守る事が大切であるかと云ふ其の徳目に對してつけた名稱に過ぎない。かかる内容のもとに學習道德として大切なものは、共同と自治である。學友間お互に共同して研究をなし、已れの研究せし事は發表して批評を乞ひ、自ら學習し得ざる事は人にも尋ね、已れの參考資料は他人にも見せ又見せても戴く等、互に愛し合つて學習していかなければならない。又みだりに人によらず自己の力を以て學習し工夫し反省して行くやうな態度がほしい。今反省批評の態度養成の試みの一例を挙げやう。

イ、書方學習に於ける自己批判の一例

全 様	試書	自己	試書	自己	試書
		批評		批評	

1 試書の所へは習ふ文字を書く。

2 自己批評の所には教師より授けられし知識と手本の觀

察より得たる知識によりて批判をなし、其の缺點に殊に注意をなすつ、書く。

ロ、相互批評の一例

教室の後方に成績物掲示場を設け（書方圖書一回分だけは全部の児童の成績物を掲示し得るなりあり）書方圖書等に於て全部の成績物を掲げて、互に批判奨励をなす。

第四 環境方面から

環境の意義や環境の教育的價値如何云ふ事は略すけれども、環境が如何に學習態度養成に重要な關係をもつものであるかは明瞭な事であらう。夫れ故教室と云ひ運動場といひ之れ皆教育する場所であり、學習する場所であるからこれ等の環境を如何に整理すべきかを述べる。

(一) 教室の教育化すること

教室は児童の學習所として最も重要なものの一つである。然らばこれを如何にすべきか。

1、直接學習上から

教室はどこまでも學習の場所として種々の施設をなさなければならぬ。児童が進んで且つ容

的見地から學習の場所として種々の施設をなしたいと思ふ。今學習態度を養成する上から

1、運動場として

廣さの問題、運動器の設備

2、學習所として

二、學園

教材園として

B、動物の飼養

C、理科、地理、農業、算術等の學習材料提供場として。

砂場、箱庭的自然的地勢を造る事、試験場、

等

D、常設養成設備

掲示板、児童研究発表板、天氣豫報告知板

E、懸安所として

娛樂園、家庭圖書閱覽所（殊に夏季に）

(三) 兒童文庫、兒童博物館

如何によき學習態度を養成し得たりとしてみ自ら研究すべき参考書なからんには、其の効果の大半を空しくする恐れがある。こ

九〇

易に學習し得るやうにしたい。それには、

A、黑板を多く備付くること

B、参考圖書の置場並に閱覽所を設くる事

C、参考繪畫の陳列枝或は場所を設くる事

D、各週教授豫定表を掲示する事

E、時計、寒暖計を備付る事

2、間接的方面から

A、生理的條件から（保健上）

イ、机の高さと身長との關係を適當にする事

ロ、要監察者を適當の席次に置く事

B、心理的條件から（氣分上）

イ、教室の總べての器具の清潔と整頓とを保持する事

ロ、採光、風通を適當にする事

ハ、溫度を適當にする事

ニ、適當の裝飾を行ふ事

(二) 校地の教育化すること

學習上教室と校庭とは車の兩輪の如く實に輕視する

事の出来ない教育場である。これを今までは運動場

と稱して居たのは大なる誤ではないかと思ふ。教育

の兒童の欲望を満足させ益々その態度をよくくするものは兒童文庫や兒童博物館等を設くる事である。

第五、終りにのぞんで

以上何項かに分つて述べ來つた事項は、皆之れ生命なき形骸に過ぎない。これに生命を與ふるものは教師の愛の力である教師の熱である。眞に兒童を愛する所に教育があり眞の輔導がなし得らるる事だと思ふ。誰れやらが教育とは自然と云ふ大理石の上に愛のノミを以て理想の姿を刻むのだと云つた事やロイス教授の個性は愛に依つてのみ見出されると云つた事などは確かに一面の眞理を云つて居ると思ふ。純眞神の如き兒童を本當に可愛かつてやると云ふ信念のもとに、和衷協同愉快に其の日其の日の務めを盡す事に依つてこの形骸に生命を與へる事と思ふ。教育動機のも最も重要なもの一つは愛であるといつて居る小西博士の言に敬意を表して筆をおく。

## 八、學習訓練に就て

那珂郡大宮尋常高等小學校訓導

渡邊

秀

九二

### (一) 學習の意義

學習訓練てふことを明かにする爲に吾人の考察すべき第一の問題は學習とは何ぞやといふことであらねばならぬ。私の知る範圍では、先づ次の如くである。(イ)學習を最廣義に解すれば、凡そ人類がその生命の起點たる受胎の時から賦與されたる本能衝動の如き原始的な行動の形式を基礎として、外圍との關係によつて成立するもの即ち習得的傾向をつくる過程に名づけたものである。(ロ)教育作用即ち教授訓練を兒童側より内面的主觀的に見て文化價値を體會体得するといふことを稱するので、前者の意義を教育的見地から限定したものと云ふべきであらう。(ハ)更に教授に對して兒童側に立つていふことで、知識技能を收得する活動の義である。これは最も一般に考へられてゐる見方であらう。(ニ)更に狹義の意味に於ては記憶をつくる働、極狭義のものでは字句を誦誦することゝいふのである。(ホ)近時の思潮からす

れば自發的學習といふ意味を含んでゐる。然し吾人は最廣義の意味に立つて兒童生命の發展の様相を視ひ更に教育で立場より限定を加ふる必要がある。何となればこの立場が確立せなければ學習訓練の根本精神が定まらぬからである。尙實際的方面に於ては勢(ハ)の意味に使ふであらう。しかし學習をあくまで受動的のものとして考へてゐた見方に對して自學自習とか自發的學習といふことが主張されて来たことに對しては我々は深甚な注意を拂ふ必要があらう。

### (二) 自發的(積極的)學習と受動的(消極的)學習

學習といふことを古い教育書などで見ると記憶をつくるはたらしき位に見てゐた。然し更に廣い意味に考へて見たところ受動的學習の謂であつて、兒童が教師の考へをその儘受入るゝにすぎぬといふのである。然るに近時の趨勢は兒童の自己活動即ち自發的學習といふ事を重視するといふばかりでなく、中に

は教育の事はすべてこの自己活動によるべく、教師の指導はあくまで間接的であるべきことを要求してゐるのである。従來の教育があまりに大人の生活に準據して兒童の生活てふことを認める所なく、唯將來の生活といふことに提はれて無理な無意味な學習を強ひたといはれる所以は實に兒童の學習能力如何などいふことが明かにされて居なかつた爲であらう。然るに近時心理學上に於て本能衝動等の原始的な動力が強調され更に哲學上からもその援護をうけるやうになつた。即ち獨逸の理想主義哲學の見地に立つものは自然の理性化てふことを力調し、また米國流の實用主義に立つものは人性の本質的傾向たる衝動意志といふもの、無限の要求に生さんことを主張し、益々兒童生活そのものが重視され、この原始的な動力に就ての注意が喚起されたのである。即ち兒童は學習の主体であり、教師は補助にすぎぬものとし、兒童は未來に於て豊富な發展性を有する將成体としてその人格の價値を尊重すべしといひ、教授訓練方面に於て著しく兒童本位的發展的な色彩を帯び來つたのである。然しながら受動的學習も無

意味なものではなく自發的學習とてさう理想通り行はるゝものでない。今二者を比較して見よう。

### (イ) 受動的學習に伴ふ弊害

1、學習とは單に受入るゝ仕事と考へ、教師の直接的指導がなければ教育の意味をなさぬと考へる弊がある。これは教師の考へる如くそのまゝ兒童も考へるであらうといふ幼稚な心理觀から發するものと教育の規範的方面をなさうに強く考へすぎる結果是非これだけは教へ込まねばならぬとする要求から來るものもある。(2)兒童の本有する本能衝動てふ原始的な本にかへり見ることが少なく、其の發達のなまな個別的心理について餘りに無關心であつた。(3)兒童がなし得べきこと知り得べきことまで教師がさつさと片付けた風がある。これには心理學上の謬説に基因するものもあるが、餘りに教師の便宜から發した、所謂教法によることも否定し難い。かくて兒童の興習的の興味を故意か不識か滅殺した儘があつた。(4)全的な兒童の力を働がしめることに留意せず記憶てふ方面に注意した。(5)書籍の上の學習にすぎた。空虚な概念の遊戯にすぎぬこともあつた。(6)直

観を重んじ経験を尊ぶといふ風が缺如してゐた。(7) 兒童學習上の設備、廣くしては環境整理など、いふ方面の顧慮が足らなかつた。(8) 訓練上から云へば靜的學習に走りすぎ、從順をあまりに重視した。

○自發的學に伴ふ弊害

(1) 兒童の本能衝動の如き原始的傾向を主とするはよいがこれもあまり強く見る結果、指導原理さへ不明瞭となり、單に放任しておけば自ら伸びるといふやうな放漫な教育態度となる。(2) 従つて規範的方面を無視するの風がある。(3) 施設的方面教師教授力の多寡など、いふことに就て餘りに理想的で實情を顧みぬ、憾みがある。(4) の獨自性を重んじ、あくまで間接的指導によつてのみ學習せしめんとするのは果して可能であらうか。之に就てこの主張者はあまりに兒童の力を過信してゐはしないか、教師の直接的指導を餘りに慥忌するのは却つて兒童の實情に通せぬものである。(5) 從順の美德を忘れて規律を輕視し、記憶模倣を輕視する風がある。(6) 學年の境界を無視したり、氣分教育に陥つたりする要がある。(7) 自立的といふ立場から見れば決して教師の直接的指導は排

すべきでない。殊に兒童の生命にふれた直接的指導の如何に尊ぶことよ。正當な心理觀から出發した直接指導は教育上去り得べきものでない。然るに自發的といふ意味を餘りに強くなり、兒童自身から指導原由を求めんとする風がある。

(三) 私の學習訓練觀

私は以上に於て自發的學習の陥り易い弊害と受動的學習に伴ふ弊害とをのべた。従つて兩者の長所もその中に暗示されたと思ふ。次に私の學習觀に就て大體を述ぶるつもりである。凡そ教育てんことは兒童てん主觀的事實的方面と規範てん客觀的價值的方面とある。然して前者を後者にまで指導啓發すること教育の任務である。そして從來の教育觀に於てはこの兒童方面の考察が足らなかつたことは否定出來ない、けれども學習上における兒童を見るに内部的要求に基く行動もあれば外部的の刺激によつて動かされる行動もあるので、彼等の生命に觸れた事項によつて自發的學習をなすことば否定はせぬが全然兒童に放任して學習につかしむることは考へられぬ。そして彼等の經驗から遙かに離れた事項を授くる場

合に「教師の教授術」なるものを除いて、どうして有效に學習を促進させることが出來よう。こゝに吾人は自發的受動的といふ問題の上に教育の本質を直視するの要がある。一體兒童に全然交渉を有しないものをそのまゝの形で無理強ひに強ひるのは正當ではないが兒童には共通な心的の働があり、またたこへ同種の教材を同時に同方法で取扱つたとしても、兒童の理會には廣狹深淺の差を生ずるのであつて自然に兒童能力に應じた働かなされるものである。全然劃一的教授を排斥したり學年別を無視したり單に兒童の氣儘に學習させるのがよいとするならばそれは極端である。たゞし穩健な立場に立つて兒童の中に學習の動力を求め、徐に自發的學習に導かんとするのにはたしかに從來の教育法乃至教授法の缺陷を補ふ傾聴すべき點で學習訓練を考ふるも、忘るべからざる點だと思惟する。即ち從來の教育教授の方法と雖も弊履をすてるが如き態度をとるべきでない。舊い新らしいといふもまた時間上の問題によつて決定するが如き態度は餘りに無思慮なりといはざるを得ない。寧ろ現状より推せば從來の教法を基礎として

それに自學自習の精神を汲入るゝことが穩當なる態度であると思ふ。即ち兒童の學習せんとする性向を基礎として有效なる學習を營ましむるためには、兒童の自發活動も必要であり、教師の直接指導もまた必要である。たゞこの接排如何は兒童の發達狀況にもよらうし教材如何にもよつて違ふであらうが要する所教師の適切なる指導といふことになる。絶えずかゝる指導を受くることによつて兒童は學習の方法も會得し興味も得自發學習の態度も養はれよう。即ち教師の指導てんことを忘れずに兒童の發達に鑑み適當に自學自習の精神を汲入れてゆくといふことが學習指導の要諦であり、學習訓練の根柢であると信じてゐる。以下學習指導といふ語を使用し學習訓練なる語をあまり用ひないのは兩者に於てかうした關係をみとめるからである。以下學習訓練上特に留意すべき點をのべて見よう。

(4) 兒童の經驗、無知の知識、事實、能力などといふ方面を精査し學校として各學級のとるべき大體の學習訓練の方針を定め、各學級に於ては學級兒童の發達狀況に鑑み指導方針を定めること、且同一

教材にありても児童能力に應じ出来るだけ個別的に適切なる指導をあたへること。

(ロ) 教材の研究にありては児童の生活経験に十分觸れたる事項の如く児童が容易に觀察し思考し發表し得る事項と教師が指導し乃至は補説すべき事項とにづきて考慮し適當なる指導案を考へておくべきこと。

(ハ) 學習を促進させる爲の諸準備諸施設について出来るだけ遺憾なきことを期すること。

(コ) 復習豫習を十分になさしめ、新教授の基礎たらしめる爲に正教時以外にも適當なる機會を設けること。

(ホ) 自學自習と雖も漫然と無計劃の下になさしめることなく適當にその方法を指導し、且その結果については寛大に取扱ひ十分に児童の努力を認めてやることかくすることによつて十分に學習の興味をおこさしめること。

(ヘ) 劣等生に對しては比較的成績良好なる學科につき獎勵法をはかり基本的の事項については十分に反覆練習をなさしめその徹底をはかること。

る理由は次の諸點による。(1) 學級の児童數多くして正教時のみにては個別的の指導が行届かぬこと(2) 家庭の一般の状況は家庭學習を望むこと能はざること、(3) 漫然たる意味に於ての豫習復習は勢放任學習となつて良果を求め難い。即ち適當な學習の指針をあたへ且學習後に於てその處理指導といふことが行はれることがなければ効果は收め難いものである(4) 大宮町に範圍狭く通學距離遠さも十町餘位なるを以て集合てふことが容易に行はる、便利あること、然して學習の科目は大体は讀算術の二科目で豫習復習劣等生の指導等に力が注がれてゐる。一般的方法は低學年は教師の指導を多くし、上學年に至るに従つてその自由研究の範圍を擴大してゆくやうにしてある。尙復習豫習の主眼點を指示し、その解決のためのために適當な方法を示す事、個人的に出来るだけ留意する自習の大体の處理をますこと。時間三十分乃至一時間位が普通である。教師も四十分前には大体出揃つて指導につとめてゐる。(ロ) に就てこれに就ては指導主義の精神を沒却しない範圍に於てなるべく自學自習の精神を汲入ることにつとめて

(ト) 教師は特に教材に關して豊富なる知識技能趣味を養ひ十分の自信を以て教室に臨むやうにすること(チ) 良好なる學習訓練をなすには少くとも教師に十分の計劃と永續的の熱心とを要する。

要するに從來の教育教授につつて缺陷を反省し十分にこの方面の缺陷を補ふことにつとめねばならぬ。従つて教授は教室内に於て行はれるなど、考へることなく、學校生活全部、進んでは家庭とか社會とかいふ人事的環境や天候氣温自然現象等の如き自然現象につつても十分に意を拂ひ的確な効果を收むるやうにしたいたいものである。かく考へてゆけば結局今日までに究められてをり各學校で行つて居たことをもう少し徹底的に行つて見ることに、新しいやり方の長所をとつてゆくといふことに歸すると思ふ。

(一) 大宮尋常高等小學校に於ける學習訓練の一般我が大宮小學校に於て學習の機會と目するもの及びそれに就ての指導方法の一般を記述すれば大体次の如くである。(イ) 朝始業前の學習指導、(ロ) 實際授業時における學習指導法(ハ) 放課後並に其他の機會(イ) に就て。本校に於て始業前の指導を行ひつゝあ

る。(ハ) 其他の機會といふのは放課後指導、校外教授、家庭學習、遠足旅行等による次に學校として學習上最も留意してゐる諸點をあげて見よう。凡そ學習訓練をなさんとすれば第一に児童の力そのものを見るのが如何なる事情によつて其の學習力を阻害されてゐるかを見なければならず、尙救ひ得べきものに對しては出来るだけ之が障害の除去につとめることを要するこの意味に於て本校のとつゝある方面をのふれば、(イ) 児童の養疾愚等生理的狀態の調査(ロ) 家庭における學習機會の調査ハ學用品の十分の否かの調査、(ニ) 家庭における家事手傳の状況及通學の遠近と疲勞との調査、(ホ) 通風採光保温に關しての注意、(ト) トラホーム患者に對して毎日放課後治療、(チ) 黒板机腰掛其他校具教具上の留意、(リ) 児童排列上の顧慮(大体の方針は劣生を教師が指導上便宜な場所におき、優中を適當に組合はせ、腰掛机と身長とを顧慮、トラホーム患者は一諸に並べ、聽力視力に異常あるものは前方におく等)(ス) 其他模範日の實行(ル) 遊歩時間 に於て教師總出にて児童と嬉戲すること等間接的ながら學習訓練そのものに



至大の關係あることを認めてゐる尙學習訓練の根本動力は教師その人の力によらねばならぬことを認め教材の研究教法乃至學習指導法の立案（放課後二時間以上）共同研究（學科分担）研究の輪番發表、講習會出席、圖書による研究、他學級及他學校の參觀、學科擔任制の加味、學年に應じたる長期休業中の施設（學習指導）等につとめてゐる。

(二) 我學級（尋六男女六十餘名）に於ける學習指導狀況

大体學校の方針に基づき尙自己の責任學習指導をしてゐる。(イ)先づ兒童の精神的身体的狀況を明かにするため、前記大宮小學校としてとりつゝある調査をなす外、之を帳簿に記載することにしてゐる。即ち保護者名、兒童名、兒童と保護者との關係、嗜好せる學科と運動、性行上注意を要する點、家庭における特殊なる事情、通學距離、兒童成績の優劣、學習上注意すべき身体的缺陷（聽力視力、他疾患等）學習態度、等を記載し學習指導上の便宜に供するのである。

(ロ) 學習を良好ならしめるための諸留意

- 1、教室における兒童の順序は主に衛生上の見地よりし、第二次的の意味に於て優中劣配合の方法をとつてゐる。大体學校の方針とかはりないから略しておく。2、採光通風保温等については常に注意しておくと共に兒童にもたへずこの方面の理會をあたへ之が徹底を期してゐる。校舎内外の清掃についても兒童と共に作業に従ふやうにしてゐる。掃除は單に兒童にのみ放任するときは彼等は殆んど衛生上の顧慮なくしてやる故危険を醸すからである。
- 3、教室の裝飾は單に兒童の氣分を新にするばかりでなく成績品の陳列等はその方面の學習を刺戟することが著しい、地圖の作成、花押の花の押替等は兒童になさしむる方針をとつてゐる。これも兒童の自覺に訴へてやれば案外良結果を得るものである。
- 4、黒板の塗換は三日おき位、5、兒童に特に注意して實行させてゐるのは睡眠排便食事の三である。
- 6、自學自習など、いふこともすると兒童の姿勢などに不注意であつたりするが讀む時の姿勢、目と本の距離、畫く時の姿勢などは余程注意してやらねばならぬ。

(ハ) 兒童學習指導の一般

先づ私が朝の始業前の指導について大体をのぶれば小兒童は早いので始業前一時間半おそくも四十分前には全部の集合を見る。私は始業前おそくも一時間に登校することにしてゐる。2、兒童の仕事としては黒板に指示された事項の研究、余力あるものはその日の科目の一部又は數部によりて豫習復習、疑問點の發見と質疑（教師居らざる時は學習帳に記入）、教師の仕事としては大体其の日の教科と連絡して（多くは讀方算術）その研究すべき點、研究資料、方法等について大体の指示をなす、復習問題は大体問題として提出しておく。尙生徒の學習上の疑問に就て答へ、自習の結果を點檢し、指導をする、其外宿題の點檢、綴方の個人指導、劣等生の指導、4、兒童及び教師の學習上具ふる簿冊、兒童は學習帳、これに練習問題、學習事項の記入、疑問點の記入をする。尙讀方の簡單な字引をあたへておく。教師用算術書は優等兒のみには使用させてゐる。尙兒童が望む場合には教師の參考書も進んで使用せしむるやうにしてゐる。教師は學習に要する教具の準備は勿論

指導の材料を蒐むる爲に自習指導簿なるものを作つておく。

- 5、指導の方針は兒童のなし得る範圍、なし得べき限度に於てなさしめる。研究至難の箇所は徒に兒童の勞力を逸散するの虞があるから、時々優等兒に施して見る、一般には施さない。
- (二) 各教科目について學習指導をいかになし居るかにつきては章を改めて論述する、また前章にもおいておいたから略する。3、其他の機會として學級が特別になし居ること及なさんとするときは、中等學校入學志望者に對し一週二回乃至三回約一時間づつ指導を行つてゐる。好ましいことではないが止むを得ない。學級全体としては野外學習（自然界の學習正課以外）學級學藝會等である。
- (三) 各科取扱に關する實際的方案  
各科に對する學習指導について論述したいが、時間と紙面との制限により、數科目に限りそれも極めて大体に就いて述べて見たい。（勿論現在行つてゐる）  
(イ)讀方科、自學自習をさせる爲に、單にやりよいといふばかりでなく、各學科の基礎となるといふ點

からいつて讀方算術の兩科は適當な學科と思惟する讀方科の目的はいふまでもなく、1、普通の言語日常須知の文字及び文章を知らしむること、2、言語文章によりて正しく思想感情を了解するの能を得させること、3、智徳の啓發であるが、吾人の讀方科に對する考へは、2、を以て主眼とすべきは疑もない。畢竟する所(1)は其の方更である筈である。然るに従來何れに本義ありやの考へが不明瞭であつたかの如き感あるはあまりに分解的取扱にすぎた爲に、恰も語句の吟味漢字練習が讀方科教授の本旨の如く思はれたのではあるまいか、文學的な教材などに至つては作者の主観にまで觸るし必要あるに拘らず、思ひをこゝに致して教授をなすつゝ、あつた者は何人かあるであらう。もしそれは文字文章を理解するといふ点に於て第一難点があつたとすれば如何に解決すべきかが問題となるわけである。私は常に擔任學級の兒童の經驗界が極めて狭く、文章を理解することが仲々に困難なのを見受け、少くとも他教科と連絡を考ふる一方、正教時以外に學習の餘地を求めなければならぬことを痛感するのである。前篇に

ものべた如く正教時以外の學習機會として朝の始業前の時間を求めたのはこれが爲である。朝の自習時に課するのは、豫習の場合に於ては全文通讀と疑問点の質疑(教師は大体の指示をなし、不完全ながら字引を與へておく將來は自習辭典の加きものを用ひしめたきつもあり)2、難語句を板上に摘出して學習に便する。3、兒童の不可能とする事項の指示。4、自習事項の點檢、結果に基いて補正指導、本時に於ての指導は、1、内容を捉へる爲の讀方(黙讀、分讀、通讀、範讀は場合による)2、内容形式の吟味(全文の主眼、各節の大意、味はふべき語句、3、語句の收得活用等である。復習の場合には、新出文字の使用練習、類語の列舉、短文練習、誤字及誤文の訂正、記憶すべき事項の暗誦等であつて、問題として提出する場合多く、本時に至つて味讀——文章の休得、前述)の如き應用練習に意を用ひる然しながら讀本のみによつて讀書力の養成や讀書興味の涵養むつかしい。適當な雜誌や其他の讀物を奨励したいものである。私は時々兒童文を讀みさかせ大意を捉へさせたり、作者の心情を想像させたりしてゐる

が兒童は非常な興味と熱心とを以て迎へてゐるやうである。大宮小學校に於ては、本年度中に兒童圖書室(小規模ではあるが)を設立する豫定になつてゐる(口)算術科、朝の自習時における指導の多くは復習乃至練習應用といふ方面であつて多くは形式算及び事實問題の提出、問題の構成等である。扱て事實問題取扱について私は、1、問題の意味をとり易いやうに提示すること、即ち文字文章語句があまりに非兒童的であると題意を捉へることによるみ苦勞し、眞の思考陶冶の目的に添ふことが出來ないからである2、また其の材料も兒童生活より多くとること、3、問題解決の一般的順序は(A)題意の理解(B)既知條件と未知條件との關係比較(C)解法發見(D)算式計算及檢算。4、新しき算術教授の場合には種々なる解決方法をなさしめて新算法の便利なることを悟らしむるか、また豫備的問題によつて新算法の暗示をなすかは要するに兒童と問題との兩者より考へて按排すること、5、諸等數の單位、度量衡の知識、求積の方法。角度時計寒暖計表圖等に關する知識は實際に觀察測定筋測目測等によつて明瞭なる知識を與

ふるのみならず使用の機會を多くすること。6、算法の理解及熟達をはかるためにたへず種々なる問題をなさしむると共に數觀念量觀念についてよく考へしめる。立式の際には特にこの點に着目して反省せしめる。7、算法の點檢數字の點檢は勿論模式問題の學習後は一般兒童の理會如何を點檢しその缺陷の指導をおこたぬこと、8、問題は比較的豊富に準備すると共に劣等生のために容易なるものも入ること、9、發表形式を確立するためには反復練習を十分になさねばならぬ。

ハ 國史料、國史料に關しては何人も感ずるが如く兒童は眞に興味をもつて學習するものである。然し國史教授の本領は國民たるの志操養成と國体の大要に通せしむるにあることはいふまでもない。然るに多くは教師が玉石混淆の說話をなし兒童はたゞ受身になつて「おもしろい」といふ感に引ずられてゆくか或はまた史實の梗概を兒童に摘出させ無味冷淡な補説で一寸片付けてしまふのはあまりに勿体なすきより兒童は教科書を通讀し、欄外の題目に就いて史實の大要を調べ、更に御歴代表と照會し既習事項

この關係を考へる位の訓練はつけたいものである。教師は兒童自習の結果を點檢し、兒童の研究のどこかざる點について補説を加へ、感情の喚起につとめ更に既習事項との關係を明かにせしめ史實の批判及び人物の評價をなさしめる。教師の補説は一方兒童の理解てふことを考ふると共に、その目的方面を顧慮し蛇足に終らざらんやうにすべきである。

(二) 地理科、地理科の學習訓練をなすにはまづ兒童に地理學習の基礎的事項として山脈、川、平野、土地の高低向背と氣候、地勢と人文(都邑産業交通)との關係についての明な知識をあたへ、且方位縮尺等地圖上の記號によつて地圖を讀み得る力をあたへるのが大切である。然して學習の順序は教師に指示された事項につき教科書地圖挿繪葉書写真等を参照して學習する(この前に教師はその範圍、資料及結果發表の方法も大体定めてやる)かくしてその學習事項を表明せしめ、補正し具体化して了解せしめるのである。

(三) 理科、理科に於ては多くは豫備的の實驗觀察を要するが、かかる場合には、その研究すべき題目をわ

たへ、その資料蒐集の方法や處理方法まで示しておく必要がある。漫然たる學習はいふまでもなく失敗に終り易い。(當小學校に於ては新校舎の落成と共に器械標本室特別教室設備の計劃がある。)尙修身科に於ては從來の如く感情に訴へるのみでなく、批判的態度を養成することも重視せねばならぬ。また縦方科に於ては教師の趣味に偏せぬこと、兒童らしく訂正することに留意し低學年における話方教授に一層の力をそそぐべき必要があらうまた体操科などもたゞ全体をそろへて外觀を美ならしめるのもよいが、各自が自己の健康についての考へに立つて、一つ一つの動作も何の意味なるかを時々顧慮せしめる必要があり、また兒童生活上の狀況に留意してなすやうにしたいものである。唯機械の様に捕へるいふばかりに腐心し、兒童身体の狀況も温度空氣その他の條件を顧慮せぬのは本末顛倒である。



## 九、學習觀とその實際

稻敷郡牛久尋常高等小學校訓導

高野千之

### 一、序 論

已に來るべく豫示されながら容易に來なかつた眞の教育研究の到達點——教育方法上の「コペルニクスの轉回」ども云ふべき「教授より學習へ」は遂に來た。

這般の世界大戦は經濟上に思想上に一大變動を來たし延いて我が教育界にも創造教育自由教育或は文藝教育動的教育、白く何、曰く何と幾多の教育説は雨後の筍の如の露出し朝に一説を送り夕に一説を迎ひ一々其の應接に暇なく、甲論乙駁喧々囂々として歸結するところに焦點を發見するに苦む程であつた然乍ら是等幾多の教育説を靜かに觀れば何れも個の目醒による呱呱の聲であつたのである。等しく人間自覺の聲であつたのである。然うして當然の歸結として皆個性尊重兒童本位の教育説となつて教育研究上努力すべき新方向を見出した。即教師本位にして一般論的なる從來の教育研究の欠陥に對し、實驗

心理學的研究の進歩知能研究乃至は精神作業の研究生物學的研究の進歩等の教育基礎科學の進歩發達と現代に於ける主義主義に立脚せる新カント派の哲學アラダグマチズムの哲學等の新哲學の影響とは學習研究を將來するに與つて力があつたと思ふ。

惟ふに眞の教育は學習其のものを科學的に研究し尙教育理想を研究してこゝに所謂教育の規節なるものを樹立して行ふべきであると思ふ。この意味に於て從來の教育は蓋し教育理想の研究にのみ没頭して學習其のものゝ科學的研究が殆んど閑却されて居つたと思ふ。近時學習なるもの、研究の大いに高潮され最早其理論に於ては大體の定論を見るに至り如何にして之を實際に移すべきかといふ問題にまで到達してゐると思ふ。

### 二、學習の理論的考察

學習は廣義に云へば生物界一般を通じて其生活營爲の自然的發展現象である。隨つて人生自然の事實

精神をば貫徹したい希望を持つてゐる。

三、良好なる學習の具備すべき條件

- (1) 自主的なること
- (2) 動機過程成果の正當なること。  
正當とは科學的に眞道徳的に善藝術的には美  
であることである。
- (3) 心力の經濟であること心力の經濟とは可能  
的最少の消費を以て可能的最大の効果を達す  
ることである。

四、學習訓練

教育とは學習を補導すること即良好なる學習を實現さすべく補導すること學習訓練とは良好なる學習を体得するやう習慣づける様之が訓練を爲すことであらう。補導者としての立場より見れば如何にせば良好なる學習にまで訓練することが出来るかといふ問題に歸着するであらう。ここに學習の補導乃至學習訓練の方法なるものが生ずると思ふ。

五、學習は如何に補導すべきか

學習補導の目的(教育理想)は主觀的には人格の實現。客觀的には社會文化の擴充で、一言にすれば文

化の創造である。然うして學習補導の方法案は一面

に學習の心理を見一面に其の論理(眞善美の規範)を考へて樹立すべきであると思ふ。叙上の目的を達するには叙上の基調に立たねばならぬものとすれば兒童に對しては諸種の學問技術等の示すところの眞善美を如何にして構成せしむべきか。私は之に對して二つの方法を考へる即一は理解に訴へ一は休得せしむる(意志を意志せしむる)ことであつて兩者の極致は直觀にある。然うして文化は外部より附與すること能はざるが故に自主的に自己を價値化せしめる意味に於ての自學主義をとりたいと思ふ私の意味する教育上の自學といふのは全然自學(獨學獨修)に任せると云ふ意味ではない。自學の指導であり、自治の管理であり、自育の督勵であるところの補導者を認めるとの自學と云ふ意味である。然うして私の云ふ學習の補導とは兒童の學ばんとする意志を正道に即良好なる學習に導き積極的補導より消極的補導に、消極的補導より積極目的たる眞の自學(獨學獨修)に導入する方法である。

六、私の自學訓練の實際

(一) 自學の根據

學習者(被教育者)には自己統一性と伸展性との二方面があると思ふ。之等は教育學習の補導の可能と効果が十分現れる意義が存するので前者は自我が其れ自身の力によつて一切の所與を統一し自我の内容とするので自我構成即ち今日新カント派の人々が最上の合理的假定とするところの先驗(アリアリ)の原理である。後者は其れ自身固有の力によつて自然的必然的に伸展し育成するところのものである。是等哲學上の二大假定が學習を可能ならしめ、又自學の根據が十分含まれてゐると思ふ。

(二) 如何にして自學の訓練となすか

A、内部よりの考察

(1) 自學の精神を涵養すること  
學習は學ぶ者其の者の學習であり、研究する者其れ自身の研究である。自己本來の慾求により、自己本來の力により自己本來の心意活動によつて爲さねばならぬ性質のものである。教師は唯補導者鼓鑿者案内者管理者であるといふ兒童の學習觀なるものと確立させることが必要である。

(2) 學習動機を自發的ならしむること

學習は動機を有する活動である。人間の學習動機を考察するに、(一)必要 (二)興味 (三)命令 (四)義務 (五)好奇心 (六)名譽 (七)利益 (八)自覺して理想の爲に、等を擧げることが出来やうと思ふ。然うして自發的に自覺して理想の爲に學習することは學習補導上到達すべき理想のものである。然し乍ら小學時代の幼少なる兒童を初めより理想の爲に自覺して自發的に學習するやう内部精神を訓練することは容易の業でない私は其れにまで到達せしめる過程中に手段方便として叙上數種擧げ九學習動機によつて學習を自發的ならしめたいと思ふ。利益の爲に學習することは補導者の注意を要することなれども就中興味必要感に學習動機を認めて補導することは最も價値あることであると思ふ。

一、學習に興味を持たすこと

兒童成人何れを問はず興味ある事柄に就ては注意持續し意志活動が從つて旺盛である。學習に於ても興味を以てすれば質も良く量も多いと思ふ。これを直接興味と間接興味と分けて見いて見た。

(イ) 直接興味

學習其のものに對して興味を持つことでこれには學習題材を生活化し、兒童の生活に觸れるもので方法其のものも兒童中心にして兒童に適合しなければならぬ。尙補導者(教師)自身が學習材料に精通し興味を持つてゐること更に教師が教材に對し自信あり感興あれば兒童も必ず感應と云はふか興味を持つことは實際經驗することである。

(ロ) 間接興味

名譽心競争心等學習其のもの以外に訴へて賞讃を與へて興味を持たすことで殊に幼年兒童に於て効果あると思ふ。無論直接興味に移る過程であり手段方便であることは免れぬ。

二、學習の必要感に訴へて努力を以てする學習態度を養成すること

興味なき學習に於ては自發的になさしむることは困難である。されば必要感に訴へて努力を以てする態度を養成することが必要である。興味と努力は相反することなく互に交渉し相助けるものであると思ふ。興味あれば注意持續し努力する様になり努力し

居れば自然に興味が起つて來ると思ふ。唯成人の必要感と兒童の必要感は必ずしも一致しないことは注意すべきである。

(3) 學習の方法を知らせ實行を通して自學的習慣を養成すること

習慣の養成は精神の涵養と依存的關係を有するもので精神を涵養しつゝ習慣の養成が出来習慣を養成しつゝ精神の涵養が出来ると思ふ。之には讀方なり算術なり如何にして學習すればよいか。學習の方法(學習順。参考書の活用法字引活用等)を知らしめ、之が實行を通して漸次に自學的習慣を養成するのである。學習方法を知らせることはやがて自力的に學習方法を發見させる根底ともなるのであらうと思ふ

B、外部よりの考察

(1) 學習環境の整理

自主的に學習を爲し得べく環境を整理してやることは必要である。書籍でも事物でも現象でも乃至は之に要する道具、器械等まで整理して與へ、自らこつて學習し成長するに都合よく仕向けてやる。單に自學の精神や習慣が養成されても之に對する環境が

不備であつたら其の効果を發揮することが十分でなからうと思ふ。

(2) 教師よりの補導法

1、學習補導の形式

自學の訓練てふ目的がある以上補導者として方法なしに慢然と之に望んでは目的を實現することが容易でなからう。少くとも補導の方法乃至形式の大体を定めて望まねばならぬと思ふ。型(形式)に抱泥することは禁物であるが目的を實現する爲の手段としてはさもあるべきであらうと思ふ。然うして兒童の學習と教師の補導は同じもの、見方をかへた二方面である。學習は兒童自身が爲すにも補導するにも兩者に大体の形式があると思ふ。私の實際行つてゐる形式を次に書いて見る。

一、兒童單獨で行ふ場合

自由學習

(イ) 全然自由

家庭又は學校で隨時に隨所で自發的に目的を定め自由に材料を蒐收し隨意の方法で學習する。全然補導者がないと見てよい。學習に興味あるもの聰明な

る者は之によつて利益することが多からう。完全に題材を理解取得することが出来るとすれば学習輔導上將來到達せんとする理想の方法である。

(ロ) 或制限内に於ける自由  
普通自習時間を設定し、目的を大体定め、材料も大体定められての学習で教師は輔導者の立場にある結果を調査し矯正することが出来る。

二、兒童相互間に行はる、學習

(イ) 共同學習  
教師の輔導下にあつて兒童が各自好む人の所へ行つて相互に研究し合ひ、或は自由に分團の形をとつて研究する。私は算術に於て之によつて利益を得てゐるやう感ずる。

(ロ) 相互回答による學習  
一應各自が研究した上、一方が問者となり、一方が答者となり問答し合つて是非を正す方法である。地理、歴史、理科等の關記的部分の教材は利益あると思ふ。

(ハ) 討論による學習  
或問題疑問を提出し互に論議を戦はし是非を決定

法である。自覺的に模倣せんとする意志を以てすれば私の意味する自學の意味に矛盾しないと思ふ。

(2) 思想を模倣するもの  
教師の思想を模倣せしなる方法で修身歴史等の情操を陶冶する部分の教材は之によつて價値がある。

(ハ) 講演による學習  
兒童が單獨で學習し得ざるところ又は必要のどころを教師が講演してやる方法である。兒童は講演を聴き其内容を力相應に意識内部に於て發動的に構成して理解取得するなるを以て私の意味する自學の意味に反しないと思ふ。

2、輔導の實際的方面

(一) 概 説

學習は理解的と体的的とあり。前者は理解に訴へて後者は体得せしむる即意志を意志せしなることによつて目的を達することで兩者の極致は直観にあるを以て概念法則等を構成する知的教科も鑑賞したり創作したりする美的教科も先づ經驗(嚴密に云へば直観と經驗はちがふが)に訴へることが必要であらう。經驗は兒童自らに行はせ之を基調として概念法

する。教師はこの場合輔導者である。

三、教師と兒童の間に行はる、學習

(イ) 問答による學習  
兒童が分らぬ個所を尋ね、教師から尋ねられて兒童が考へて行く方法である。

【注意事項】

- イ、質問指導の意味で教師の質問は模範たるを要す
- ロ、大切などころを選び疑問を發せざること
- ハ、自力で解決出來さうな間は直ぐ答へず更に考へる様に仕向ける
- ニ、分らぬ個所はどこまでも尋ねる
- ホ、時間を浪費せざるやう

(ロ) 自覺的(目的を解して)模倣による學習

近來創造を強く喧傳され模倣の價値を輕視する傾向があると思ふ。模倣は創造への過程なるが故に教育上其の價値は見捨て難い。

(1) 技術の模倣  
書方、圖書、体操等の手本或は示範を模倣する方

則等を構成させる實際經驗が不可能の場合は標本なり、繪畫なり、文章とかの方便物による。德的教科に於ても規範を與へやうとするには差支なき限り、經驗を根柢とし之より種々の規範かり意識なりを構成せしむ。情緒情操に關することも經驗を根柢とするのである。

(二) 各教科大體の輔導の経路(學習の経路)  
私は大体次の如き輔導の経路をとつてゐる

(一) 問題把握

自動的(然るに或は與へられる場合等)によつて學習すべき題材を捉へる

(二) 解決

(イ) 豫習  
經驗、實物、文書等を材料として兎に角自主的に解決せんと努力する。

(ロ) 本習

豫習に於て自力的に行ひ得ざるところを教師が輔導して解決を興へる。尙必要のところを補充する等。

(三) 練 成

練習應用して確實にする

●豫習の本領

自學訓練に於て價值あるところで自力で未開の天地を開發して行くので學習題材を自力で全部理解收得し教師の干渉するところなきは理想とするところである。

(三)各教科補導案

補導案なき補導は恰も舵のなき舟に似てゐると思ふ。其の目的地に達すること容易でないと同様補導の目的を達すること困難であらう。補導案は必要であると思ふ。

(四)(例) 讀方補導案の大体。(私の受持高二を豫想して)

- 一、問題把握
- 二、解決
- (イ)豫習
  - 大意把握、難語句の推讀推解、難讀文字
  - 難語句の指摘及參考書辭書の活用等
- (ロ)本習
  - 豫習にて解決出来ぬところの補導必要の

ところの補充等作者の思想感情を文字文章といふ形式を透しての想定、教材の劇化し得るものは劇化する等。創作の動機を興へる等。

三、練成練習、應用

訓練

私は學科の學習のみ自學的で他は傳統に従ふことは心苦しい。學習は知育、徳育、体育等凡てを包含してゐる以上凡てを自學といふ一元によつて包括統一したいと思ふ。訓練に於ても自治的生活をなさしめ獨立獨行の域に導入したい希望を以て次のことを考へて實行してゐる。

- (一)學習の経路
  - 一、學習題材把握
  - 二、實踐
  - 三、反省
- (二)實際方面
  - イ、學校園作業、掃除及教室の清潔整頓。
  - 學級日誌、隔週訓練徳目の協議決定並實行、放課時の運動遊戯、其他の學校内外

の生活

ロ、自治機關、學級會議、毎月第一、三、土曜日。

七、結 論(反省)

- 一、斯うしたことが兒童に力がつき面白く學習するやう見受けられる。
- 二、學習參考書方便物直觀物等の十分の設備が無くて困つてゐる。
- 三、教科の學習に於て初めの中は時間を浪費する。

一〇、將來する余が讀方學習の指導

筑波郡沼崎尋常高等小學校訓導

谷 田 部 謙 之 亟

▲一、序  
近來兒童の一團を同時に教授し訓練する、所謂學級教育について、その効果に對しての疑問を挿む者が漸く出て來て、茲に種々なる改案が現れた。パタヴィヤ式、グループシステムの如きはその改案の先鋒である。更に、最近に於ては、教師の意志を中心として兒童を直接に支配する教育或は教授よりも、寧ろ兒童の意志を中心として教師指導のもとに自ら

共同學習になるごみだりに人に尋ね自ら考へることをしない。注意を要する。

- 四、各教科特有の使命を發揮することに注意せねばならぬ。
- 五、訓練上の自治は教科の學習より指導が困難である。

◎學習訓練は單に形式で根底は教師其の人の人格と手腕との如何にあると思ふ。(乞御批判)

自己建設を行ふ所の學習が重んぜられて來た。かくして學習そのものの理論的研究の勃興より、その實際的研究の隆盛を見るに至つた。以來、吾人もこの研究の驥尾に附して、かなりの時日を消費し、かなりの辛苦をなめて今日に及んだ。しかし乍ら、その過ぎ來し跡を振りかへると、いささか失望に堪へぬものがある。見よその跡を、何と勞多くして効少き悲惨の狀ではないか。

けれ共その悲慘の狀は決して吾人の意氣を阻喪せしめるものではない。更により大なる努力と、より熱ある研究心をそるに絶好の教訓である。悲絶慘絶の瓦解の跡、そこにはまた新に建設さるべき材料と、土地と、そうして更に進み行くべき道とを見え出す。吾人はその材料にその土地にその道に、限りなき勇躍を感ずる。

▲二、わが學習觀

學習といふ言葉は、教育に對する言葉である。教育に教授訓練養護の三部面があるなら、學習にもこの三部面がある譯である。また教育の仕事が知育訓育体育美育の四つを含むものであるなら、學習もこの四つの仕事を有つてゐる筈である。しからば教育と學習との異同如何教育はその主体教師で、兒童は客體である。學習はこれと正反對で、その主体は兒童で教師は客體の地位に立つべきものである。しかして學習とは、學習者自ら教師指導の下に、目的を樹立し、之を解決する方法を立案計畫して、目的實現に努力し、自己の生長發展と社會的文化の創造とを企圖して行く作用である。約言すれば目的實現の

過程に外ならぬのである。

▲三、學習指導の根底

前述の學習觀に立脚して、私は指導の根底を構成觀と發展觀とにおく。それは學習に於て尊ぶ自律的學習、創作的學習、發動的學習、努力的學習は、すべて構成說の上に立脚して始めて眞の學習態度を馴致し得るものである。と信ずると、教育または學習は、より低きものが連續的により高きものに進みより狭きものが連續的により廣きものに進み、より淺きものが連續的により深きものに進むが如く、不完全なものより連續的により完全なものに生成變化して行くといふ狹義的發展に關與するものであると信ずるが故にである。

▲四、讀解發展の傾向

この根底の上に立つて、爲しつゝある——爲さんとする——讀方學習の指導を述べるに當つて、吾人は先づ讀解發展の傾向を明かにして置きたい。兒童の實際について之を考察して見ると、大体ではあるが、次のやうな三時期に大別される。第一期 繪畫及び思想を讀む時期

第二期 文字を讀む時期

第三期 文を讀む時期

A 全文のままを讀む時期

B 部分を讀む時期

C 全体を纏めて讀む時期

D 中心思想を讀む時期

▲五、余が讀方指導の過程

とり立てて書く程でもない。極めて拙劣な過程ではあるが敢て参考にまで述べる。貧しくとも私には尊い記録であるから、乏しくとも過去の努力の結晶であるから——。

私の讀方學習の指導は、二つの方面に別れる。一は自由研究で、一は整理である。自由研究は簡單には自由の材料により自由の場所に於て、自由な順序方法で研究するのであるが、現在では、材料は主として國定教科書によらしめ、進度は解放するが、教科書の順序に従はしめる。場所は授業中は主として教室内とするが必要に応じて自由に離席することを許し、一定の席に固着するを要せしめない。順序方法は凡てその標準を示して、之に準據させてゐるが

各自の工夫考案によつての更正變換は自由である。

整理は全級兒童の自由研究を経たる材料について主とし教室にて、全級兒童——時に教師——の定めたる順序方法によつて共同的に行ふのである。さて昨年高一を受持つてゐた時の指導案例を紹介して見よう。

(A) 自由研究

題目 高等小學讀本卷二、第七課維新の三傑より

教材 自由研究

目的 本時間の目的を想定して、各自自由に研究せしめる。

時間 不定

要項 目的想定、作業選擇、研究、反省

方法

一、目的指示

二、研究の順序を發展せしめて、次の如く板書。

研究の順序

I、目的想定

2、作業選擇

3、研究——個人、相互



4、反省  
三、研究すべき事項を發展せしめて板書  
研究すべき事項

読み  
解決  
大意  
感想  
詠味  
書取  
熟語の構成  
語句の應用等

四、自由研究  
板書した順序を元として研究を進めよ。  
作業は各自の研究材料の性質から考へて選  
べ。

五、個人指導  
質問に應ずる  
質問をする

六、反省——終業少し前に行ふ——  
1、過程について

教材 整理

時間 約一時間

目的 各自の自由研究の結果を出発点として、之を

訂正補充し、練成をはかる

内容上——三傑の人物功績並に當時の史實の  
一斑を知らしめて各自の修養に資  
せしめる。

形式上——評論的傳記叙事文の讀解習熟

要項 自由研究の檢閲、補正、練習、反省等

方法

一、目的指示

二、自由研究の檢閲(一)——測定

研究材料についての所見

自由研究の過程並に結果の概要發表

感想發表

大意の發表

三、目的想定

研究事項の決定——特に各自の努力すべき  
點を決定せしめて、之を各自の本時間の目  
的として明確に意識せしめる。

一一四

例——他人に迷惑をかけたか  
一生懸命であつたか  
愉快であつたか。等

2、結果について

例——想定した目的を達したか。  
收得が多かつたか。  
困難だつたか平易だつたか。  
好きだと——嫌ひだと——思  
つたかわからないことは何程  
あつたか。

全級で研究したいと思ふ問題  
があつたか。等

以上を一々發表しめることもあるが、各自の  
内省にのみ止めることもある。

七、批判——過程及び結果について簡単に批判を  
加へ賞辭又は訓辭を與へる。

以上七項の方法は必ずこの順を追うと云ふのではな  
い。ことに二、三、七は時に省くこともある。

(B)整理

題目 高等小學讀本卷二 第七課維新の三傑

四、質疑應答

頁を追うて(主として請解等の形式方面)  
全課(一般的方面)

五、自由研究の檢閲(二)——訂正

請方——一回宛、共同訂正、各自訂正  
難語句——發問、發表、決定、各自訂正  
文段大意其他

各自通讀——訂正したる讀解文旨等を確把  
せしめる。

六、自由研究の檢閲(三)——補充

形式を透して内容を補充する  
表現法等について補充する

味讀

七、練習

共同練習——讀方、書取、語句の應用、熟  
語の構成

個人練習——練習事項の決定、自由練習、  
練習結果の檢閲

八、反省

收得の如何

一一五

九、批判

自由研究の場合と全し

以上、私が現在爲しつつある指導の概要を述べた。この方法は、相當の効果を齎して来た。しかし決してこれが最善のものだとは思つては居ない。

▲六、明日の學習指導

過去の経験と、現代の思潮とから、吾人は茲に、明日の學習指導案を樹てねばならぬ。

(甲) 學習指導の方針

- 1、 讀解能力の養成
- 2、 鑑賞能力の養成
- 3、 創造表現力の養成

(乙) 獨自學習の指導——自由研究の指導

従来の讀方の自習といふと、辭書によつて讀方の獨自學習をなすこと——させることに解し、辭書の取扱のために、讀方學習の入口に於てかゝりの時間と労力を費し、その爲めに文章の鑑賞とか、創造表現とか深刻な所にまで及ばな

方學習の本質

(一〇) 文字語句は文章の意味に即して調べよ

(一一) 語句は理解、文字は銘記を目標とせよ。

この要項は一般論のものであるが、今これを一課文章の學習に就いての順序は大要

- 一、 通讀
  - 二、 全文の概念
  - 三、 新出漢字難語句の研究
  - 四、 文段の研究
  - 五、 作者の想定
  - 六、 自發問題の構成と解決
  - 七、 參考資料による研究
  - 八、 批評鑑賞
  - 九、 所感の記録
  - 一〇、 創造表現
  - 一一、 漢字精句の練習應用  
となる
- (丙) 獨自學習中に於ける教師の活動
- 1、 個人の質問に應じて指導をする。
  - 2、 机間巡視をして學習方面の指導をすること共

かつたことをしみて遺憾に思つてゐる。これ指導案の不備がしからしめたのであらう、今後は文字語句の研究等は手取り早く學習して、文章學習の本質にふれた學習を、深刻させるやうに指導したい。そこで今後は左の要項に基づいて學習を進めて行かうと思ふ。

- (一) 意味を考へて讀め……讀み即意味  
立つ讀方
- (二) 讀みにつれて意味を深く取れ……發展觀に  
立つ讀方
- (三) 不明なる文字語句に因はれるな……直線的  
に文意の闡明
- (四) 全体を目標として部分を調べよ……全体的  
學習の精神
- (五) 平易なる部分より困難なる部分に進め……  
學習經濟の一端
- (六) 不明なる部分はその後と共に熟讀させる
- (七) 題目を考へて讀め……全体的學習の一端
- (八) 作者を想定して讀め……作者は題目より一  
層全体的
- (九) 文章の意味は常に文章に即して取れ……讀

に激勵して學習能率の向上を図る。

3、 劣等兒の指導

A、 學習指導に於ては求めさせて與へるのが、原則であるが、劣等兒の中で求め得ぬものにはこちらから發動して指導する。

B、 劣等兒の事前的指導

要するに、獨自學習は兒童各自の工夫創作によつて學習を進めさせねばならぬが、指導の過程に於ては如何にして學習するかといふことを指導する必要がある、私はこの意味から今までも方法の指導にかなりの苦心を味つた。その苦心より得た收穫が以上の要項である。しかしいつもこの要項自由研究——獨自學習をさせるのではない、勿論、自己の工夫自己の創作によつて學習させるのであるがどんな方法で學習してよいかわからぬ劣等兒が、之を參考するのである。

(丁) 學級學習の指導——整理の指導

獨自學習——自由研究——の結果を出發點とする學級學習——整理——の時間には、先づ獨自學習——自由研究——の結果を檢閲することが極めて重要な

仕事となる。それは前述の指導案例で見られる如く

一、測定

二、訂正

三、補充

の三階段にすべきであると信ずる。

獨自學習——自由研究——の過程を檢閲する事によつて、指導者から言へば指導の中心點を定めることが出來、兒童から言へば學習の反省回顧になり、更らに本時間の目的想定をすることが出来る。

それには、次の如き發問をして兒童の自由發表を求め、或る場合は指名發表もさせる。

よく読んであるか。

面白かつたか。

むづかしかつたか。

有益だつたか。

何を主にしらべたか。

何か感じたことはないか。

大体どんなことが書いてあつたか。

次には本時間の目的想定である。目的想定は、獨自學習——自由研究——の場合のそれと、各自に想

定するといふ根本精神に於ては、少しもかはりはないが、自由研究の場合のそれは余程全体的であり、稍抽象的であり、學級學習——整理——の場合のそれは部分的であり、具体的である。しかも前者の場合に於ては、一旦想定した目的は、一時間中大体に一貫するけれども、後者の場合に於ては、或は級友に、或は指導者に暗示され啓發されて、中途に於て修正され變更されることが多い。けれどもその目的は何處までも個別的で決して劃一的にはならない。つまりどこまでも彼等自らが決定した彼等自らの目的である。そして彼等の目的は既に始業前に於て大体は決定されてゐるのである。その目的を次の如き發問によつて、一層明瞭に一層確實に意識させる。

各自の研究の未だ充分でないと思つてゐる點は何か。

此の時間に特に研究せねばならぬ事は何か。

その主要なるものは板書する。そして再考させ、愈々決定させる。かくの如くにして彼等の努力點が決定されるのである。

以上を要約すれば(一)獨自學習の程度調査、(二)學級學習の材料の相談協定となる。かくていよいよ研究に着手するのであるが、その方法は前記の案例に示したものと大差はない。けれども今後は大体左の順序によらしむることを便利と思ふ。

一、通讀

二、概要——所感——作者の相定——質問問題

三、文段の研究、質問問題の解決

四、中心問題の解決

五、研究發表——練習

六、反省と批判

ここで一つ注意せねばならぬことは時間の問題である。學級學習の際の時間配當は、教材の性質上より兒童の學習の傾向により、教師の方で予定することは不可能ではない。しかしそれは何處までも予定である。遮二無二にその予定時間内に終らうとするには無理である。時間が來たらば適當な所で一段落つけて、残は次の時間に割愛するがよい。つまり自然の發展を重んずることにはしたのである。而しかる場合でも反省と批判とは必ずやらねばならぬ。

向上と進展とを企求する生活に、反省の貴重なことは今更事新らしく述べるまでもなく明白な事實であるにも拘らず、此の點は多くの指導者には開却され勝ちである。あつたと痛嘆に堪えない。

▲七、學級經營

以上で、私の爲しつゝある——爲さんとする——諸方學習の叙述を了へた。所で此の方案に據るためには、豫め考慮して置かねばならぬことは、(一)研究分團の組織、(二)兒童席次法の考案(三)參考資料の準備(四)進度に關する研究等が主なるものである。これ等についても詳細に述べて大方諸賢の批判を頂きたいが、少し長くなつたから他日の機會に譲ることとして今は、(一)(二)の二項について現在行つてゐることを書いて批判を頂くことにする。

(一)研究分團の組織、私が現在受持つてゐる學級は男女混淆の高等二年であつて、男三六人、女二六人の大學級である。そして昨年十月から担任してゐるのである。

私はこの兒童を能方別に十個の分團に別けた。そしてこれに諸方學習分團の名を附して置く。それ

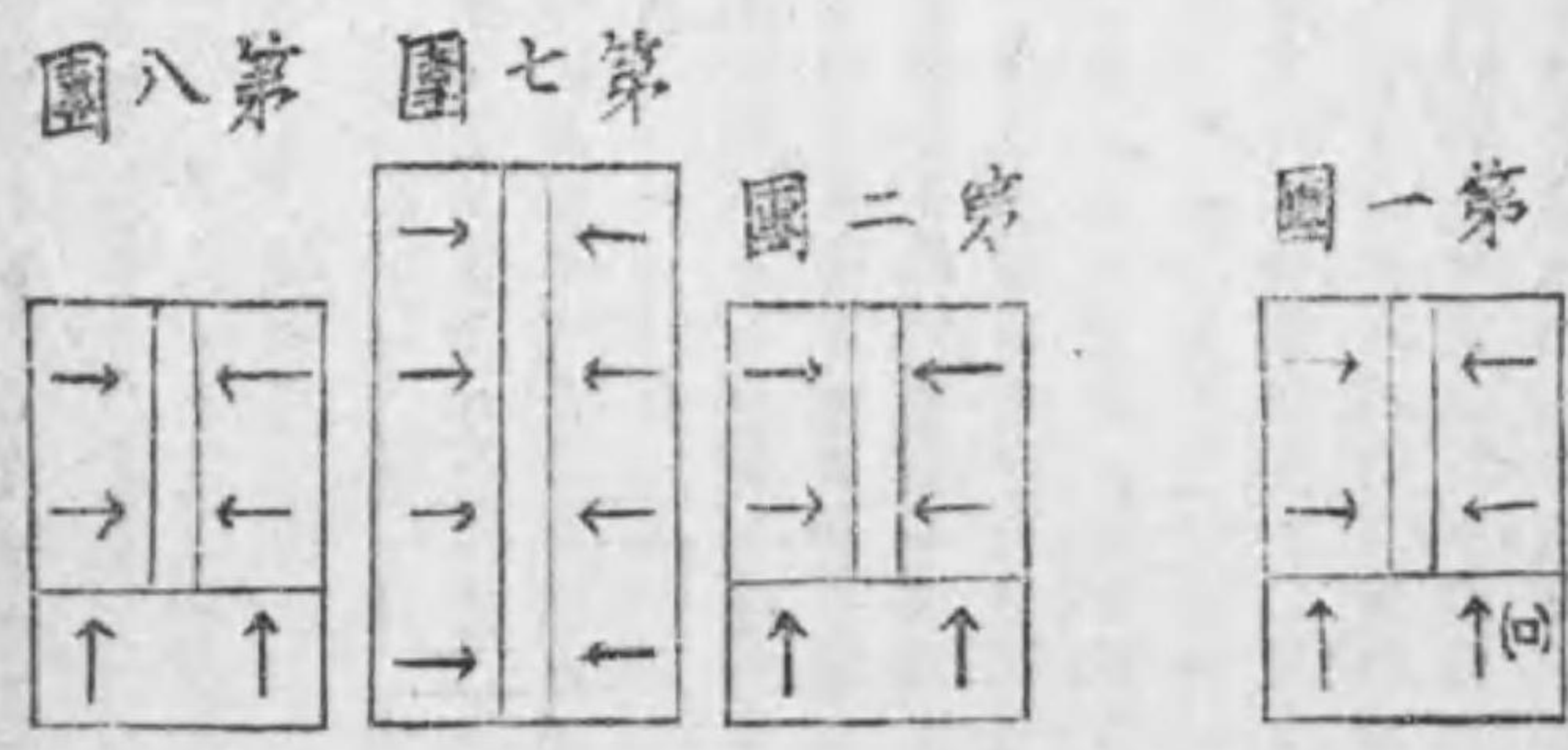
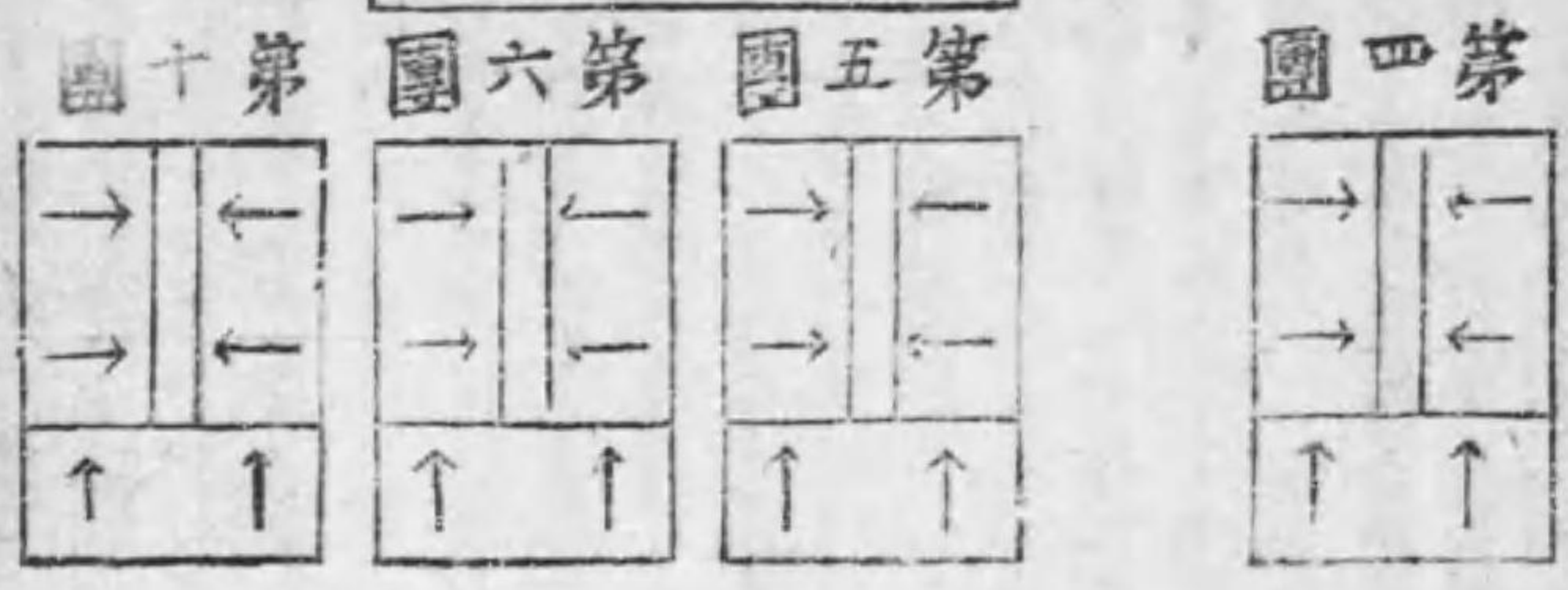
はこの分團は議方のみに限られた分團であるからである。左に表示しよう。

- 第一團 優等男兒六名
- 第二團 優等男兒六名
- 第三團 中等男兒六名
- 第四團 全前
- 第五團 全前
- 第六團 劣等男兒六名
- 第七團 優等女兒八名
- 第八團 中等女兒六名
- 第九團 全前
- 第十團 劣等女兒六名

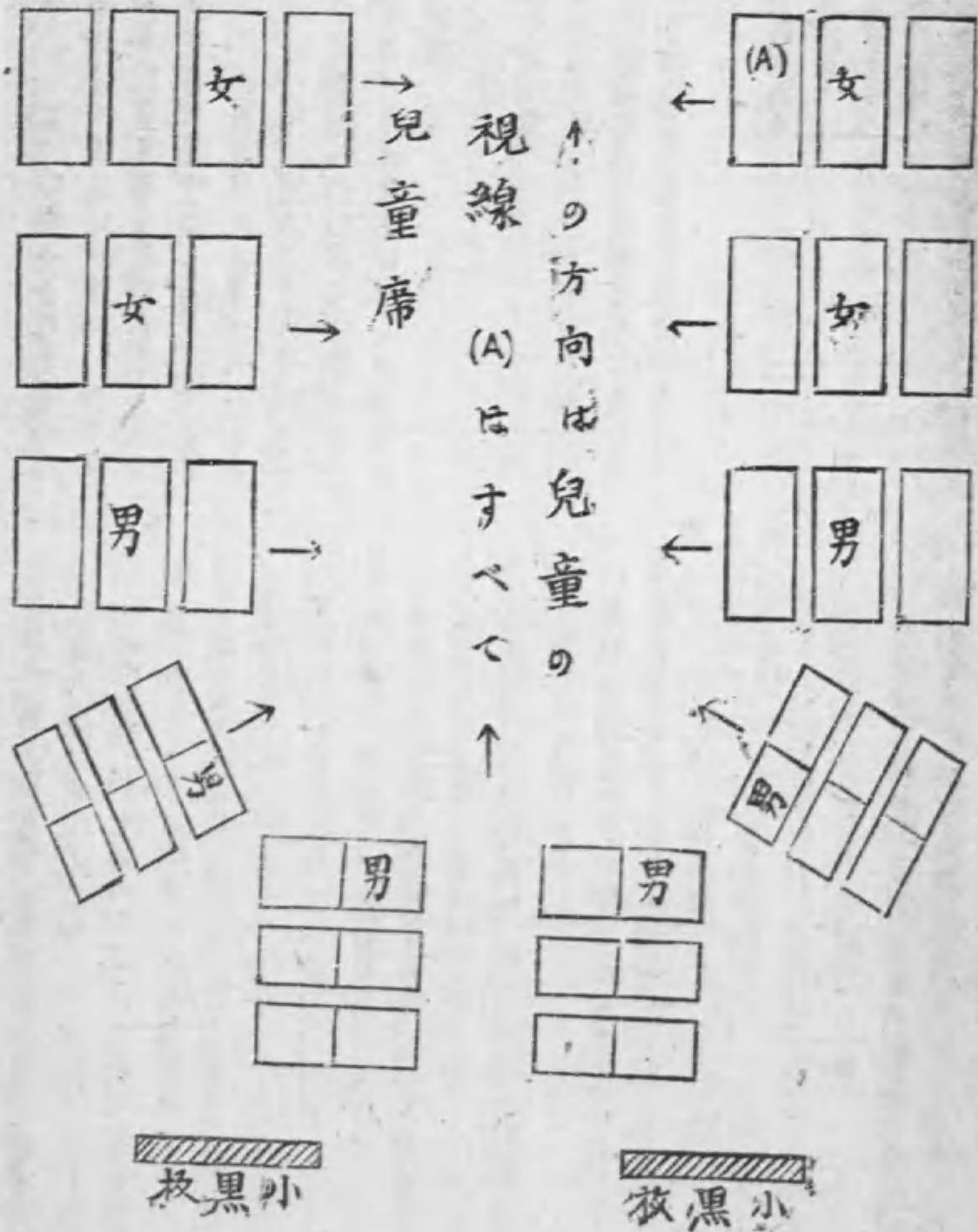
さて、この分團は主として獨自學習——自由研究の分團である。一分團中に優中劣を配置する方法をとる人もあるであらうが、私は以上の分團の分け方をとる。それは、一分團の兒童の能力がほぼ同一であれば、其處に相互間に競争心も起り努力も生れる。劣等兒の分團は劣等兒相應に活動するものである。しかるに一團中に優中劣をおく時は、いつも劣等兒は中以上に依頼し、または壓へられて伸び行

く折を失うものである。次に以上十個分團の排列を圖示すれば。

(イ) 教壇



(イ) 黑板  
 (ロ) ……すべて兒童席  
 個の方向は兒童の  
 視線



(二) 児童席次について、研究分團の組織は前述の通り、主として獨自學習の爲めにであるが、茲に云ふ児童の席次は、主として學級學習——整理——の場合の爲にである。従來の着席法は教師對兒童の輔導から割出されたもので、五六十人の兒童が一齊に教師の方を向いてゐる。この席次法については、其後種々なる意見研究が現れて來た。私は現在の席次法を試みてゐる。

▲八、結語

不完全なものより、連續的により完全なものに生成變化して行くことが即ち發展である。不完全より完全へ向つて發展する過程、これが吾々の現實の生活だ。不完全なればこそ向上もする發展もする。一歩なりとも完全へより近く進まんとする意志も努力も生ずるのだ。

一一、我が校児童學習訓練の過程

久慈郡町屋尋常高等小學校訓導

鈴木 昇

私の學習觀  
學習の意義については澤山の説がある。

私はその何れをとるものなるかを明にして置く必要がある。

従來の教育から覺めねばならぬ。完全より完全への教育から覺めねばならぬ。一歩一歩石垣を築くがやうに完全を要求し、その完成を要望した従來の教育は、ためにどれだけ児童の學習に好ましくない態度を植え付けられた事か思半に過ぎるものがあるであらう。

不完全より不完全への學習でなければならぬ。即ち児童の不完全なる學習を認めてやることだ。兒童の不完全なる學習を笑ふ勿れ。不完全は兒童ばかりではない。人生すべてが不完全そのものだ。若し完全なものがあるならば、それは理想郷だ、神の世界だ。

再び言ふ。不完全なるが爲めに向上もする發展もする進歩もする——。

従来の定義は専ら生物學的・心理學的の見地から行はれた。「學習とは有機体の環境順應なり」とか、「經驗の構成なり」とかの類がそれである。尙意識的に極限された心理的見地に學習觀を立てながら、學習を以て記憶なりと、最も狭き意味に解したのもある。

私のとるものは上述の心理的又は生物學的のものにあらずして、教育學的に定義された説である。即ち自分自らの力で、現在よりもよりよからしむることである。嚴密に言へば、自方的に自己を價値化するといふことである。

教師中心から兒童中心へ  
従来の教育は「如何に學ぶか」の研究を抜きにして只教師側の方面のみの研究を續けて来た。其の結果は他律的な、劃一的な、効驗性の薄弱な教師中心主義の教育となつた。

かうした方法は體力的壓迫的に走り、兒童の本來具有する創造性・自律性を發揚し獨創的行爲に導くことが出来なかつた。  
あらゆる新教育を通じての現象である兒童中心主義

の高潮もその原因と目わてとをこの點に發してゐる  
兒童中心主義  
教育教授の活動主体が教師から兒童にうつつた結果必然的に起る問題は、教授から學習へ他律的から自律的へ、劃一的から個性的へ——の流れである。かくて自ら求め自ら省みて、自己を刺戟し鞭撻し、歡喜の裏に社會的自己の建設を圖る學習が重んぜられる様になつた。

學習態度の養成  
従来の學校は形式方面重視の結果、抑制的な靜的なものとなり、生々發展の氣分に乏しかつた。之が救濟法として形式方面の完備から實力養成へ、實力養成から更なる一轉して、學習態度の養成へと要求點が遷つて来た。

學習は其の本則に於て自律的なるが故に學習態度として養成すべきは、發動的創造的のものでなければならぬ。  
特に發動的態度の養成は學習の大切なる要素である

- A、發動的態度の養成
- 1、大膽なる解放

大なる要求である。  
適當なる環境は兒童をして歡喜して、自發的に學習せしむるものである。環境の生長發展を圖るは學習者の仕事であると同時に、學習指導者の重要な任務なのである。

一、主義

- 1、現在の設備を學習的設備へ
- 2、學校の社會化——村民への解放
- 3、學校の設備より家庭郷土への設備へ

二、學習に適當なる環境

- A 施設方面の環境
- 一、校地の變更
- 二、現在校舍校具の活用
- 三、教室の學習室化

- 1、國体尊嚴圖
- 2、校訓級訓の揭示
- 3、偉人の肖像圖貼附
- 4、歴史年代圖貼附
- 5、郷土地圖日本地圖世界地圖貼附
- 6、本校兒童成績物及び他校兒童成績物展覽

- B、創造的態度の養成
- 1、束縛より解放へ
- 2、着想着眼力の養成
- 3、鑑賞眼及び批評能力養成
- 4、努力的の學習
- 5、模倣
- 6、教師の態度
- (1) 自己の立案により學習者を拘束しない。
- (2) 兒童の創作は兒童自ら訂正せしめよ。
- (3) 自己の高き批評眼創作眼養成。

環境の整理  
人と環境とは因果關係をなすものである。  
兒童中心主義の學習に於て、環境の整理は極めて重

- 7、掛圖類標本類の設備
- 8、繼續的觀察の設備
- 9、學習週案揭示(教授週録と連絡)
- 10、新聞切抜(村内新聞揭示場よりの感化)
- 11、繪葉書雜誌類の備附
- 12、實驗實測用の備附
- 13、積善録(反省材料)
- 14、室内の美化(當番制、衛生デー)
- 15、各學年及び各學區出席一覽表
- 16、兒童一覽表
- 17、兒童自らの整理
- 18、參考書類の備附
- 19、觀察台設備
- 四、教室外の設備
  - 1、廊下三ヶ所の新聞切抜貼附
  - 2、掲示板活用
  - 3、學習園學級園の經營
  - 4、農園見本園家庭實習地
  - 5、養鶏養兔
  - 6、養魚池(鯉)

- 7、雜誌發行
- 8、學用品の一定購買部
- 9、体操機械の設備
- 10、唱歌室、理科手工室、裁縫作法室、割烹室
- (二棟)設備
  - 11、兒童博物館
  - 12、兒童文庫
  - 13、演武場(現在教室利用)
  - 14、廊下を副學級室とす。
- 五、校外の設備
  - 1、家庭の開發
  - 2、社會教育
  - 3、自然物利用
  - 4、修學旅行(年一回)遠足(月一回)
  - 5、民衆學習園
- B、學習方面の環境
  - 1、靜的方面——學習組織の環境
  - 2、動的方面——學習指導上の環境

備考○印を附せるものは現に着手せるもの及び着手せんとするものなり

學習組織の樹立

學習の効果をあげる第一歩は學習組織の樹立にある兒童自らが教師指導のもとに自ら機會と刺激と目的と方法とを見出し、歡喜の裏に努力し得る様學習組織を樹立せば學校生活は生々したるものとなり。學習即生活の域に達する事が出来る。學校がこの雰囲気達したる時、學習者は自ら其の傾向に感化され自然に學習が出来る様になる。學習組織樹立方案として。

- 一、環境の整理——時間的空間的で延長
- 二、自求自解自悦の雰囲気をつくる。
- 三、自我中心の學習材料統一。
- 四、拘束より自由へ。
  - 1、劃一的から個性的ニ。
  - 2、教授から學習へ、
  - 3、學級の解放
  - 4、理科標本室の解放
  - 5、自治的訓練

學級自治會、兒童役員會、學區長會、修養會、

六、他學級教師兒童の利用

- 五、學習方法の指導
  - 1、獨自學習
    - イ、獨自學習時特設
    - ロ、家庭——獨自學習時(中心)——正課。
  - 2、相互學習
    - イ、分團を單位としたる相互學習。
    - ロ、學級全体として、

補導者たる教師の自覺

「結局は人の問題」よく聞く言葉である。教育が兒童中心であればある程度教師の職能は重大である。眞に兒童を愛し、彼等のよりよく伸びん事を考へて、先づ教師自らが自己深化に努むべきである、他律的に育まれ、他律的取扱に慣れたる態度より脱し、自ら發動的創作的の人たらしめて本校職員のとらつ、あるもの。

- 一、自己建設に努力、
- 1、教育方針の實施研究、

- 2、學習法意見發表會
- 3、學習指導實際の發表
- 4、圖書講讀と他校參觀
- 5、講話會講習會出席
- 二、兒童觀の確立
- 三、共學者たる態度
- 四、純粹無私の愛を以て兒童を包容す。
- 五、他律的教育思想の掃
- 六、指導の源泉を他にも求めよ

結 び

境を整理し、兒童の學習態度を養成し、自律的に學習し得る學習組織を樹立し、學習者の實際生活と

### 一一、學習指導法案

水戸市下市尋常高等小學校訓導

山口

豊

兒童の學習を徹底的に指導して行かうとするには教師の學習に對する考が決定して居らねばならぬでないと學習そのものが純でなく指導上不都合を來すおそれがあるからである。

學 習

平田氏は、

「學習とは有機体が新なる地位を統御する過程を謂ふ」と言つてゐる。

こゝに地位と言つたのは「兒童の内部に生れ乍らにして享有してゐる素質に刺戟を與へて發展せしむる生活の環境の或状態を総稱する」ものである。以上を通して見ると何れも自己活動がその中心生命であることが知られる。

しからばその尊重すべき活動は如何なるものであるかといふと、それは知識を構成する働である。知識は只外部の物が鏡に寫る様に吾人の心に寫るものではない。

知識は先驗的自我の働で構成されるものである。即ち論理的の働である。

真理は普通性必然性を有つてゐる經驗的個人の心的活動によつて構成されるものではない。

知識を構成することは目的を構成することである。何となれば、眞善美を創造することが人生の目的であるとする、學習は目的を通ずる手段であるからである。學習が目的を通ずることであるとすると、

學習とを結合し、學校を愉快なる學習場とすることは、私共の最も努力すべき點である。學習組織の樹立と共に學習者も補導者も歡喜的努力を以て學習することが出来る。かくて師弟共に全自己を活動させ共に伸び、共に歡び、より高い世界へと無限に生長發展することが出来る。

學校は自由と協同との精神に充ち校勢は日々發展し、學校生活總てが兒童品性陶冶の機會となり、更に之を時間的空間的に延長し、學習者を圍繞する學習的氣分は學習者の全生活をして學習の機會たらしむることが出来る。

從來教育教授が主体を教師客体を兒童と見たのに反し、學習は兒童が主体で教師が客体となつた。

渡邊氏は學習を定義して、「學習とは自力的に價值ある認識を構成するにあり」と言へ。

兒童は一の目的を達して次に移り移りして、次から次へと無限に發展するものである。かくして知識は兒童の力の籠つたもので構成者の人格によつて統一されるものである。ところが時によるこれを、誤解して、知識の系統化は學問の順序によること、考へて之を強ふることがある。これは前に述べた模寫説を取る者と言はざるを得ない。これは學習を不純ならしめる因になることで注意せねばならぬ。

最後に知識構成に個人差即ち個性の大切であることを考へねばならぬ。

個性に於て先驗的自我の活動は普遍的に認めるが、同時に知識を構成する實力の強弱は特殊のものである。心理學者の言ふ型は學習上から見ると此の型を通して働く先驗的自我の活動である。學習に於てはこの點に大に留意せなければならぬ。

次に學習を活動の方面から眺めるとそこには、自律的であること、創作的であること、自發的であること、努力的であること、以上四ヶ條の活動によつて經驗を構成して生長し發展することになるのである。そしてそこには目的があり、價值化があることにな



る。

### 環境の整理

學習の的を達するには兒童として適當なる環境の中におかなければならぬ。そこに整理の要を認めるのである。

只環境と言ふと靜的のものであるが、兒童との間に有機的關係があつて兒童に働きかけ、兒童が之に反應するといふ動的のものでなければならぬ。

前に述べた地位といふ語を以て之に代へると地位とは兒童に問題となつて彼等の心に開かせそれに対して何とか態度を定めて之に應しなければならぬといふことを意味するもので眞の學習はこゝから出發して行くのである。

### 環境と順應

生物は境遇に適合する様に性質を變化させて行くものであるから環境が固定的だと順應も固定し環境が進歩的だと順應も進歩するのである。

固定は機械的生活に入り進歩は發展的となり創造的の學習となつて來るのである。

### 1. 實驗室

博物標本、掛圖、化學實驗用具等適當に排列して自由で使用し得る様にしておくこと。

2. 學習參考としての圖書の備付

3. 廊下及運動場の利用、地圖、繪葉書、掛圖、圖表、實物、度量衡器の備付。

4. 學習の組織

豫習、動機づけられた地位に對し個人的學習をすすめる

相互學習、各自の學習を持ちよりて討議的に學習をさせる。

分團的取扱、特殊兒童の爲めに。

分科的取扱、教師の特徴を利用する爲め。

5. 動的方面

質問の仕方、應答の仕方、發表の仕方、討議の仕方

6 其他

教師及學友相互間の態度。姿勢、雜談、方言、單語等使用せぬこと。獨占的ならぬこと。有意的防害はせぬこと。

學習態度

教師は各學習者に學習の態度を習慣つけてやる様導

いて行かねばならない。そしてその態度といふのは

### 一、依他的ならざること

何事によらず教師學友に依頼せず自律的に解決し様とする態度であつて、もし質問するにしても自分の取つた方法を言つてから如何にすべきかを問ふ様にして行くのである。

例へば「私はこんなにかへましたが出来ませんでした」といふ風に、どこまでも自力による様にして行きたい。

### 一、創作的なること

學習を死に至らしめるものは機械的である、そこには發動もなく自律もなくなつて來るから自ら工夫して見やうとする目星を付けてやるのが大切で「あれは面白いやつて見やう」といふ様なところに心の躍動があるそれが機械的態度をおしのけて工夫し創造する様になる原因である。

### 一、發動的であること

發動的に學習せんとする態度は教師の動機づけによること大である、うまく機動つけて行くこと兒童自ら創造して見やうとし夢中になつてくるもので却て

教師や學友から色々説明に出られるのを感しないものである。

私はこゝに眞の努力も生れで來るものであると思ふのである。故に最後に、

### 一、努力的態度

を擧げて學習の動機として見たのである。

### 學習方法

學習方法の指導にはそのとるべき手段は色々あらうが、先づ學習方法について兒童に話してやること、しかしそこには機械的に流れない様な指導がある。

次に學習の實際に當つての暗示によつて方法を發見せしめるのもよい。第三は實際の方法に對する。批評である。

以上三つは互に有機的關係を持つて學習を兒童各自が創造し發見して、學習そのものが生成發展して行くものである。

私は指導の方法として先づ一學科について兒童に徹底させたいと思ふのである。兒童が一學科について適用されたこの學習方法が即ち體驗は、他の諸學科にも適用し易いからである。それには教師が自己に

徹したある科を選んでそれから出發したいものである。

### 算術科の學習

#### 1、出發を專實に

從來の算術教授は計算を出發としたが之れは生活から離れた算術で計算そのものに意味がないことになる。

しかし「それなら意味ある様に取扱つたらよいではないか」といふかも知れないが、意味ある様に取扱ふことが即ち生活化して行くことになるのではあるまいか。

算術的生活をすることは、實驗實測、數的關係を有する問題の解決（こゝに計算の必要が生じて來る、それが計算の應用となる）數的遊戯になる）をすること、事實を出發としてそれを統整（規範により）して行く所に科學的態度がある。

#### 2、問題の構成

問題を構成させたらそれを評價させることが大切である、即ち數量的關係、事實關係が正しいか否かといふことを

#### 3、構成問題の取扱

各自自分のものを解決する場合と、學級全部で取扱ふ場合とある。

學級全部が取扱ふ場合には構成したる問題を板書させてそれを評價し解法にうつるのである

#### 4、進行の仕方

事實から算術書の計算問題に入つて、更に事實に返つて問題構成なり教科書の應用問題なりを解釋させる。

#### I、讀解力の養成

##### A、通讀、大意把握

##### B、新字語句の研究

##### C、作者の心

##### D、内容の探究

##### E、參考資料調査

#### 2、鑑賞力の養成

##### A、批評鑑賞

##### B、所感

#### 3、創造力養成

##### A、樂書、綴方、作歌作曲、劇の創作

##### B、漢字語句の活用

#### 地理科の學習

#### 1、自然の研究に對する態度

出發が自然からするにしても文化の基礎としての調査である様にした。

文化を出發とする場合に於ても常に自然との交渉を考へる様指導したい。

#### 2、經濟的活動に着眼せしむること

圖表の讀解又は製作等によつて經濟生活を想像させ生産に伴ふ消費、分配、交換の狀況にまで及びたい。

#### 3、交通調査の態度

##### A、時間的距離の考察指導

##### B、地勢より來る影響に着眼せしめねばならぬ

##### C、經濟生活と交通との關係

以上

## 一三、學習訓練案

新治郡土浦尋常高等小學校訓案

矢口長次郎

### 第一序 論

近代學習方面の究高唱される様になつた事は誠に悦ばしい傾向である。然し幾多の教育主張は吾々實際家の應接に遠ない程に進展高唱されて實に教育思潮界は亂世の感がある。

蓋し理論の無い實際は空虚であり、實際の無い理論は盲目である、従つて理論を實際化し又實際から理論を産み出す處に吾々の尊い生命があるのである

如何に社會の文化に開展し、思潮が變轉しても吾人は常にその立脚地を凝視しつゝ歩む事の極めて緊切且つ當然なる可き事を痛感する者である。新主張に對する大敵はその反對者ではなく寧ろその輕舉妄動者であらうと思ふ。

此の意味に於て余は過去の經驗を基調として新思潮を吸み該研究を試た結果學習訓練案なるものを作製したのである。

## 第二 學習上の考察

### 一、學習の目的

學習の目的は個性の社會的倫理化で即ち自我の建設實現と文化の創造とを屬性とする社會的個人となることである。

### 二、學習の意義

學習とは兒童が教師指導の下に與へられたる刺激に對して自律的具案的に價值ある反應をなす作用である。

### 三、學習の基礎

學習の基礎が確立しなければ學習生活は圓滑に伸展しない。

- 1、身體的基礎
- 2、精神的基礎
- 3、道德的基礎
- 4、學習の動機

兒童の學習動機は生活過程と並行して内面的にも外面的にも自律的にも他律的にも旺盛となるのである。

### 五、學習の態度

が能力別學級編制をなす所以である。

#### 1、編制法

#### 2、經營の實際

### 二、特殊學級

低能兒や劣等兒を以て特殊學級を編制し經營する事の可否を論議すべき時代は過ぎて今や實行の時機である。

彼等の人間的存在を認める以上は人道的見地よりは勿論或は又社會政策上からも刑事政策上からも當然誘掖指導せねばならないのである。

#### 1、我が校の特殊學級

#### 2、經營の實際

### 第四 學習訓練案

#### 一、生理的活動の旺盛を期す

#### 1、身體の状態を良好にすること

#### 2、外部的條件の整理に注意すること

#### 二、心理的活動の旺盛を期す

#### 1、愉快な境地に置くこと

#### 2、努力的氣分の誘出

#### 3、行詰りの解決に努力せしむること

學習態度とは兒童の全人格活動の習慣又は傾向を指して云ふので、此の全人的活動が學習生活の上に表現される様になつた時は學習態度が樹立したと云ふのである。

### 六、環境の整理

#### 1、環境を調整すると全時に解放する

#### 2、設備を継続的に完成する

### 七、學習訓練の意義

自律的に價值ある學習をなさしむる様に導く事で即ち學習態度を樹立せしむる迄の教育作業である。

### 第三 我が校の學級編制

#### 一、能力別學級編制の必要

社會の文化は統一調和された差別相の實現であつて、此の存在の事實は優劣正邪の共存である。乍然小學教育としては遺傳や體質や境遇等の差異による個性に立脚して學習せしめる事が極めて必要である兒童中心は即ち個性中心で、個性に適應した指導教育をなすのも、學習上環境を整理して能率増進を図るのも畢竟自我の實現と文化の建設とを企圖する事で教育政策上極めて有意義のものである。是我が校

#### 4、注意の集注と觀察の精密と

#### 5、テストを試て心的活動を促す

### 三、學習動機の喚起を図る

#### 1、學習の興味化をはかる

#### 2、暗示、刺激を與へて學習意を高める

#### 3、壞疑的態度を持續せしめる

### 四、環境を整理する

#### 1、學習を解放して自由に

#### 2、學習時間を特設して自學せしむ

#### 3、復習(予習)を充分にする

#### 4、依頼心を起さぬ様に材料と用具を備へる

#### 5、兒童の生活經驗を重んずる

### 六、學用品の管理

### 五、學習の順序方法を會得させる

#### 1、教科の職能を了解せしめる

#### 2、教科の學習方案を示す

#### 3、學習題材を豫告する

#### 4、學習の順序を指導する

### 六、學習道徳心の涵養

#### 1、學校生活の理解

極的には喧嘩を戒めたもの

指導要項

- (一) 児童の経験整理
    - 1、他人を救助せし事につき自由発表
    - 2、發表事項に對する反省と批判
  - (二) 教師の補説
    - 1、人は共同生活をなすこと
    - 2、學友との關係三教科書取扱
  - (三) 教科書取扱
    - 1、繪畫教科書
    - 2、説話人物の批判と共鳴
  - (四) 學友に對する心得
    - 1、問答法により注意事項
    - 2、實踐上の指導
    - 3、訓練要目との抱合
- 第六 結 論
- 以上を要するに児童の個性と自由とに立脚して繼續的學習の習慣を確立せしめ以て學校生活の社會化を圖ることである。
- 惟ふに教育の事業は國家百年の大計であつて、そ

七、訓練方面の指導

- 1、訓練上の施設
- 2、誠實、沈着、忍耐、整理、共同、寛容

八、教師の態度

- 1、教材の研究を十分にすること
- 2、不斷の修養に努むること
- 3、特に児童を理解すること
- 4、實社會を理解すること
- 5、眞摯にして熱あること

第五 學習指導方針と指導案

修身科

一、學習指導方針

- 1、自律的學習の指導
- 2、道徳的判斷力の養成
- 3、道徳的情操の陶冶
- 4、實行の指導
- 5、修身科と訓練との抱合

二、學習指導案(尋常一年修身科指導案)

題材 第四友だちは助けあへ

目的 積極的には互に親切を盡すべきこと消

の効果は漸進的に現實の相となつて表現されるものである。故に吾人はその使命に鑑みて新時代の要求

一四、我が校に於ける學習訓練

結城郡石下尋常高等小學校訓導

沼 尻 省 巳

(終り)

する大國民を教養せねばならないのである。

學習訓練といふ聲が大分近頃盛んになつて來ましたが何うも單なる知識技能の傳達理解創造にのみ限られて居る様に思はれます。もつと情的に、意志的に

即ち道徳生活にも、藝術的生活にも、宗教的生活、經濟的生活及び保健衛生等にまで行かなくてはならないと思ひます。児童を全人的に見て、切り放されたものでなしに統一されたものであり、やがて完全への道程としての價值創造の生活にまでの訓練でありたい。斯かる事から私の學校では斯くする事がより經濟的であらうとして次の様な施設組織指導をなして居ります。又なさうとして居ります。

一 環境整理

環境は學習者の整理すべきものである。指導者として宜しく環境を解放し、一方素材を提供して児童自ら整理する様に各學習者を適切に指導しな

- 1、學園の設置及び擴張
- 2、器械、標本室の解放

(イ) 此の室は準備室といつて教師が學習指導の準備をしたり、児童に實驗、實測、觀察等をなさしめる室なのです。

(ロ) 此の室には擔任の教師が居ります、そして児童の要求に依つて指導をします。

(ハ) 理科實驗實測用具、算術科實驗實測用具、藥品、掛圖、地圖、圖表等其の他參考書等があります。然し未だ誠に設備が不充分で

す。漸次に完備さして行く方針です。殊に實驗實測用具は尋五以上を二十組に分け番組の器具を専用させる様にしたいものです

(ニ) 此の室には教師の席と児童の大テーブルが

五個程を備へるのですが、日下は大テーブルは二個しか有りません。黒板を流し場も備いつける積りで。

(ホ)自由に解放して居る爲めに次の様な聲が有ります。

- A 器具器械掛圖標本類の破損及び紛失
- B 薬品の差費
- C 使へ放して後仕末が不充分である爲めに

置場所が亂雑になつて他人の使用に頗る不便である。然し之れ等は共同生活に最も必要な公德心が充分でない児童としては仕方が無いと思ひます。此の儘に放任してはそれこそ教育の本質にもとります。斯く形式的の自由を許すはやがては實質たる理性自由にまで指導するためです。

3 圖書室(児童文庫)の設置

4 職員室の解放

5 物置の解放

物置の中には運動用具、掃除用具が入つて居ります。之れ等を児童が自由に使用するのです。

の。

(ニ)發言離席自由を許す。

之は動もすれば放縱に流れ不統一を來して却つて學習の能率を低下させます。自然性の理性化の度の低い児童は自由に乗じて氣隨氣儘になり用も無いのに離席したり、無駄話をしたりして他人の學習を妨害しその爲めに全般皆放縱になります。然し之れ等は一時的でず。やがては理性の芽生ひに依つて理性自由への道程となりませす。材料の選擇、指導法の工夫に依つて漸次に統一して來ます。私の學校の児童を見ますと何んだか訓練がなつて居らない様に思はれます。然し彼れ等の仕事振りを見ても友達に對する態度、教師に對する態度もたしかに一齊的劃一的なる鑄鐵式的取扱ひを受けて居る。學校の児童の様な眞劍味のうすい事や友達に對しての温い同情心の無い事や先生に對して敬遠主義を取り假面を以て接する等の有様とは違ひませす。仕事には眞劍味が有り。友人に對しては隣人愛を持つて

勿論後仕末の悪い者は使ひ放しです。然し彼れ等は責任の感を持つたせる事や公德心の養成に依つて漸次に減つて來ます。器械標本貨物圖書物置等に就いては自治會の問題に常に上ります。學級裁判といふ彼れ等同志の制裁も有ります。何んといつても全校職員が教育の仕事に全生命を打込む事が根本です。

6 教室

(イ)清潔整頓

きれいできちんと整つて居る所で學習する事が環境の美化といふ事から考へても必要です作業も學習の中です。

(ロ)裝飾(主として美的情操に訴へた鑑賞材料)児童自身でも行つて居ります。學年に依つては教師の手が大分入つて居ります。圖書書方手工綴方等の成績物或は大家の作上級生の作花卉、繪畫、繪葉書等です。

(ハ)設備品(主として知的學習の材料)

圖書、掛圖、各地の繪葉書、雜誌、參考書、文藝物等で彼れ等の學習の動機を喚起するも

接し先生に對しては敬愛を以て接して居ります。此の事が彼れ等に眞劍の仕事させる基となりやがては自覺をさせる事となるのです之れには各自の學習振を直觀して或は刺戟し暗示をなし批判をなし反省をなさしめ或は引出し傳達し學習結果を検し學習ノートを檢閲する等をなす事に依つて遂に學習せざるを得なくなりませす。

(ホ)教室への出入

教室へ出入は四年以下は整列して入つて居りますが五年以上は時鐘の合圖によつて直ぐ中に入りませす出る時も同じです。學習の始と終の禮等を略して居ります。之れはより經濟的に學習させるが爲めに無用の拘束を除いたのです。児童は中に入ると直ちに學習に取り掛ります。初めは遊びに心を奪はれて中々中々入つて來ないもの亂雑な入り方をなすもの又は中に入つて來ても容易に學習に取り掛らないものがあります。之れ等の者は大抵知的學習に興味を持たないのです。彼れ等の情意

が働かないのです。然し學習材料は成る可く彼れ等の生活から取り、そして彼れ等の能力に應じたものを與へ、そして指導法に工夫すれば彼れ等は彼れ等相當に眞劍味を持つて來ます。此の點から見ても我々は細目を三様作製する事や指導案の研究が必要です。

## 二、教師として

### 1 兒童との接觸

教育は靈と靈との交渉である。兒童が意識と教師の意識の相互關係である此の体に至るのは何うしても兒童との接觸であります。我は汝等を教ふる者であるといふ様な勿体な態度で接したのでは兒童は決して眞の自己を解放しませんが。之れでは到底彼れ等の生活を指導する事は出来ません。我々は飽くまで兒童に對して城壁を設けてはいけません。純眞の自己を解放しなければなりません。私の學校の先生は子供と友達同志の様に居ります。其の間に靈と靈との交渉が出来るのです。兒童は先生に對して遠慮等はしません。教員室へでも何處へでもすん

ずん後をついて來ます。何んだか先生と生徒の區別がなく。教權が地に墜ちた様に見えますが兒童は先生の事を心の底から敬愛して居ります先生の腔口一つ聞きません。無論ニツクネーム等の呼びません。之れこそほんどうの教權でせう。論中であつても鹿爪らしい形式ばつた禮等はしないで「先生」といふてかぢりつきます。然し不手にすると不しだらになり我儘な兒童にします。之れ等は教師の人格の問題です。凡ての方面に於て伸びつゝあり深まりつゝ教師の人格が必要でです。

### 2 絶えず深まりつゝ伸びつゝある事

教師も環境構成の一要素です。自己深化自己伸展の出来ないものが何うして他人を伸ばし、深める事が出来ませう。私の學校の先生達は誰れも教育の仕事に全生命を打込んで居ります。教師を天職と心得て教育者をして人間の修養を絶えず圖つて居ります。

### 3 懷疑的態度

學習態度養成の根本として懷疑的態度の養成す

る事が必要であらうと思ひます。兒童は此の態度を養成するには何うしても教師に此の態度が無くては成りませんと思ひます。

### 4 絶大なる愛の持主

兒童が絶えず環境を整理しよりよき學習生活を營む様に指導する事は一通りの努力では出来ません。折角素材を提供しても一向に彼等は之を利用しません。環境を解放すれば中には之れに乗じて却つて自然性を發揮して益々粗暴になり横弱になり、我が儘になり、之れが他の良好なる状態にある兒童にまで悪影響を及ぼし教師の心血を注いだ施設も無になる事があります。寧ろ教師の型に入れて鑄物師が自己の思ふ通りの型の物を造り出す様に他律的な活動を要求する事が余程樂です。然し之れでは教育の本質にやどりません。矢張り急がす焦らす或は涙となり獎勵者となり、相談相手となり一步一步彼れ等をよりよき状態にまで導かねばなりません。之れは容易な事ではない。たゞ絶大なる然も洗練されたる愛によるのみ。

### 5 教育觀の確立

我々が神で無い限り單なる自己の經驗や境遇から割り出された人生觀や兒童觀の上に立てた教育觀には獨斷があり、誤りが有ります。ましてやより心理的な個性の持主である教師に於ては尙更である。遺傳に於て境遇に於て異つた各兒童を正しく伸びさせるには教育の仕事の見通しがつかなくてはなりません。即ち此の子供は如何に指導する事が心理的な個性を人格的個性に高められるかと云ふ見通しがきく事です。之れには正しい兒童觀と、ほんどうの人生觀を持つて其の上に立てられた教育觀を持つ事です。之れには何うしても讀書と思索と體驗であらうと思ひます。

### 6 敬虔的態度の所有者でありたい。

現代人は余りに冷靜な知的に走り、切利な現實的な感情に促られ過ぎて居つて彼れ等の前には神も佛も無く彼れ等の精神界からは宗教的信仰の影が消え失せ様として居る。神の前に何故もつご心から額づいて神佛と我とが合二の境地

に入る事が出来ないであらうか、然し私は何も  
既成宗教によつてのみ信仰を得よと叫ぶのでは  
ない。只現實を超越した或る絶對なる物即ち天  
とか地とか或は皇室とか絶對偉大なるもの  
向つて理屈なしに有難いと云ふ感を持つ教師  
であつて欲しい。之れでこそ兒童に宗教的精神  
を培ふ事が出来ると思ひます。此處に於て更に  
ふり返つて見ると現代人の斯様に荒みきつた  
精神の依つて來原因がわかると思ひます。余り  
に理知的な科學的な教育に偏した總決算ではな  
いかと思はれます。勿論現在の社會生活が余り  
に窮迫して只肉体的にのみ生きる事に汲々とし  
て神とか佛とかを顧みる暇が無い事も原因でせ  
うがこんな事ではやがて國家の破滅であり自己  
の破滅であらうと思ひます。

7 情味の豊かな教師であつて欲しい。  
之れは別な言葉で言ひば藝術的態度の備つた教  
師であつて欲しいと云ふ事である即ち繪を見る  
眼、音樂を聴く耳をもつて欲しい小説のわかる  
教師芝居を見てそれに見られる人であつて欲し

#### 四、時間割について

した材料によつて學習をして居ります。  
近頃時間割徹底といふ事が叫ばれて居ります。  
之れは大方現在の時間割では折角兒童に興味  
起つて來ても時鐘に依つて中斷すると云ふ事は  
より經濟的な學習を妨害するといふ事とも一つ  
は心的状態に依つて其の時に學習したいと思ふ  
教科の學習をする事が出来ないで心の進まない  
他の教科を學習しなければならぬといふ時は  
能率と經濟から見て不合理であるといふ點から  
であらう。兒童の心理に基づいて發動的に學習  
をさせるには全く現在の様な時割を徹廢して他  
の方法に改めなければならぬと思ひます。然  
し兒童に自ら情意を働かして興味を起して學習  
に取りかかる事も必要です。例へば此の時間は  
綴方であるとするれば其の綴方の時間といふ其の  
事で興味が生ずる様にすゝめが必要であると思ひ  
ます。即ち總ての教科目に對して兒童は興味を  
持つて發動的に學習する様に指導上の工夫が必  
要です。斯かる時は時間割の徹廢は低學年に於

い、雲雀の歌蛙の聲天に沖せんとする朝日山の  
端に沈まんとする夕陽等あらゆる大自然は我々  
の美の對象である。それにあこがれる人であつ  
て欲しい。科學や哲學は只我々に論理的生活の  
規範を示すだけ又道徳的生活や經濟的生活、政  
治的生活は知と意の世界である。そのみにて  
は全人としての生活ではない。そこに温みのあ  
る潤のある情の生活がなくてはなりません。  
此處に於て兒童に全人としての生活をさせるは  
何うしても教師は豊かな情味の持主でありたい。

#### 三、學習材料について

1、成る可く彼等の生活から材料を取る事  
2、彼等の程度に相應したるもの  
彼等の生活と没交渉な材料及び能力不相應なも  
のの學習では發動的にさせる事が出来ない。そ  
こで材料及び量、質の劃一は致しません。ほん  
とから云へば彼れ等自ら材料を取りそれを至  
統化し價値化させる事がほんとうでせう。私の  
學校では大体三様の材料を取つて居ります即ち  
能力の似寄つた者を三通り位に分けて各々に適

#### 五、自習時間

此の時間は全く兒童の自由に使用させます此の  
時間に最も興味のある學習をします。算術の  
作題をするもの、童話を書くもの、寫生をする  
諸方の學習するもの皆思い／＼の事をします。  
はじめは無駄話をしたりばかんどして居る者等  
あつて遊び時間の様に思つて居る者もあつて  
が之れ等は教師の指導によつて漸次によい状態  
になつて來ます。

#### 六、自治會

子供等同志で互に忠告しあつたり、褒めあつたりして生活の向上をはからうと云ふのです。然し子供同志にのみ任して居つたのでは矢張駄目です。決定事項を先生と共に實行する様に指導するのです。

自治會の種類としては

- 學級自治會 一週に一回
  - 學校自治會 一月一回(四年以上と四年以下)
  - 部落自治會 隔週一回
  - 部落合同自治會 一月一回(部落の四年以上)
  - 學級自治會、學校自治會の決定事項は各學級に掲示します。
- それは六月二日にやつた學校自治會の議案です各學級から提出したの中最も現在に於て重要なものを一つ選んで實行方法に取り掛る相談に移るのです。
- 一開會 二君が代 三唱歌 四默想 五議事
  - 第七學級提出 これからの注意
  - 第八學級提出 生水を飲まない様にさせう
  - 第九學級提出 夏季衛生の注意

先生に對して、友達に對して、男女生間  
(ハ)玄關の前の敬禮をもつと丁寧にさせう  
(ニ)老人、不具者等に對して親切にさせう  
(ホ)悪口を言はないやうにさせう  
以上の事が定まりました。

七、指導案例

尋二算術指導案

一材料

尋二算術書

兒童の構成問題

二學習の經過

1 個別學習

イ、兒童各自の進度に依る學習  
ロ、教師は比較的進度の遅れて居る者に對する指導と質問に對する指導

2 共同學習

イ、事實問題の概評

問題構成の態度

ロ、問題提出(兒童)(當番又は希望者或は指名)

兒童が問題を讀み説明し課題する

第十學級提出 これからに就いて  
第十一學級提出 禮儀を重んじませう  
第十二學級提出 禮儀を重んじませう  
第十三學級提出 服裝について  
第十四學級提出 實行週間をつくりませう  
六お話 沼尻先生  
七今日の自治會について 湯澤先生  
八閉會  
先づ提出された議案の選擇をやるのです。之れが中々問題なのです。此の時は高二提出の實行週間をつくりませうといふのと尋六提出の禮儀を重んじませうといふ問題の選擇が非常にやましかつたが結局禮儀を重んじませうといふ事に定まつたのです。そしてその實行方法についての相談にうつりましたが次の様な事が定まりました。

(イ)言葉遣をよくさせう  
「ちくしやう」「やろう」などと言はない様にさせう  
(ロ)朝と歸りのあいさつ

ハ、各自の學習

ニ、問題の研究

問題の批評、解決、の方法の吟味(教師兒童の共同學習)

三本時迄の經過

イ、共同學習の問題の構成は前時に於てなしたるもの  
ロ、教師は豫め個個の問題を見て置いて共同學習の問題を選定する

尋三男体操指導案

体操科指導について

体操のよいと云ふ評判の學校を見ますと大抵は劃一的な一齊的な機械的な他律的な取扱ひで全体としての美はあつて教師の自己満足になり兒童も一齊美についての快感は起るだらうけれども兒童が眞に運動の主目的を自覺して自由に愉快に自律的に行つて居る學校は死んど無い体育の目的は個人の身心の完全にするために行ふものです勿論之れは他教科でもそうですが体操に於ては殊にそうです全体美等は第二義ですゆ



め第一義と第二義とを間違つては不可せんと  
思います。

一 教材

- 1 教練 イ 集合 ロ 整頓 ハ 行進
- 2 体操

- A 1 踵の上下 2 頭の後屈 3 臂前下伸
- 4 上体後屈 5 体前倒 6 其の場跳躍
- 7 呼吸

B 自由体操

C デットボール

二 仕事の経過

- 1 兒童に体操を自由に練習させ教師は個別又は一齊の取扱によつて適當に指導する
- 2 教練 3 自由体操 4 競技

尋四讀方指導案

一 材料 卷七第十獅子と武士

- 二 目的 獅子が武士に救はれたるとして獅子は武士の無二の従者となつた然るに二者の別れる時が来た恩義に感激しつゝ、日を送つて居た獅子は別離の悲しみに堪えず後を追

ひて海中一片の藻屑と化す其の動物と武士との間にかもされたる美しき心情を味はす

三 個別取扱

- 1 豫めなされた學習法によつて學習開始
- 2 各自の研究及び相互研究に入る教師は質問に應ず

四 共通取扱

- 1 研究發表
- 2 發表事項の整理
- 3 教師の整理

備考

- 1 個別學習に就ては  
どこまでも讀まんとする態度を養ふこと、文の生命をつかひて深く讀む習慣を養ふこと  
讀んでは考へ、考へては讀む習慣をつけたい形式を透して内容へ進ませる事を相當で指導しつゝあり。教師は兒童の能力の調査、質疑  
應答指導、共通取扱の材料蒐集等を行ふこと
- 2 共同學習に就ては

全兒童の意志が相互に關係し合ふ他人の發表で自己が啓發され自己の發表で他人が啓發する個別學習に於ける兒童の研究を土臺として學習を進めて行きたいと思ふ。

尋六地理指導案

指導についての考へ

一 個別扱を充分に行はせる事

- 1 兒童が各自に目的を立て、計畫を實行させる
- 2 兒童の能力に應じ個性に應じた研究であるから進度が皆異なる研究法も種々である
- 3 個別學習を充分にさせるには環境の整理である。環境は兒童が整理するものであるが指導の意味で充分に参考書、地圖、繪葉書、標本、模型、統計書等の素材を提供しなければなりません
- 4 教師は絶えず兒童の學習を注意し刺戟暗示等を與へなくてはなりません
- 5 兒童の研究物はよく吟味し其の兒童の研究方向に即した指導をしなければなりません之れ

には學習ノートに目を通すことです

- 6 良好なる研究物は他兒童に暗示を與へる爲めに示す事も必要です

二 共通扱

自然相互關係、自然と人文關係等について重要な問題及び研究發表による學習の結果整理をなす。

三 紙面が許さない爲めに指導の意見だけで案の代りとしてます原理即實際です原理のある所に必ず實際があります

尙は指導案例を各學年各學級に亘つて全部書きたいと思つたのですが餘白がありませんから之れにて止めます。我が石下校の爲め何卒厳正なる御批判を仰ぎ御指導を御願ひします。



# 一五、我が校に於ける各教科指導の方針

鹿島郡訪談尋常高等小學校訓導

中 村 健 吉

一四八

## 各教科指導の方針(總則)

兒童の個性を尊重し創造的活動を重んじ自學自習を本とし文化價値をして連續的に發展擴充し社會の實生活に適應せしむる様指導す。

### 一、修身科指導の方針

兒童の徳性涵養の方面

從來の修身教授に於て兒童の精神界を修養させること、即ち道徳的意識を養成すること、正邪善惡を識別する判斷力及び善を好み惡を嫌ふ情操理性の判定する所に従つて義務を盡さんとする努力をおこさせるこの方面に明確なる道徳的概念を啓發してやらなければならぬ。

實踐指導の方面

徳性の涵養は内部的の修養であると共に兒童の境遇に應じて日常身近の事柄につき如何に實行すべきかを指導せねばならぬ。この二方面の指導がこの科の生命であるが、從來

の經驗に徴するにあまり効果のあらはれざるは主

としてこの科指導上兒童の心理と教師の指導の方針とが一致されぬからで、例へば人物教授の場合に於ける人物に對する教師の態度、人物の時代場所、境遇を適當に指導せざるにより道徳的意識を確認するに至らぬ譯である。そこで本校では該科指導の三大方針を定め、この信念を兒童の腦裡に熱烈に啓培することにした。

### 一、個人生活方面に關して

個人の人格を尊重し個人本位にあらざる發展擴充近來の思潮たる自由平等なるものを正解し責任感を深からしめる。

現時農村の現況より見て經濟的發展すべく指導する獨立獨行事業を敢行し自己の運命を開拓すべき意氣と抱負とを持たしめたい(これが後に町村公共の爲に盡すべき義務公民生活の基調となる)

## 二、家族生活方面に關して

近時々代の思潮と共に家を受するの念微薄となれば祭祀墓參供養等には一層意を致さしめ家の觀念を明かにし弛緩しつゝある孝道を振興せしめねばならぬ。生活改善の指導をなす(郡訓令民力涵養。國民精神作興に關する趣旨徹底方)

## 三、國家社會生活方面に關して

國家的精神の涵養(國家を離れて國民なし)  
(かの不敬事件などを見て)  
皇室と國家建國の由來、國体の精華について)  
公明正大の道義を領得せしむると共に社會奉仕の精神を喚起すること。  
附時事問題取扱と公民的教養の必要。

## 國語科指導の方針

### 1、讀方科指導の方針

#### イ、讀方教授の本質

中略 我々が他人の文章を讀んで味ひ得るには必ず其處に讀む我と彼(作者)と一味通する所が無ければならぬ。又文章を讀むといふ事

は讀む我と文章とが對立的に二分されて居る状態に於ては不可能である。讀む我と作者とが合一した時初めて讀む事が可能である。

### ロ、讀む作用

讀む作用(教師)によつて讀む作用(兒童)を導くことである。又讀むといふ作用を通して兒童を想の世界の沈潜せしむる様に導くことである。

### ハ、讀む働きの過程

#### 第一次直觀

(漸明的指導)

#### 高次の直觀

形式を通して内面の深み、文章の透徹した意味を求めて生命を體驗する事を讀み方教授の生命とすれば語句語法の取扱をも生命(意味)を認識し體驗する手段と見なければならぬ。

### ホ、修辭法の取扱

如何なる修辭法によるべきかを要求するものは文の意味である。文の生命を離れては如何なる巧句美言を以て飾るとも何等文に生彩を

加へることができぬ。

へ、大意把握に就て

言語文章が有機的に統一されて一つの意味自體を形成せるものと見る（文意の概讀はとらす）

ト、朗讀法に就て

チ、鑑賞に就て

鑑賞は讀みの極限で我と作者との合一境地であるからこれは丁寧に指導してやる。

リ、結論

本科學習の本質は讀む作用を外にしては何處にも是を求むることは不可能である。しかしして教授の過程が讀む作用か讀む作用を導く所にあると見る以上、それは深く讀む教師にして深き意味を文中に見出ししかる教師にして始めてこの科の指導が可能であるしかしてかゝる教師に導かれる、兒童こそ眞に深い學習が可能である。

2、綴方科指導の方針

1、兒童の生命の奥底に潜む創造自己的活動を尊

ばねはならぬ。その個性を通して現はれたるものが、人格的生命である。兒童彼自身を描いてその内、生活精神生活を描いて一切の出發はない。かゝる人格的生命の創造が最も誠實に健全に自理に働く時それは必然的にそれが形式技巧を内含して現れる故に綴方教授は飽迄兒童の現在に兒童の生活に出發せねばならぬ兒童が眞に自己を深く見自己生活に滲透して内省し整理し表現する時それは生命ある。文章の創作と言ふべきであること、を指導してはしい。

2、實際上の問題

イ、創作と鑑賞

ロ、詩に就いて

ハ、劇に就いて

3、書方科指導の方針

イ、實用的價値を中心目的とし正。速。美の三要素に従ひ文字の書方を指導する  
美的要素を含むを以て美的陶冶をなす  
ロ、指導上の注意

1、姿勢執筆潤筆等の準備を適當にする

細字 單鉤を本體とし双鉤も許す

大字 双鉤を本體とし單鉤も許す

2、基礎練習

基礎的筋肉的練習をする

筆法會得

3、自己反省に依つて美的に

4、正速美の三點は何れも重くみる

5、展覽會をひらき鑑賞的取扱をする

6、應用を重要視する（はがき手紙）

7、自己成績を比較し向上を自覺せしめ練習の興味を喚起せしむ。

算術科の指導方針

1、形式的方面

日常計算に習熟せしむる方面

A、數概念の養成

A、測るべき全數量を提供し兒童に教へんとする數の漠然たる觀念を與ふること

B、測定の一單位又は數單位を選び測定作用を行ふこと。

B、數を以て量を表すこと

A、實例へば石木片等の如きを提供しそれによりて數的觀念を確實ならしむると共に量的關係を知らしむ。

C、數と量との演算關係を知らしむること。

數と量との關係を知らしめる。

D、日常生活に必要な事實關係。

A、應用問題の提出

1、應用問題解決の順序

問題の意義を解釋させる。

解法を案出せしむ

概算をさせる

計算

驗算

説明發表

B 日常計算の應用化

2、思考の精確

A、數及數の關係を知らしめる

B、事實相互の關係を理解せしむ

C、思考を論理的に修練せしむ

- D、秩序正しく明瞭正確に言語又は文章を以て發表せしむ
- E、一般の事項を数の關係より検討し論理的に吟味する習慣を養ふこと
- 3、生活上必須なる知識の授與
  - A、度量衡貨幣及び時の制度に關する知識其の測定機械器具の取扱法の授與
  - B、郵便爲替小包電信電話等に關する法定上の知識授與
  - C、物品の時價貨銀租稅公債株式保險貯金等經濟に關する諸般の知識授與
  - D、市町村經濟及國家經濟の一斑を知らしむ
- 地理科指導の方針
 

地理學習の本質より見ても時勢の要求より見てもこの科の振興を計らねばならぬこの科學習の準備としては他教科に於て學習せる地理的教材の整理として

  - 一、地理的基礎觀念の養成
  - 二、地理的現象の觀察指導
  - 三、讀圖力の基礎觀念養成

- かくして指導方法に及ぶ
  - 1、郷土に關する地理的事項の基礎觀念を確實にする
    - 一、尋四以下他教科にあらはれたる地理的事項の基礎觀念養成に努むること
    - 二、校外教授等によりて地理的事項を直觀させる
    - 三、尋五の初歩に於て特に重要な地理的事項の整理をなす
    - 四、常に郷土と比較して學習せしむ
  - 2、常に讀圖力養成につとむること
    - 1、尋五の初めには次の諸項を整理教授して讀圖の基礎觀念を確實にすること
      - イ、縮尺の表し方を知らしむ
      - ロ、圖上方位を知らしむ
      - ハ、平面圖の觀念を與ふること
      - ニ、諸記號を了得せしむ
      - ホ、陸海設色の附號を理解せしむ
    - 2、地圖を讀む場合には常に次の諸點に留意せしむ
      - イ、位置方位距離廣さ、河、岬、郡邑、交通等を平

- 面的に表はしたるものを知らしむ
  - ロ、高低起伏の状態を考ふること
  - ハ、自然相互自然人文相互の關係を考ふること
  - 3、距離面積等の圖上測定をなさしむること
  - 4、この科學習は地圖を中心としてなさしむること
  - 3、常に讀圖力養成につとむること
    - 1、次の各種の描寫方法によりて練習せしめる
      - イ、外廓を透寫して他の要素を記入する
      - 透寫描寫、畧圖描寫、方眼描寫
    - 2、次の如き各種地圖を描かしむ。
      - イ、各種分布圖
      - ロ、部分圖
      - ハ、總括圖
      - ニ、見取圖
      - ホ、斷面圖
    - 3、描寫上の注意
      - 正確ニ平易ニ迅速ニ

- を領會し自然と人文との有機的關係を考察し地理的  
法則の存在を發見し眞にこの科學習の効果を收め得  
るのである。
- ◎歴史科指導の方針
  - 1、尋四以下他教科にて學習せる歴史的事項の基礎觀念を確實にする
  - 2、尋五の初めに於て特に既習史實の考證をなし郷土誌及び年代觀念養成につとむ。
  - 3、年代圖の指導
    - 年代圖の必要、年代觀念を直觀的に知らしむた  
めに年代觀念の意義、歴史上の時に關する觀念  
時代の意義、歴史上特色を有するあるある一時  
間なり年代意義、紀元年數によりて表はしたる  
時なり
    - 年代圖の具備すべき要件
      - イ、内容
        - 年代を表はすこと
        - 必要なる紀元年數及年號を表はすこと
        - 時代區分を表はすこと
        - 代表的事件人物等を掲ぐること

ロ、形式

簡明なるべきこと  
縦横適宜なるべきこと  
色彩は鮮明に

時代の特徵に連絡して意味ある色彩に  
年代圖に記入すべき紀元年數

神武天皇即位	紀元元年
神功皇后三韓征伐	八六〇年
佛教傳來	一三一二年
大化革新	一三〇五年
奈良遷都	一三七〇年
平安奠都	一四五四年
天慶の亂	一六〇〇年
平民滅亡	一八四五年
源賴朝征夷大將軍となる	一八五二年
北條氏滅亡	一九九三年
後龜山天皇京都遷幸	二〇五二年
足利氏亡ぶ	二三三三年
關ヶ原戰	二二六〇年
家康征夷大將軍となる	二二六三年

しめつゝ學習せしむ。

- 1、國初より現時に至るまでの政治的變遷の概要
  - 2、歷代天皇の盛衰
  - 3、我が國民の武勇にして忠君愛國の精神に富めること
  - 4、我が皇統の無窮なること
  - 5、文化の由來の概要
  - 6、外國との關係
  - 7、我國の世界萬國に卓絶せる所以
  - 8、現在の我が國の地位と我等の覺悟
- 6、全体と部分との關係を考察學習せしむ
- 理科指導の方針
- 1、低學年に於ける理科知識の養成
    - イ、諸教材を利用して主として國語讀本
    - ロ、兒童生活の環境より
    - ハ、兒童の好奇心に依る
    - ニ、興味を喚起する
  - 2、一般理科學習指導
    - A、内部的興味の喚起された時
    - A、學習に興味を有するもの

大政奉還

時代區分

神代	吉野時代
奈良時代	室町時代
平安時代	戰國時代
鎌倉時代	江戸時代

歴史教授と總括的復習

總括的取扱によつて

- 1 歴史科の本質を鮮明にする
- 2 年代觀念と總括的復習
- 3 史實相互の關係時代變遷の理解と總括的復習
- 一、時代の總括的復習
- 二、學年末の總括的復習
- 三、日本歴史全体の總括的復習
- 四、總括的復習の順序
 

かくして日本歴史全体の重要事項を概覽せしめ以て我が國体の觀念を明かにし國民的志操を喚起する譯である。
- 5、次の諸點は特に彙類的に總括せしめ批判せ

B、結果に對して興味を有するもの

- A、兒童の發達階程の如何なる時期に於ても果して彼等を導くに充分なる各種方面の疑問を持つてるや否やを明かにすること
- B、兒童の疑問點と理科研究の對照とする自然物とは如何なる關係をもつか即ち兒童は如何なる時期に於て如何様に自然物自然現象に疑問をもつかに就き明かにすること。
- C、兒童は自分の疑問を果して獨立して解決を得るかどうか出來得るとすれば兒童の解決だけに任せて置いて足りるか出來ないとすれば如何にして指導するかをさめる。
- B、兒童の蒐集本能に基く教授
  - A、無意的蒐集 有意的蒐集
  - B、理科教授の方法の基礎としては無意的蒐集から有意的蒐集に移る過程を重要視すべきである。
  - C、ある目的の下に計畫ある蒐集をせしむること

- D、蒐集の際に於て觀察の訓練をすべきである
- E、保存せしめて後實際に後日参考資料として役立つ事を経験せしむ
- F、所有本能の有害なる方面を現はさぬ様にすること

D、児童の経験  
経験の指導

- A、経験を吟味し檢證してその缺を補ひつゝ、新しい経験を得せしむる事に努力すること
- B、低學年尋四以下に於て自然物自然現象に就いての正しい経験を得せしむる様な機会を作ること

3、實驗觀察

直觀は地方面でなければならぬ

4、獨立の思考とその指導

自主的の態度を徹底保持せしめ穿鑿的の態度に出で以て思考力を自ら練らしめる事

唱歌科指導の方針

- 1、児童の奥深き心の要求として自然に歌ふ喜びより出發する

材を選択する

- 12、基礎的訓練は心身の發達につれて指導する
  - 13、低學年より高學年に移るに從ひ聽唱法を去り指唱法より純然たる視唱法に導く
  - 14、尋五以上よりは作曲的導を適宜加味する作曲は自らの生命を盛る形式として出る創作活動なればなり
  - 15、高學年(尋六より)複音唱歌を適宜採りて和聲音の美的教育に資す
  - 16、唱歌會を屢々催して鑑賞を豊富にする然して鑑賞力の養成につとむ
  - 17、生理的衛生的方面を開却せず
- ◎体操科指導の方針
- 1、運動を好愛し積極的に鍛練する自覺を與へる
  - 2、教練に於ては規律的訓練を得しめ後日秩序的な生活に順應し得る能力及び習慣を尊重するの精神を養ふ
  - 3、体操に於ては積極的に身体を鍛練し精神を快活剛毅ならしむるにあればこの訓練が大切である

- 2、歌ふ聞くとの間に尊い音樂的人格を陶冶し先天的に保有せる兒童音樂性を遺憾なく發揮進展につとむ
- 3、口形發聲練習は可成教師の姿勢口形等を直觀せしめる様に暗々裡に指導する
- 4、教師の聲音を機械的に模倣せしめることはよろしからず
- 5、鑑賞(聽く)に重きを置く然し唱誦(歌ふ)も無視せず
- 6、音程の基礎は各音の直觀に始まるが故に特に之に力を注ぎ音程を確實にし高學年に進むに従ひて低音と高音を言得せしめる
- 7、聽音練習は正確なる音の理解を得しむるために低學年より之を課す
- 8、個人につき音域を調査しその擴張につとめる音域は年齢性別により相違するけれども自由に歌ふためには音域の擴張は必須である
- 9、低學年より指揮棒にて指導する
- 10、個人指導に意を注ぎ聲音の分析的調査を行ふ
- 11、歌詞は各方面の要求に應じて郷土化したる教

- 4、各運動の目的を知らしむると共にその運動の要領を會得せしめる

- 5、身体検査の結果を利用しその矯正につとむ
- 6、教師は受持學級の病類並に身体の異常を調査し置き常に指導するを要す
- 7、練習は自動的になさしめ以て休得理解せしめる
- 8、示範及び矯正

◎家事科指導の方針

- 1、住居について  
建築に關する大体の事項殊に衛生上の知識を授く家屋家具の保存整頓取扱等につき必須の知識と實習とを授く
- 2、衣服について  
調製並びに保存に關し必須の知識と技能とを授く廢物利用の法を知らしむ
- 3、看護について  
應急手當醫師の示命實行に必要な理解と技能とを確實に知らしむ
- 4、食物について

食物に關する知識を授く

食物の調理方法に關する理法を明確に授け充分これが應用の能を練る

衛生上の知識は最も之を重要視する

5、育兒について

嬰兒の取扱哺乳食物に關して

幼兒の衣類疾病療方の大要知識

6、經濟について

豫算のたて方

貯蓄の必要

家計簿記の一斑を知らしむ

7、一家の整理

善良なる家風をつくること

婢僕に對する心得

交誼を圓滿ならしむること

◎裁縫科指導方針

1、裁方教材を各方面よりとり思考推理力を養ふこと

2、作業は常にある計劃の下に着手し最後は必ず最初よりの進程を反省批判し理想の向上を期

すること

3、運針練習によつて氣分の緊張を期すること

4、材料の華美を望まぬこと

5、用具材料の始末に留意せしむること

6、中指机上の清潔針箱の整理用具の整頓其他秩序綿密眞面目謙讓沈着の諸徳養成に注意すること

7、教材の選擇は兒童心身の狀態境遇等に鑑みること

8、メートル法の觀念を養成すること

9、個人指導一斉指導を適宜配當すること

◎圖書科指導の方針

1、題材の選擇は兒童の任意とする

2、表現法は兒童の内的生命の必然的發展の反影であらうといふ見方に立つて指導する

3、個性的表現を重んじ成績の調一を望まぬといふこと

4、單なる科學的正確さを逐ふて寫眞的標本的成績を求めてはならない

5、畫學的理法の知的詮索に耽つて生命のぬけた

歌を製作せしめてはならぬ

6、圖案の學習は兒童の隨意にしたい

7、用具はなるべく自由にしたい

8、學習指導は創作と鑑賞とに分けて相連關して美的人格の陶冶に資したい

9、鑑賞は藝術的意味を味はしむるを以て主眼としたい

10、成績物取扱について

◎農業科指導の方針

1、農村經營者たりといふ自覺を喚起すること

2、農業基礎觀念養成(他教科にて授けたる)

3、學習材料は前以て觀察調査し置かしむ

### 六六、我が校に於ける學習訓練の實際

茨城縣師範學校調査

關 山 金 之 助

#### 一、學習訓練の方針

##### (一)自主的態度の養成

學習をして充分効果あらせる爲には、兒童が自ら進んで學習する、自發的、自主的態度が肝要である。

##### (二)目的的活動の態度養成

學習をして自主的になさせる爲には、兒童に明瞭に學習の目的を把握させて、凡てが全人格による有目的活動の態度を養成することが肝要である。

(三) 追求的態度の養成

効果ある學習をなさせる爲には、兒童自身が學習材料に對して疑問をおこし、或は興味を感しそれに對して飽くまでも究明せねば止まぬところの態度を養成することが肝要である

(四) 具体的活動の態度養成

學習をして効果あらせる爲には、兒童の學習を具体化し實驗、實測、實習製作等をなさしめ「爲すことによつて學ぶ」の態度を養成することが肝要である。

(五) 自訂、創作、鑑賞、應用の態度養成

學習をして効果あらせる爲には、兒童をして該問題に對し自己訂正の態度をとりしめ、又創作、鑑賞應用の態度を養成することが肝要である。

二、各科學習訓練の實際

(一) 算術科

1、一般的

(1) 自ら考へ、自ら發見せんとするの態度  
(1) 兒童をして自ら考へ、自ら發見せんとするの

の數字の如きも確實性を失ふことなからしむることが大切である。

二、數觀念について

數觀念は數へるといふ心の働きと直観などによつて出来るものであるから數へ方練習に適するものがあつたらどんな物でも數へて見る、色々にならべるなどして直観する、即ち數へるといふことに趣味を持たせる様に仕向ける。

三、形式算に就て

1 算法

(1) 學年によつて一概にはいひないが既に學んだ事柄を基礎とし推論的に計算の方法を發見しようとする態度をとらせる

(2) 算術書の例題時によりては答より推論的に算法を發見會得せんとするの態度

2 算法の理由

(1) 何が故にかくの如き計算方法をとりか十分考へ、機械的に方法を會得するのみを以て満足せざるが如き態度

(2) 算法理由を究明する場合、必要によつては進

態度を馴致するには兒童が算法や解法を自ら考へ、自ら發見した場合、よし其の方法が拙劣であつても迂遠であつても相當にみとめてやる必要がある。

(2) 又算術書に挙げてある例題の取扱を十分工夫して形式算の學習法を會得させる

(3) 兒童に問題を構成させる

2、究明せずんば己まざるの態度

兒童をして究明せずんば己まざるの態度をとらせるには飽くまでも研究をつゞける習慣を養ふことが大切である

兒童にかゝる態度を馴致するには指導者も亦かゝる態度を持し兒童の眞に了解納得するまで適切な補導を與へることが必要である

3、沈着なる態度

算術は學科の性質上少しの誤りも許されない故に沈着なる學習の態度を作らねばならぬことはいふまでもない。兒童に沈着なる態度を馴致するには答の速かならん事をのみ望ませないで飽くまでも確實に整然と計算し記す所

んで作業に訴へて見るが如き態度

(3) 既に學習した材料と比較對照して考へて見ようとするが如き態度

3 計算習熟

(1) 進んで同種類の計算問題を他の参考書などからも見え出して練習しようとする様な態度

(2) 暗算練習、補充問題等を観迎する様な態度

四、事實問題に就て

1 問題に接した場合

(1) 熟讀玩味

(イ) 何を求めるか、(ロ) 又此の爲には何と何とが與へられて居るかをよく考へながら何回も讀んで、場合によつては學習ノートに記載して見る様な態度

(2) 過去の經驗事實に結び付けながら何回も讀む様な態度

(2) 算式構成

算式を構成する前に必要と認められた場合(イ) 圖解もして見る(ロ) 問題の意味を發表の出来るまで考へても見る、式にも書き表はして見る



なつて尙餘裕のある場合には他に解法が無い  
かど更に考へて見る

(2) 問題構成、類題を構成して兒童相互問題を出  
し合つて解いて見る

(3) 問題彙類、今までに習つたことのある問題と  
考へ合せてどんな種類の問題か彙類して見る

(4) 補充問題、算術書以外の参考書から同類の間  
題を探し出して練習して見る

3 検答の際

(1) 誤つた場合は其の原因を常に反省して見るそ  
して適當な方法を講じさせる例へば事實不明  
のために誤つたとすれば事實の鮮明するまで  
質問もする又計算力が確かでないかつたためと  
ならば同種の計算練習を復習的にするといふ  
様な態度

(2) 解法はよく説明の出来るまで考へ各算式には  
簡明に説明を附記する

(3) 自分の解法と違つた解法に接した場合には問  
題と其の解法とを對照して正しいかどうかを  
よく考へ納得の出来るまでは相互に研究しよ

(ハ) 問題中に含まれてゐる各數量を簡單化し  
て其の關係を考へても見る(ニ)既に學習した  
材料中の似寄つた問題と比較對照もして見る  
(ホ) 實驗實測等にも訴へて見ようとする様に  
仕向けさうして自信ある思考推理のもとに自  
力で飽くまでも算式を構成せんとするの態度

(3) 概算

答は大略幾何位になるか胸の中下考へる

(4) 計算

問題の種類によつて注意する所があるから十  
分氣を附けて自信ある計算をする

(5) 答の吟味

イ、考へ方と計算とに誤りがないかどうかいま  
一應よく調べて見るそして檢算をするまで  
もないといふ様な自信のある態度  
ロ、概算との比較又場合によつては檢算をして  
題意に合ふかどうかを調べようとする様な  
態度

2 問題解決後

(1) 別解以上の様にして誤りのないことが確實に

うとする態度

五、問題構成

1 形式算練習の際にはこの算法は如何なる事實關  
係の場合成立するものであるかを考へ應用問題  
を構成して見る……これによつて算法適用法が  
明確になるばかりで無く解題力も出來て來るし  
數量常識も發達する研究的態度も養はれる  
2 事實問題に接した際には類題を構成して見よう  
とする如き態度  
3 尙其の場合にも努めて自由に問題を構成し  
て見る

4 そして構成上必要に迫られたら種々の計器を用  
ひて實際測定もして見る、郷土の實際について  
調査もして見る様な態度に仕向けたい

六、諸等數に就て

數量觀念、廣量衡器、時計、寒暖計、分度器等  
を利用して實物、實体について常に研究しよう  
とする様な態度

七、求積に就て

1 自分の生活に近いものに就ては積極的に面積や

体積、容積、容量等を實驗的に測定して見る

2 場合によつては圖に描いても見、製作もして見  
て單に面積や体積を求め許りて無く各形態の  
性質などまでお研究しようとするの態度

八、グラフに就て

1 圖表類などを實際に見たならば深甚の注意を拂  
ふ様な態度

2 統計の結果を圖示したり又或種の問題はグラフ  
を描く事によつても解いて見る様な態度

九、算術帳について

1 學年によつて一概にはいひないが豫習の結果不  
明の點を明記して置いて、本習する場合には其  
の點に特に注意を拂ふ様に仕向ける

2 常校で使用させてゐる算術帳

(1) 尋常一、二學年に於ては横野のものを用ひ中  
央に縦線をひき一番號のもとに二〇づゝなさ  
しむ

(2) 尋常三學年以上に於ても同様横野(野は巾は  
異なる)のものを用ひ、適當に區劃せしめて  
經濟的に使用させる。

(二) 歴史科

一、一般的  
1、自主的態度

歴史の學習に於ても、兒童が自ら進んで學習する態度を馴致することが肝要である。(例へば教師の説話を聞く場合には兒童は心をはたらかし、きかんと欲する情勢が内に燃へてゐる様な態度)

かかる態度を馴致するには兒童に各教材に對する夫々の研究の順序を會得させておくことがよい。即ち

- A 人物を主としたる場合は
- (1) 時代 何時頃の人か
  - (2) 場所 どこに生れ どこで仕事をしたか。
  - (3) 祖先 祖先は誰か どんな家柄か
  - (4) 生れつき。
  - (5) 事績、どんな事業をしたか
  - (6) 影響 其の人の仕事(又は人格)が其の時代にどんな影響を與へたか
  - (7) 批判、其人をどう思ふか。

B: 戦争及び事件を中心とする場合は

- (1) 時代、何時か
- (2) 人物、之に關係した主要人物はだれか
- (3) 場所 どこで
- (4) 原因 どういふわけ
- (5) 状況 どんな有様
- (6) 結果 どうなつたか
- (7) 影響

G 文化教材を中心として研究する場合は

- (1) どうしてそんな事が出来てきたか、
  - (2) それらの事にあづかつた人は、
  - (3) それはどんな事實か、
  - (4) その文化と前時代(或は前の時代)の文化との關係、
  - (5) 文學なり、宗教なりが人の心にどんな影響を與へてゐるか。
- 以上は國史教授上起つてくる。主なる場合をへてみて其の問題構成上着眼すべき代表とも見るべきものを上げたのであるが、何時いかなる場合もこれに従はねばならぬ事はない。それ以

外に必要な問題も構成されやうし、又以上の内でも必要な事もあらう。

二、史實に對して

1、因果關係を推及する

歴史の學習に於ては史實を正當に理解するに止まらず、常に因果關係を推する様に態度を馴致する。

2、史實を批判する

人物、事件等を學習したる場合にはなるべくそれに對して批判する。

3、所感を發表する

所感を發表する態度を馴致する。

三、教科書に對して

1、兒童が常に教科書に親しむ様にする。

2、教科書の讀解の際に常に其の主眼點を透せざる様にする。

3、教科書の挿畫に常に注意し、其の主眼點に着眼せしめ其の實際を想像せしむ。

4、教科書零頭の御歴代表を常に引用する態度を馴致し、其の事件、人物は何天皇の御代なり

しかに常に注意させる。

5、教科書の地圖、年表、系圖は理解をたすく上に必要なものであるから常に利用する様にする。

四、歴史的兒童讀物

1、歴史的兒童讀物に常に親しむ様に態度を馴致する。

2、兒童が或る問題の解決を試みる際、知りたい事が出て來た時には、なるべく兒童讀物によつて解決する様にする。

3、教師の説話後にそれに關係ある兒童讀物を示して學習させることもある。

(備考) 現在我が校兒童圖書室にある歴史的兒童讀物の主なるものは

- 北垣泰次郎著 國史美談、上、中、下、前編、中編、各數部、
- 桂田金造著 趣味の小學國史、尋五(上下)尋六(上下) 各數部
- 桂田金造著 趣味の偉人物語 二部
- 菊地勝之助著 小學國史物語 各時代卷

五、標本 繪畫、寫眞、地圖等、

- 1、標本 繪畫、寫眞、地圖等の材料を可成多く示し児童をして此等を常に注意して観察せしめ、學習に利用させる
  - 2 繪畫、寫眞等に就ては、常に其の主眼點に注意させる。
- 此等の方便物は理解し易い文にて其の物の主眼を明示しておくことが肝要である。
- 3、標本、繪畫、寫眞、地圖等は兒童博物館に陳列して常に觀察させる。
  - 4、此等のものにて兒童の蒐集し得るものはなるべく多く蒐集さす。
- 六、説話の聞き方、
- 1、國史の學習に於ては説話の聞き方の態度を馴致することが肝要である。説話を聞く時には兒童が心を働かせて聞いてある人物事件のなかへ没入する様に導くことが大切である。
  - 2、他人の話しを聞く場合には意味を捉へ、要點を捉へる様にする。
- 七、郷土史について

- 1、郷土史を重んずる。一般史を學習する時にそれに関係ある郷土史を附加する様な態度を馴致する。
  - 2、其の地方に存在する古寺社及び遺蹟等に兒童を引卒して現地に望み其の事蹟について學習させ、又兒童に發表させる。
  - 3、郷土の資料はなるべく兒童に蒐集せしめ兒童博物館に陳列して兒童に觀察させる。
- 八、他教科との關係
- 1、他教科との關係に常に注意する態度を馴致する。

即ち何か讀んだ事はないか、他の教科で教はつた事はないか等と考へ、過去の記憶をよび起す様にする。

(三) 唱歌科

- ◎本科の目的に對する吾人の態度
- 一、形式的方面

1、美感の養成

美的感情の陶冶は本科教授の生命である。小學校に於ける本科の使命は決して技術養成に

2、徳性の涵養

あるのではない。あくまで純美なる唱歌を唱誦することにより、又聴き味ふことによつて彼等の善美なる感情を陶冶するにある。故に本科に對する兒童の學習も此の使命を實現すべく訓練されなくてはならぬ。

ヘルバルトの言に「美なるものを喜ぶ情は麗て美なる高尚なる意志及び行為を喜ぶ情に移り易いものである。故に美的陶冶は總て道義的努力を奮起せしむる主要なる作用である」といふ事がある。

唱歌科は兒童に道徳を強ふる教科ではない。たゞヘルバルトの云ふ意味に於て、美感を養成することによつてひいて徳性の涵養に資すべきである。かくして行くことが眞に道徳的人格をつくり上げる事になるのである。

二、實質的方面

1、唱歌技能の養成

小學校唱歌科の根本精神は形式的方面の陶冶にある。唱歌技能の養成はその目的を達する

爲めの言はふ方便である。しかし形式的方面の陶冶は技能の養成をすることによつて得られる。完全に唱歌技能を高むる事は總て善美なる感情の陶冶をなし得る事になる。故に小學校で實際に兒童を取扱ふ仕事の大部分は唱歌技能の養成にあるといはねばならぬ。

(イ) 音樂の諸記號に關する知識の授與

小學校は職業教育でないから、あらゆる音樂上の知識を授ける必要はない。平易なる歌曲を辨知し得るだけの知識を授ければよい。又それだけは授けねばならぬ。

(ロ) 歌詞の解釋に關する知識の授與

本當は國語の領分であるが唱歌科が歌詞(詩)を扱ふ以上其の學年の國語力によつて唱誦すべき歌詞の語義心持ちといふものを解し得る力をつけてやる必要がある。

(ハ) 歌ひ方

「平易なる歌曲を歌ふ事を得しめ」といふ意味を小學校卒業の曉はたとへ一々教ふる人の模唱によらずともそれが所謂平易なものであれ

ば自分では唱誦し得るだけの力をつけてやる  
と解する。

(三) 聴き方

技能といふ中に入れることは如何かとも思ふ  
が、つまり聴き味ふ力をつけてやるのである  
巧に歌ふ事は巧に聴き味ふ事が基をなさねば  
ならぬのみならず音楽を聴き味ふといふ事は  
それ自身非常な價値を持つのである。本當に  
よく聴き味ふ能力が出来たなら唱歌教授の使  
命は半達せられたものと見ても差支あるまい  
しかも聴く力は技術と同じく練習によつて陶  
治する事が出来るの思ふ時、聴き方の訓練亦  
決して忽にすべきではない。

2、身体上の陶冶

- (イ) 耳管の發達
- (ロ) 喉頭の發達
- (ハ) 氣管の發達

唱歌技能を養成することによつて、副次的に  
之等の發達がとげられるわけである。指導者  
はこの身体上の陶冶を目當てに唱歌教授をす

(ロ) 敬禮及着席 教室に入つたならば順次に

着席せしめ、第一舉動にて起立し、第二舉動  
にて敬禮し、第三舉動にて着席させる。(すべ  
て樂器の合圖による)

(ハ) 姿勢 直立の場合は端正にして樂な姿勢  
をとらせる。腰掛の場合は普通教室に於ける  
姿勢に準じ、手は軽く膝の上におかせる。香  
は常に教師の態度に注意させる。但し歌詞を  
提出し又唱歌帳を持たせてそれによつて唱誦  
させる場合は此の限りでない。

(ニ) 動作 快活に落付いて規律正しくあるこ  
と雑音を立て、注意を散漫ならしめるのは最  
もよろしくない。  
聲又は樂器の音には最も注意して能く傾聽す  
ること。

二、基本教材に對する學習

1、基本教材の範圍とその主眼

呼吸練習……空氣の呼吸方法を正しくする  
聲音練習……聲音を美にする

るのではないが、こゝまで考へにおいて注意  
してせねばならぬ。

◎學習態度の訓練

一、一般的學習

1、學習の精神

從來の唱歌學習は學科の性質上、兎角教師の  
活動のみ行はれて、兒童は全く受身の狀態に  
あつた。しかもそれが全く無意的に漫然と行  
はれてをつた様に思はれる。

従つて最も刺戟の強かるべき該科の學習にあ  
たつて、何等の感動もなく、樂譜、樂典の取  
扱ひはされてゐても兒童はちつともそれ等に  
對する理解がない。これでは本科の教授も無  
意味に終らざるを得ない事になる。

もつと本科とのみ限らず、兒童の學習は有意  
的であり、自發的である様にせねばならぬ。

2、學習作法

(イ) 教室の出入 低學年は歩調をマーチに合  
せて靜肅に出入させる。高學年(尋五以上)は  
振鈴直ちに着席させる。

音階練習……音の高低を正確にする  
音程練習……

拍子練習……リズムを正確にする  
聽音練習……高低、長短、強弱、美醜の辨別

讀譜練習……曲譜の讀み方、理解

2、基本練習は要するに歌曲練習の基本をつくり  
準備となるやのである。故に之れが學習はよ  
く其の趣意目的を理解して有意的に行ふ様に  
せねばならぬ。

三、歌ひ方の學習

1、科學的歌誦法

樂譜の示して居る音の高低、長短、強弱を正  
確に唱誦するのであるから、よくその音符の  
示してをる調子拍子に留意し、誤りなく唱誦  
する習慣をつける。

2、曲節的歌誦法

科學的に各音符を正確に唱誦すれば、それが  
一つの樂曲である限り、其の樂曲としての心  
持ちが出る筈であるそれを曲全体として心持  
ちを理解して唱ふのがこの唱法である。

3、審美的歌謡法

發想的の歌謡法といふ。すなはち、歌を歌らしく、歌曲の心持ちを十分あらはして歌ふのである。第一の科學的歌謡、第二の曲節的歌謡を経た結果は是非こゝまで至らしめなくてはならぬ。

この段階では歌曲の理解と相俟つて、心持ちを出すといふ事が大切である。自分の心持ちを歌ふやまれの自己の感情を訴へる心持ちで歌はねばならぬ。

4、個唱

審美的歌謡は齊唱によつてや得られる。否齊唱による美感といふものはある。と同時に個唱によらねば唱ひ得ぬ場合もある、また個唱の價值も存する。故に成るべく個唱を奨励し、單に各個の聲音を安定させるだけの意味でなく、眞に各自の美感を遺憾なく歌ひ出させる事をせねばならぬ。

四、聴き方の學習

によるがよろしい。

兒童相互の個唱、齊唱

蓄音機

音樂演奏會

自然現象

音樂上の諸説話

五、其の他

1、樂器の開放

兒童に樂器を開放して使用させる事は唱歌學習の上に非常な効果のあるものである。音樂を理解する上からも、鑑賞の態度をつくる上からも

であるからせめて高學年の兒童位にでも思つて演奏上の注意を與へて三台程使用させてをる。

2、他教材との聯絡

遊戯  
國語  
修身  
理科

1、唱歌學習に於ける鑑賞の價値は、第一項にも

述べた所であるが眞に聴き味ふ事は自ら歌ふ場合にもまして強烈に感情の働くものである故に唱歌學習の指導は單に歌ひ方の方面のみならず聴き味ふ態度の訓練が餘程重大な意味を持つて来る

2、二様の聴き方

(イ)批判的に聴く場合

唱ひ方の基礎を造る上からも鑑賞力を高むる上からも大切な事柄である。この場合は理解辨別等の知的作用が多く行はれる。

(ロ)享樂せしめる場合

全く對照に自己の感情を汲入してその美にひたらせるのである。従つて兒童にはさうした境涯に入る事の出来る様な訓練をせねばならぬ。それは矢張り不斷の練習にさうした機會を多く與へる事によつて得られるのである。

教師の範唱

樂器の演奏……樂器は成るべく種なもの

3、兒童作曲 等

價値と將來の可能性とは認めてをるが、少くも現在及び近き將來には當校として望みがなない。故に學校は其の方法等に就ても研究をすゝめておくが、實際之れが實施はいつ頃になるか未定である。

4、唱歌帳

(イ)茨城縣教育會選定のもの

(ロ)尋三以上に使用させる

◎唱歌學習の設備

一、現在

1、特別教室……十八坪

(イ)オルガン二台

(ロ)五線黑板一枚

(ハ)音階圖……自製のもの

(ニ)口形圖

(ホ)樂譜掛圖

(ヘ)教壇

(ト)腰掛……二人掛用、脚三例

- (チ) 裝飾のための額面三面
  - (リ) ノートロノーム一台
  - 2、其他
    - (イ) 高女學級に兒童用オルガン二台
    - (ロ) 尋一學級に兒童用オルガン一台
    - (ハ) 蓄音機……本校、教育參考館より臨時借用  
レコードは兒童の家庭から借用することも  
ある
    - (ニ) ビアノ……場合により本校より借用
    - (ホ) 歌詞説明用掛圖、標本類……他教科共用
- 二、將來
- 1、特別教室……二十四坪
    - (イ) ビアノ一臺
    - (ロ) オルガン一臺
    - (ハ) 蓄音機一臺
    - (ニ) 五線黑板一枚
    - (ホ) 五線小黑板一枚
    - (ヘ) 口形圖
    - (ト) 樂譜掛圖
    - (チ) 音階圖

- (リ) 教壇
- (ヌ) 腰掛……二人掛二十一脚三列
- (ル) ガラス戸欄一台……圖書を入れるもの
- (チ) ノートロノーム一臺
- (ワ) 適當な裝飾
- 2、其他
  - (イ) 兒童用オルガン五臺
  - (ロ) 歌詞説明用掛圖、標本類……他教科共用
- 2、附言
 

將來の計劃はかつて改善案に發表したものであつて、大正十五年度師範學校擴張に伴つて、設備される事を期するものである。

○備考 他の教科は紙面の都合により省く。

三、學習訓練の施設

◎我が校に於ける學習訓練施設の一部

(一) 兒童圖書室

  - 1、設置の目的
 

兒童に自學自習の精神を涵養する上から  
兒童に學習材料を提供する上から

兒童に讀書趣味を養成する上から

2、位置  
教員室近くの廊下を利用して設置した。兒童數に對し誠に狹隘であるが現在設備上止むを得ない。

3、圖書室の設備上留意しておる點

1 (室内の設備)  
兒童の讀書欲を誘發するが如き書棚、書架等を

備へ、天井壁間等は眞に子供らしく裝飾し圖書室内の感じをしておちつきある優雅な明るい氣分を起す様な設備をなすことに注意しておる。

2 (書棚)

高さ五尺内外、巾四尺位、硝子張り戸を有し堅牢優美なるもの  
我が校現在の書棚、書架

品目	數量	備考	價格
硝子戸両面書棚	一	縦五尺横四尺	七〇、〇〇
大型書架	三	縦四尺横三尺	二二、五〇
小型書架	一	縦二尺横二尺	二、〇〇
珍袖本書架	三	菊版一段四六版一段	二、〇〇
差し込み用書架	三	縦五尺横四尺	五、〇〇
硝子戸書棚	二	縦三尺横六尺	一〇〇、〇〇
全	一	菊版一段四六版二段	三〇、〇〇

3 (閲覧臺及び腰掛)

閲覧臺は多人數共用のもの。  
腰掛は一人掛が便利なのでなるべくさうして居る。

4 (消毒用手洗器)

圖書室内に消毒用手洗器を備へ、児童をして手先を常に消毒なましめる。

5 (其他)

額面、花瓶等

二、經營法

1、圖書の係

圖書室主任(訓導一名これにあたる)  
圖書係 (若干名 高等科の児童)  
出納、整理、整頓に當らしめる

2、圖書室目録

児童圖書原簿 圖書室主任保管  
児童圖書室備品原簿 圖書室主任保管  
児童圖書案内 圖書室備附

3、圖書及備品の注文購入

圖書室主任は職員、児童圖書係、及び一般児童

4、圖書の選擇  
児童の意見希望によつて備品及び圖書を注文購入する

(1) 趣味的方面

寫眞及び寫眞帖、繪葉書、繪入本、お伽文學類、文集類

(2) 學習資料的方面

課外讀本、傳記、地理、歴史、理科、手工等辭書、年鑑類 其他

(3) 製本堅牢にして優美、頁數あまりに多からざるもの

5、閲覧及び貸出

閲覧時間には児童の隨意とし必要に應じて時間を制限する  
貸出事務は圖書係之にあたる  
貸出用紙(印刷しておく)

貸出	月	日	名
返却	月	日	名
	第	學級	氏名

6、児童圖書案内

書名及び内容檢索目録を作つておき、圖書室内に備へて適室利用させる。  
案内の作製は高等科の児童がこれにあたる。

三、圖書室利用

- 1、圖書案内を圖書室内に備へ置き、児童は自由に圖書室に出入して學習する
- 2、一學級全体圖書室にて學習することもあり又

四、圖書購入の費用

研究すべき處を示して児童各自に研究させることもある。  
圖書購入の費用は年額二百圓、父兄後援會より出す尙児童父兄より寄贈されたものもあり(備考)A本校藏書冊數 約三千冊(購入寄贈を合して)

B、児童圖書費年度別

年 度	圖書費	児童數	児童一人平均額	圖書費累計
大正七年度	三八、〇七	四七七	〇、〇八	三八、〇七
大正八年度	四四、一九	四七一	〇、〇九	八二、二六
大正九年度	四一、五〇	四三四	〇、一〇	一二三、七六
大正十年度	六一、八〇	四八二	〇、一三	一八五、五六
大正十一年度	一九七、八六	四七六	〇、四二	三八三、四二
大正十二年度	二〇〇、〇〇	四七一	〇、四三	五八三、四二
大正十三年度	二〇〇、〇〇	四六一	〇、四三	七八三、四二

五、他圖書館との連絡

- 1、縣立圖書館、巡回文庫の利用

特に児童向の圖書を學校にて貸り入れ児童圖書室に備付けて閲覧させる

2、縣立圖書館にての閲覽

兒童圖書室に備付け得ざる圖書は縣立圖書館に行きて閲覽する様にす。此の場合には豫め閲覽心得につきて理解せしめておく。

3、縣立圖書館書庫參觀(主として高等科の圖書係)

兒童圖書係りをして參觀せしめ、圖書の管理等を了解させる

六、將來の希望

1、圖書費の増額

2、兒童圖書室の設備

(1) 位置

職員事務室に近く、各教室より便利宜い位置にしたいと思ふ

(2) 室内設備

壁面及び天井板の裝飾塗換

圖書係事務臺の設置

手洗所の設置

(3) 備品

額面の増加、柱かけ花瓶の増加、時計

揭示用黑板の設置

圖書借出用カード整理設備

(4) 閱覽臺及び腰掛

共同閱覽卓子、個人用腰掛

(二) 兒童博物館

一、設置

1、目的

學習材料を蒐集陳列して、各教科と連絡せしめ研究させる。

兒童の製作品、成績品の陳列

2、年度

大正十二年度より設置

3、面積。十二坪(三間と四間)戸欄付

4、場所 西舎らどの手工教室

二、陳列品の蒐集

1、兒童の蒐集品、製作品(例へば兒童の手工、休暇中の作品等)兒童の成績品(圖書書方等)等

2、學校備付の器械器具、標本、模型、繪畫、寫真等(全部にあらず)

3、父兄よりの寄贈品、

4、參考館及び家庭よりの借り受け品、

三、博物館の利用

1、博物館内は一般用の場所と、學級用の場所とに区分し、學級用の場所は各學級毎に区分して各學級兒童の成績品、製作品等を陳列す。

2、陳列品には、それぞれ、名稱、説明、及び教科書との關係等を附けおき、兒童が常に博物館に出入して研究する機導く。

3、一學級全体、館内にて學習することもあり、又研究すべき點を示して、兒童各自に研究させることもある。

四、博物館の整理

陳列品を分類し、札貼り、整理する等はなるべく教師指導の下に兒童に當らせる。

(附)尙は大禮紀念教育參考館と連絡を取り常に學者に利用して居る。

(三) 實驗觀察臺

一、設置

1、場所

(1) 事務室と南舎の間の廊下の處、

(2)、各學級の窓際の處(各學級毎)

2、面積

(1)、は幅一尺五寸、長さ三間、二ヶ所

(2)、は幅二尺、長さ三尺

二、利用法

1、實驗、實測、又は觀察を要すべきものを備へ置き學習に利用する

2、兒童用顯微鏡を備へ置き兒童に自由に使用させる

3、水族器を備へ置き、動物の飼育をなさせる。

4、鉢植えの動物の繼續觀察等をなさせる。

(四) 砂場

一、砂場設置

体操場にある砂場以外に、南校舎の間に二坪(一間と二間)の砂場二ヶ所設置した。

之は高等科の兒童が設計をなし、自ら作ったものである。

二、砂場利用

低學年兒童の遊び場所、及び各教科の學習に利用する。例へば算術にて掛目、目方等の實測等



請方にて學習したことを砂場に作り、地理にて各地方の模型等を作ることに利用する。

(備考)

- 1、砂場の周圍に兒童を集める時には二坪の砂場に對して兒童二十人位が適當である。
- 2、將來は砂場を増設する豫定。尙は教室に砂テ

1ブルも作る豫定である。

(五) 校外教授

一、校外教授の重視

校外に於て直接經驗をさせることは、兒童に觀察力を養成して學習態度を馴致する上から、又自然を愛好する心情を涵養する上等から見て最も大切なることである。

二、校外教授と他教科との連絡

校外にて直觀することは、直觀することに重大なる價值あり、使命あることは勿論であるが、綴方、圖書、地理、理科等の教授に密接な關係があるものであるから常に此等の教科と關係つけてやつて居る。即ち

綴方 校外にて文も綴らせる

5、勤勞を善く習慣を養ふ。

二、學校園の區分

1、教材園

教材園は學習に必要な實驗觀察の材料を供給する所であつて、ここへ植えられてあるものは主として理科の教材、及び國語讀本等にあらはれたる植物である。これが經營は各學級交代して共同的になさしめる。

2、學級園

一學級毎に一ヶ所づつの園地を與へて經營させておく。そして各學級に於ては各自童に園地を所有させて自由に經營させ種々考案させる様にしておる。

(七) 學藝會

一、我が校に於ける學藝會は

學校全体としての學藝會、年一回

學級學藝會 每學期一回

學藝會は兒童の學習上より見て、又、家庭との連絡上より見て大切なるものであるから、重く見たらと思ふ。

圖畫 校外の寫生

地理 校外で地理事項の學習

理科 校外で理科の學習

尙歴史請方、算術等の學習もなす。

三、工場官衙學校等の見學

讀本其の他の教科と關係して、尋常科に於て、水戸市内の次の處を見學することになつてをる  
停車場、郵便局、電話交換局、度量衡檢定所、縣廳、議事堂、物産陳列館、ガラス製造所、新聞社、銀行、測候所、彰考館文庫、兵營、農事試驗場、縣立圖書館、參考館、官立學校、製氷會社、機關庫、製紙工場、製材工場、電氣會社、瓦斯會社。

(六) 學校園

一、目的

- 1、實物の實驗、觀察が容易である。殊に繼續觀察が出来る。
- 2、最も善き、直觀材料を與へる。
- 3、考案の力を養ひ觀察力を助長する。
- 4、美的觀念を養ふ。

二、學級學藝會

學藝會はなるべく自主的になさしめる。

學級學藝會ならば

1、學藝會に就いて相談會

兒童に學藝會に就いての相談會を開かしむ。

2、練習會

なるべく自主的になさしむ。

3、會場の裝飾

なるべく兒童に裝飾させる。

4、招待狀

尋常科二年以上は兒童に招待文を綴らせ封筒

に入れて各先生方、各學級へ出す。

5、種目、なるべく兒童に選定させる。

6、プログラム、なるべく兒童に作製させる。

7、實演

學藝會をなすに就ての準備、開閉會の辭、會

の進行等は兒童になさしめる。

8、學藝會に就ての批判

學藝會が終つたなら兒童相互に批判をなさしめる。

9、綴方。

學級會について其の様子、批判などを文に綴らせる。

八) 自治會

一、自律自治の精神を訓練せんが爲めに自治會を施設して居る。

二、學級自治會

1、組織 尋常科第三年生より各學級に於て之を組織す。

2、役員 會長(級長)一名 副會長(副級長)一名

七二、學習訓練上の主要問題

目次

茨城縣女子師範學校訓導

濱口造酒之介

一、學習訓練の基礎

1、學習訓練の意義

2、學習動機と學習訓練

二、學習訓練の方法

1、學習作用と學習訓練

2、學習能力と學習訓練

3、學習材料と學習訓練

4、環境と學習訓練

級役員若干名。

3、役員の選定法 兒童役員は選舉による。

4、役員任期 役員任期は通常一學期間とする。

5、開會時期 例會は毎週一回開催するを本休とする。

6、事業

相談、談話、唱歌、動作、成績品發表等

三、役員會議

各學級役員は、連合の役員會議を開き、學校全体の自治につき協議する。

- 5、學習形式と學習訓練
- 9、學習法と學習訓練
- 7、學習訓練の到達點
- 8、學習訓練の障害

一、學習訓練の基礎

1、學習訓練の意義

學習訓練と意義を明にしやうとするならば、學

習及び訓練の意義を明にして置いて、學習訓練と熟した場合の意義を更に考察せねばならない。學習に就いては随分多くの定義や説明がある。有機體が外界の刺激に反應して起る處のあらゆる變化であるといふ様に之を生物學的に解して學習は廣く意識界を超越して居るものであると論定するかと思ふと、自力的な價值ある認識をすることであると、稍々哲學的に解して之を意識内の問題として取扱つて居る者もある。或は陶冶活動をその主體の方面から言へば教育となり、客體の方面から見れば學習作業となるといつたやうに、教育の反面これ即ち學習であると説いて居るかと思ふと、知識技能を收得し且つ表現することであるといふやうに、教授の反面即ち學習であると説明して居ることもある。然し此等の定義説明は、何れも眞であり、偽であるど定めてしまふ譯には行かない。何れも眞であり事實である。唯學習が或制限を加へられた場合を幾段階かに分けて考察したに過ぎない。私は更に訓練の意義を究めねばならない。私の

信する所によると、訓練とは畢竟實踐實行に即して教育の目的を達せんとする方法で、單り意志活動を以て要件とするばかりでなく、實に情操陶冶、觀念養成、身体修練等が必要條件となつて來るのである。然しながら實踐實行に即するといふ以上は、何處迄も意志活動を以て中心問題とせねばならないことで、意志の活動を量的に又質的に向上せしむることは、一層訓練に成功する上に最も大切な事柄である。纏つて之を陶冶の内容から見れば、眞の生活にも、美の生活にも、乃至身体的にも勿論訓練といふ仕事は存在する譯である。單に善の生活に於てのみ訓練といふ仕事を解して居つたとするならそれは偏見であつたといはざるを得ない。かくの如く解した訓練と一知識技能を收得し且表現すること」と解した所の學習とを熟して、研究の便宜上此處に學習訓練の意義を定めて置きたいと思ふ。即ち學習訓練の意義を更に簡約すると、知識技能を收得し且つ表現する態度を習慣づけることになるのである。

## 2、學習動機と學習訓練

學習作用は本能に立脚して居るもので、其の基礎實に鞏固なものである。吾々の日々扱つて居る兒童が、教師の手を放れては何事もなし得ない、少しも價值行爲が出来得ないと考ふるならば、結局學習作用といふことを、兒童の本性に認めないことで、其の罪大なるものがあると言はざるを得ない。已に兒童は生かんとして無爲の状態にはあり得ないものである。唯其の活動を一層價值化せんが爲に教育作業を必要としよりよく生かさんが爲に教師の指導を要する譯である。

然らば其の學習を價值化し理想化するには如何にすべきであらうか。これ學習訓練上の重要問題である。其の一は學習精神を高潮させること換言すれば學習の動機を愈々旺盛ならしむること、其の二は學習態度を習慣づける方法を考へることである。

學習精神を旺盛ならしむるには如何にすべきであらうか。此の問題を明にしやうとするならば

くのである。學習に於ては工夫と努力と反復とが成べく自律的に行はるゝことを望むのであるが、それは興味や必要感を適切な方法によつて、旺盛ならしむるか、或は自覺の域に達せしむる以外道はないのである。かくの如くして絶えざる工夫は常に新らしき動機や態度を生じものであるが、努力は實に動機と實行との連鎖であり、又反復の動因である。動機に努力が加つて實行となり、實行に努力が加はつて行動が反復せられ、この反復によつて自然に或態度を生み、然して刺激に對する反應が愈々進展して行くのである。

## 二、學習訓練の方法

### 1、學習作用と學習訓練

- (1)、學習作用には五つの具備條件がある。即ち、  
外から働きかける作用ではないこと。
- (2)、學習作用は選擇作用、即ち新境遇に對して有効な反應を選択する作用であること。
- (3)、學習作用は保留作用である。新に習得した

學習動機は何によつて生ずるものであるか、を考察せねばならない。學習動機に就いては種々の説明もあるけれども、大方學習せんが爲の學習といふやうな唯單なる活動の本性に基くか、乃至は興味が必要か、或は人格的自覺に基くか、其の何れかである。然らば即ち兒童本來の活動性を培へ、或は學習に興味を起させ、又は學習の必要感を高め、乃至人格的に自覺せしむることは學習精神をより旺盛ならしむる根本條件であると言はざるを得ない。然して學習動機は漸次進歩するものであるが、吾々は遂に其の動機をして、人格的自覺の域に達せしめねばならない。然しなから單なる學習精神は、それ自身決して絶對の價值を持つものではない。此の精神に工夫と努力と反復とが加はるることによつて、始めて良好なる學習態度が習慣づけられるのである。工夫と努力とは態度に關する事柄であり、努力と反復とは習慣に關する事柄である。態度に努力と反復とが加はつて漸次に或習慣を生み習慣に工夫と努力が加はつて漸次態度が進化して行

反應を何等かの形によつて永く保留し、將來の反應に資するものであること。

- (4)、學習作用は創造作用である。新經驗は單に保留せらるゝ丈ではない。之によつて經驗が創造せらるゝ作用であること。

- (5)、學習作用は人の本性又は本能的傾向に基くものであること。

これである。此等の條件を通じて考へて見ると學習訓練として最も大切に培つて行かねばならない問題は、自發的自覺的創造的であるといふことである。此等の問題は從來の教授とても決して顧みなかつたことではないけれども、既成の文化を傳達するといふことに餘りに急であつた爲に、幾分等閑視された傾向はある。勿論陶冶活動としての學習である以上、其處に整理された環境があり、補導者のあることは考へなければならぬことであるけれども、補導者としての活動を第一義として、自發的自覺的創造的でないならばならない學習本來の作用を等閑にするといふのは、學習其のものに徹する以所ではな

い。吾々は日々の学習生活に於て、兒童の自發的自覺的創造的活動を尊重し、他律的因襲的態度を改造するやうせねばならない。しかしながら、此の自發的創造的態度も決して速成を望んではならない。訓練は畢竟反復によつて或方向の意志活動を習慣づけることに過ぎないので、其の意志活動の方向に急激な變化のあるといふことは、之を習慣づけることに於て非常な困難があり危険が伴ふからである。

### 2、學習能力と學習訓練

此處に所謂學習能力とは、直觀注意、記憶、想像、思考等知識に關する心力と、感情及び意志等を指すものである。直觀は認識の出発點ともいふべく、注意は意識の集注であり、其の活動はやがて意識の全範圍に影響を及ぼすべく、記憶に於ける把住と保持とは、實に學習作用の可能となる基礎條件とも考へ得べく、學習が加構創造を必要とする以上、想像は學習に眞生命を與ふるものといふべく、思考に至つては、概念教材、法則教材等に對する動因であるといふこと。

直觀を有の儘にすること。

あらゆる感官を通して、直觀を迅速正確に行ふべきこと。

内部直觀を獎勵すること。

### 3、記憶

記憶は一般に論理的たるべきこと。

教師の記憶型を兒童に強ふべからざること。

記憶必要の程度を記憶に先だつて考ふべきこと。

### 4、想像

想像の機會を學習に利用すべきこと。

能動想像の練磨に一層注意すべきこと。

### 5、思考

獨立の推理判斷を重視すべきこと。

歸納推理と演繹とは共に併せて練習すること

### 3、學習材料と學習訓練

學習材料に就いては、其の選擇標準を心理的基礎即ち兒童の興味を持つ材料中より選擇すべしとなす者と、論理的基礎即ち教科本質上の要求と社會生活上の必要とに立脚して選擇すべしと

とが出来る。更に適度の感情伴至によつて意識活動が催進せられ、興味の伴へる學習が常に活潑有効に行はるるものであり、尙教育思漸中筋肉運動主義や、活動主義に見逃すべからざる真理の存在することを認むる時、感情及び意志の學習上忘るべからざる部分を占むることも明かである。然るに是等心力の活動は前に述べたやうな意味に於て、兒童には未だ有力なる發展を遂げて居らない。之を發展させるには凡そ次のやうな諸點に注意せねばならない。

### (1)、注意

有意注意の練習に力め、遂に學習に對し第三次の無意注意に迄到達せしむべきを期すること。

其の對象に意識を集注せしむると共に對象外のものに對する意識を抑制すべき習慣を養ふこと。

注意の集中と分配とを適當ならしむること。

### (2)、直觀

直觀の機會を成るべく多く與ふること。

なす者との二つがある。これは一方に偏すべきものではない。勿論理想的には兩者遂に合致すべき性質のものである。學習といふことが、理論上實際上教授といふことよりも、自由的個人的に解せらるゝ結果、材料選擇に迄淺薄なる興味本位に決せらんとする傾向あるは遺憾のことである。要求乃至必要が興味化せられ、興味ある。材料が要求或は必要に合致する點に迄達することが、やがて學習訓練上に大切なる使命が存する所以である。

材料に就いては尙其の聯合統合に注意せねばならない。讀方の中にも地理があり理科がある。歴史の中にも修身があり地理がある。之を實際の生活に見ても純粹に讀方のみをして居る者もある、又地理のみの生活も出来ない、分科混然一体をなす處に眞の人間生活があり徹した學習が出来るのである。學習訓練には其の意が體得されて居らねばならない。讀方學習に於て地理に一瞥も與へないといふことや、歴史の學習に修身の方面に一顧を煩はさないといふことは、